救急処置室（ER）

日付	場所	分類	形式	参加者	名称	演題名／内容
4月6日	院内	インスト	コース	鈴木、金原、山田、東郷、尾畑	ICLS	ICLS
4月8日	院内	講師	講義	金原	研修医勉強会	ER Boot Camp
4月15日	院内	講師	講義	金原	研修医勉強会	ER Boot Camp
4月22日	院内	講師	講義	金原	研修医勉強会	ER Boot Camp
4月22日	院内	講師	講義	東郷	研修医勉強会	
4月25日	院内	サポート	カンファ		岩田教授カンファ	藤田医科大学 岩田教授 救急カンファ
5月16日	院内	サポート	カンファ		岩田教授カンファ	藤田医科大学 岩田教授 救急カンファ
5月30日	院内	講師	講義	金原	院内講習会	造影剤アナフィラキシー対応講習
6月20日	院内	サポート	カンファ		岩田教授カンファ	藤田医科大学 岩田教授 救急カンファ
7月2日	院内	講師	講義	山田	研修医勉強会	挿管
7月12日	他院	インスト	コース	山田、東郷	PTLS	外傷初期診療コース
7月17日	院内	症例発表	カンファ	山田、尾畑	救急隊症例検討会	近隣消防とのカンファ
8月22日	院内	サポート	カンファ		岩田教授カンファ	藤田医科大学 岩田教授 救急カンファ
8月26日	院内	講師	講義	金原	研修医勉強会	外傷初期診療PS
9 月13-14日	他院	インスト	コース	金原	日本ACLS協会	ACLS
9月26日	院内	サポート	カンファ		岩田教授カンファ	藤田医科大学 岩田教授 救急カンファ
10月23日	横浜	インスト	コース	金原	NHO 良質な医師を育てる研修	外傷／内因性
11月8日	金沢	学会発表	ポスター	金原、山田	第57回 国立病院総医学会	合計4 演題　金原／山田／稲森／森本
11月8日	金沢	座長	ポスター	金原	第57回 国立病院総医学会	ポスター108　救急・集中治療1
11月10日	紙面	雑誌	誌面	金原	ISBN978-4-498-11730-3	**利尿薬の考え方，使い方**
11月18日	院内	講師	講義		研修医勉強会	外傷初期診療SS
11月21日	院内	講師	講義	東郷	研修医勉強会	
11月28日	院内	サポート	カンファ		岩田教授カンファ	藤田医科大学 岩田教授 救急カンファ
12月12日	院内	サポート	カンファ		岩田教授カンファ	藤田医科大学 岩田教授 救急カンファ
12月19日	愛知	学会発表	講演	金原	第13回東三河IVR検討会	孤独のIVR season3
12月25日	院内	講師	講義	尾畑	研修医勉強会	
2月7日	他院	インスト	コース	山田、東郷、尾畑	PTLS	外傷初期診療コース
2月9日	愛知	学会発表	講演	金原	Stryker 腹部IVR webinar	続発する十二指腸潰瘍出血が止まりません
2月12日	院内	講師	講義	尾畑	研修医勉強会	
2月13日	院内	症例発表	カンファ	東郷、尾畑	救急隊症例検討会	近隣消防とのカンファ
3月6日	院内	講師	講義	金原	研修医勉強会	大動脈解離
3月8日	愛知	医療班	医師	東郷	名古屋ウィメンズマラソン救護班	
3月20日	院内	インスト	コース	金原、山田、東郷、尾畑	T＆A	ER初期診療コース

まとめ

救急科専門医取得	1	名
藤田医科大学 岩田教授 救急カンファ	7	回
研修医勉強会　講師・開催	11	回
新１年目研修医 ICLS講習会　開催・講師	1	回
PTLS(外傷初期診療コース)講習会　講師	2	回
NHO 良質な医師を育てる研修　講師	1	回
T&Aコース　開催・講師	1	回
名古屋ウィメンズマラソン救護班	1	回
第28回日本救急医学会中部地方会学術集会 ポスター発表	1	演題
第57回 国立病院総医学会 ポスター発表	4	演題
第57回 国立病院総医学会 ポスター座長	1	回
ACLSコース　講師	1	回
誌面発表	1	回
講演	2	回

救急救命センター

日時	発表者	演題名	学会名	場所
2025/11/7〜11/8	森田恭成	早期リハビリテーションにおける多職種連携と医師の役割	第79回国立病院総合医学会	金沢
2025/11/28〜11/29	田中ひまり	アドレナリンの持続投与を要する抗原不明の難治性アナフィラキシーに対し、自己免疫性プロゲステロン皮膚炎を疑いGnRH阻害薬を使用した一例	第28回日本救急医学会中部地方会学術集会	金沢
2026/3/5〜3/7	山田真生	当院での小柄体型患者への気管Yステント留置術時のバックアップVV-ECMO施行例	第53回　日本集中治療医学会学術集会	横浜

手術室

院外研修受講状況

（機構・病院主催研修受講状況）

No	研修名	主催	研修期間	受講者	Web●	修了証の有無
1	令和6年度独立行政法人国立病院機構東海北陸グループ　助産師・看護師実習指導者講習会	独立行政法人国立病院機構東海北陸グループ	2025/11/10-12/5	石原友香		●
2	QC手法研修	独立行政法人国立病院機構東海北陸グループ	2025/12/12	稲垣亜弥		
3	クリニカルパス研修	独立行政法人国立病院機構東海北陸グループ	2025/3/4	形屋紘一		

院外研修受講状況

（自治体・学校・看護協会主催研修受講状況）

No	研修名	主催	研修期間	受講者	Web	修了証の有無
1	WAFAコース	Wilderness　Medical Associntes	R7.11.14～11．16	石山　傑		●
2	PTLS講習会	名古屋掖済会病院	2026/2/7	石山　傑		●

院外研修受講状況

（各種学会主催研修受講状況）

No	研修名	主催	研修期間	受講者	Web	修了証の有無
1	麻酔セミナー	日本手術看護学会　東海地区	2025/6/21	市山　明日香		
2				志村　瑠海		
3				村瀬　薫		
4	第65回日本手術学会東海地区大会	日本手術看護学会　東海地区	2025/11/8	新豊　由里		
5				矢萩　裕美子		
6				形屋　紘一		
7	新人セミナー	日本手術看護学会　東海地区	2025/9/27	村井　綾香		
8						
9	手術体位セミナー	日本手術看護学会　東海地区	2025/12/20	市山　明日香		
10				村瀬　薫		
11						
12	手術管理　中堅者セミナー	日本手術看護学会　東海地区	2025/2/21	村瀬　薫		

研究活動

【学会発表】

	氏名	演題名	学会名	月日	Web●
1	三島　真実	手術室で求められる教育とは～器械出し指導時における教育対象の思いを知る～	第79回　国立病院総合医学会	2025/11/7	
2	松尾　英朗	手術室が抱く認知症高齢者看護の困惑感	日本手術看護学会　東海地区	2025/11/8	

内視鏡診療部

【論文】

	著者	題目	掲載誌 巻（号）：頁	発行年月
1)	Chaddha U, Agrawal A, Murgu S, Ghori U, Trias-Sabria P, Ortiz-Comino R, Dutau H, Freitag L, Gasparini S, Lee P, Dooms C, Trisolini R, Madariaga MLL, Li SB, Zuccatosta L, Herth F, Saka H, Fielding D, Oki M, Rosell A.	World Association for Bronchology and Interventional Pulmonology (WABIP) Guidelines on Airway Stenting for Benign Central Airway Obstruction.	Respirology. 2025;30(7):587-604	2025.7
2)	Morikawa K, Takashima Y, Oki M, Tsuzuku A, Murakami S, Minami D, Fujii S, Shinagawa N, Asano F, Nakamura S, Sato Y, Ueda Y, Suzuki F, Yokose T, Tanabe K, Mineshita M.	Prospective multicenter validation of a next-generation sequencing panel using cytology specimens for lung cancer: cPANEL.	BMC Cancer. 2025;25(1)	2025.10
3)	Miyake K, Oki M, Suzuki H, Saka H, Sasada S, Okamoto N, Imabayashi T, Kogure Y, Shiroyama T, Hirata H, Nagatomo I, Takeda Y, Kumanogoh A.	Balloon dilatation for bronchoscope delivery: first-in-human trial of a novel technique for peripheral lung field access.	Thorax. 2025;81(1):33-41	2025.12
4)	Kobayashi T, Hisamatsu T, Motoya S, Fujii T, Kunisaki R, Shibuya T, Matsuura M, Takeuchi K, Hiraoka S, Yasuda H, Yokoyama K, Takatsu N, Maemoto A, Tahara T, Tominaga K, Shimada M, Kuno N, Cavaliere M, Ishiguro K, Fernandez JL, Hibi T.	Week 2 remission with vedolizumab as a predictor of long-term remission in patients with ulcerative colitis: a multicenter, retrospective, observational study	Intest Res. 2026 Apr;24(2):293-305.	2025.7.
5)	Kobayashi T, Hisamatsu T, Motoya S, Matsuura M, Fujii T, Kunisaki R, Shibuya T, Takeuchi K, Hiraoka S, Yasuda H, Yokoyama K, Takatsu N, Maemoto A, Tahara T, Tominaga K, Shimada M, Kuno N, Cavaliere M, Ishiguro K, Fernandez JL, Hibi T.	The duration of prior anti-tumor necrosis factor agents is associated with the effectiveness of vedolizumab in patients with ulcerative colitis: a real-world multicenter retrospective study	Intest Res. 2026 Apr;24(2):281-292.	2025.6.
6)	Hisamatsu T, Kobayashi T, Motoya S, Fujii T, Kunisaki R, Shibuya T, Matsuura M, Hiraoka S, Takeuchi K, Yasuda H, Yokoyama K, Takatsu N, Maemoto A, Tahara T, Tominaga K, Shimada M, Kuno N, Fernandez JL, Hirose L, Ishiguro K, Cavaliere M, Hibi T.	Real-World Effectiveness and Safety of Vedolizumab in Patients ≥ 70 Versus < 70 Years With Ulcerative Colitis: Multicenter Retrospective Study	J Gastroenterol Hepatol. 2025 Jun;40(6):1435-1445.	2025.5.
7)	梅村 卓磨，末永 雅也，細田 和貴，多代 充，近藤 尚，羽田 拓史，木部 栞奈，山家 豊，竹田 直也，島田 昌明，村上 善子，竹田 伸	術前診断で神経内分泌腫瘍との鑑別が困難であった膵腺房細胞癌の1例	膵臓 40:85-92,2025.	2025.10.
8)	島田 昌明	下痢.	今日の治療指針2026年版，医学書院，東京，2026，539-541.	2026.1.

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月（場所）
1)	Torii A, Oki M, Ohama T, Shinohara Y, Sano M, Kogure Y, Kitagawa C, Saka H.	Treatment outcomes of airway stents for airway-esophageal fistulas.	ATS 2025	2025.5 (San Francisco, USA.)
2)	Miyake K, Oki M, Suzuki H, Saka H, Sasada S, Okamoto N, Imabayashi T, Kogure Y, Shiroyama T, Hirata T, Nagatomo I, Takeda Y, Kumanogoh A.	Balloon dilatation for bronchoscope delivery: First-in-human trial of a novel technique for ultra-peripheral lung field access.	ATS 2025	2025.5 (San Francisco, USA.)
3)	Oki M.	EBUS for PPLs diagnosis	APCB 2025	2025.6 (台北)
4)	Oki M.	Ultrathin bronchoscopy for PPLs diagnosis	APCB 2025	2025.6 (台北)
5)	Shinohara Y, Imaeda Y, Watanabe H, Ohama T, Torii A, Sano M, Kogure Y, Kitagawa C, Oki M.	A Linear Metallic Foreign Body Penetrating from the Esophagus into the Trachea Removed by Flexible Bronchoscopy.	APCB 2025	2025.6 (台北)
6)	Torii A, Oki M, Ohama T, Shinohara Y, Sano M, Kitagawa C, Saka H.	A case with extensive airway stenosis treated by triple Y-stenting.	APCB 2025	2025.6 (台北)
7)	Oki M.	Clinical utility of new scopes technique.	The 1st Southern Interventional Pulmonology Forum	2025.7 (広州、中国)
8)	Kurosaki T, Suzuki S, Watanabe Y, Kenmotsu H, Itoh S, Yamaguchi M, Shiono A, Suzuki T, Yokoyama T, Toi Y, Tanaka H, Oki M, Tsuda T, Ichihara E, Azuma K, Tanaka H, Arai R, Uchibori K, Miyauchi E, Katayama R, Hayashi H.	Immune-related gene expression profiling and ALK-TKI efficacy for patients with ALKrearranged non-small-cell lung cancer: exploratory analysis of ALCURE study.	WCLC2025	2025.9 (Barcelona, Spain.)
9)	Oki M.	Evolution of EBUS-TBNA equipment.	CTS2025	2026.9 (Changsha, China)
10)	Oki M.	EBUS-UT for diagnosis of peripheral pulmonary lesions.	CTS2025	2026.9 (Changsha, China)
11)	Oki M.	Bronchoscopic intervention for central airway obstruction due to lung cancer.	KALC2025	2025.11 (Seoul, Korea)
12)	鳥居厚志、沖 昌英、大濱敏弘、篠原由佳、佐野将宏、小暮啓人、北川智余恵、坂 英雄.	気管・気管支食道瘻患者における気道ステント留置術の有効性の検討.	第65回日本呼吸器学会学術講演会	2025.4 (東京)
13)	白石祥理、坂 英雄、北川智余恵、佐藤悠城、山口正文、菅原俊一、沖 昌英、西野和美、細井慶太、鈴木慎一郎、久保昭仁、田幡江利子、吉村健一、安藤昌彦、中川和彦、山本信之、岡本勇.	がん性胸膜炎に対する胸膜癒着療法のランダム化比較第3相試験：滅菌調整タルク vs. OK-432, WJOG8415L（J-PLEURA）.	第65回日本呼吸器学会学術講演会	2025.4 (東京)
14)	沖　昌英.	気道狭窄に対するステント留置術.	第37回気管支鏡セミナー	2025.6 (仙台)
15)	沖　昌英.	肺癌診断における1.1mmクライオプローブを用いたクライオ生検.	第48回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2025.6 (仙台)
16)	沖　昌英.	気道ステント治療の現状と今後の展望.	第48回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2025.6 (仙台)
17)	鳥居厚志、大濱敏弘、篠原由佳、佐野将宏、小暮啓人、北川智余恵、坂　英雄、沖　昌英.	広範な気道狭窄にtriple Y-stentを行った一例.	第48回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2025.6 (仙台)

18)	大濱敏弘、沖　昌英、鳥居厚志、篠原由佳、佐野将宏、小暮啓人、北川智余恵.	複数回の気管支鏡検査で診断に至らず外科的肺生検を行った症例の検討.	第48回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2025.6 (仙台)
19)	坂　英雄.	軟性気管支鏡の現在と近未来.	第48回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2025.6 (仙台)
20)	三宅浩太郎、沖　昌英、鈴木秀和、坂　英雄、笹田真滋、岡本紀雄、今林達哉、小暮啓人、白山敬之、平田陽彦、長友　泉、武田吉人、熊ノ郷淳.	バルーン併用気管支鏡送達法（BDBD法）：First-in-human trial の報告.	第48回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2025.6 (仙台)
21)	高濱　誠、臼井実男、沖　昌英、坂　英雄、佐藤賢、新納英樹、高島雄太、野津田泰嗣、半田　寛、姫路大輔、古川欣也.	気道ステント診療ワーキンググループの活動報告.	第48回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2025.6 (仙台)
22)	鳥居厚志、小暮啓人、今枝陽、渡辺寛仁、大濱敏弘、篠原由佳、佐野将宏、北川智余恵、沖　昌英.	セルペルカチニブでGrade4の血小板減少を呈した肺腺癌術後再発の１例.	第127回日本肺癌学会中部支部会	2025.9 (三重)
23)	鳥居厚志、今枝陽、渡辺寛仁、大濱敏弘、篠原由佳、佐野将宏、小暮啓人、沖昌英.	気管腺嚢胞がんに対する気管分岐部形成術および術後放射線治療後気道狭窄を繰り返す一例.	第29回呼吸器インターベンションセミナー	2025.10 (姫路)
24)	坂　英雄、沖　昌英.	悪性気道狭窄に対する治療開発.	第66回日本肺癌学会学術集会	2025.11 (東京)
25)	森川　慶、高島雄太、村上修司、安部貴志、都竹晃文、沖　昌英、坂口　直、藤井慎嗣、品川尚文、浅野文祐、中村誠二、佐藤慶治、横瀬智之、峯下昌道.	気管支鏡洗浄液を用いた高感度肺がんマルチ遺伝子NGSパネルの有用性の多機関検証試験（cPANEL2）.	第66回日本肺癌学会学術集会	2025.11 (東京)
26)	沖　昌英.	クライオ生検のコツと最新の話題.	第66回日本肺癌学会九州支部学術集会 第49回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会	2026.2 (久留米)
27)	野口 友佑, 近藤 尚, 久野 友里恵, 宇仁田 慧, 浦田 登, 齋藤 雅之, 村山 睦, 島田 昌明	出血を契機に診断された胃血管腫の一例	第142回 日本消化器病学会東海支部例会	2025.6.
28)	島田 昌明, 村山 睦, 齋藤 雅之, 近藤 尚, 浦田 登, 宇仁田 慧, 久野 友里恵	消化管診療の課題と解決法　当院におけるコロナ禍前後の腸管洗浄剤についての検討ピコスルファートナトリウム水和物・酸化マグネシウム・無水クエン酸配合剤の果たす役割	第142回 日本消化器病学会東海支部例会	2025.6.
29)	榊原 祐子, 桑井 寿雄, 加賀谷 尚史, 間部 克裕, 高橋 康雄, 久保 公利, 渡邉 典子, 濱田 博重, 豊川 達也, 万波 智彦, 藤本 愛, 林 亨, 勝島 慎二, 神田 暁博, 斎藤 裕樹, 荒 誠之, 島田 昌明, 藤井 宏行, 中水流 正一, 原田 直彦	消化器内視鏡洗浄の標準化を目指した洗浄工程の見直しに関する多施設共同研究	第109回 日本消化器内視鏡学会総会（JGES）	2025.4.

内視鏡診療部

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月（場所）
1)	浅田　瞳	手指衛生遵守率向上に向けた取り組み～感染管理認定看護師による直接観察指導の効果～	第79回国立病院総合医学会	2025.11（金沢）
2)	木下　紀道	CAUTIサーベイランス結果の早期フィードバックによる指標改善：神経内科病棟におけるICT介在型多職種協働効果の検証	第19回 日本医療マネジメント学会愛知県支部学術集会	2025.11（愛知）
3)	木下　紀道	COVID-19発生初期に看護師長のコミュニケーションが看護師の精神的エンパワメントに与えた影響	第45回日本看護科学学会	2025.12（新潟）

感染制御対策室

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月（場所）
1)	浅田　瞳	手指衛生遵守率向上に向けた取り組み～感染管理認定看護師による直接観察指導の効果～	第79回国立病院総合医学会	2025.11（金沢）
2)	木下　紀道	CAUTIサーベイランス結果の早期フィードバックによる指標改善：神経内科病棟におけるICT介在型多職種協働効果の検証	第19回 日本医療マネジメント学会愛知県支部学術集会	2025.11（愛知）
3)	木下　紀道	COVID-19発生初期に看護師長のコミュニケーションが看護師の精神的エンパワメントに与えた影響	第45回日本看護科学学会	2025.12（新潟）

医療相談室・がん相談支援センター

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月 (場所)
1)	瀬口理恵	外来及び小児周産期ソーシャルワークチームの活動～各分野の活動と令和8年度診療報酬改定に向けて～	第73回日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会	2025.6 (三重)
2)	橘延之	救急外来における身元不明患者の未収金問題とMSWの役割～警察が関与した死亡事例を中心に～	第20回愛知県医療ソーシャルワーカー協会学会	2026.2 (豊橋)
3)	瀬口理恵	当院の医療社会事業委員会48年間の歩みとこれからの展望～ソーシャルワーカーの組織体制強化のために～	第79回国立病院総合医学会	2025.11 (金沢)
4)	橘延之	MSWによるがん患者の在宅退院援助の意義について－退院時共同指導料の実績と再入院率に見る効果検証－	第79回国立病院総合医学会	2025.11 (金沢)
5)	明神麻歩	MSWによる外来がん患者の在宅療養援助の現状と特徴－外来がん患者在宅連携指導料算定の取り組みを通して－	第79回国立病院総合医学会	2025.11 (金沢)
6)	瀬口理恵	急性期病院MSWが担う終末期援助の一例～身寄りの無いがん患者へのMSW援助シャドウワークの関係性～	第7回日本緩和医療学会東海北陸支部	2025.9 (岐阜)
7)	瀬口理恵	「つながる」が新たな地域医療構想を拓く～MSWのネットワーク機能を活かしたオンサイト型多職種研修の実践報告～	第19回日本医療マネジメント学会愛知支部	2025.11 (名古屋)
8)	明神麻歩	「医療ソーシャルワーカーによる身寄りのない高齢患者の意思決定支援の在り方－判断能力のある方への課題と支援－	第48回死の臨床研究会学術大会	2025.11 (岩手)

腎臓内科

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月（場所）
1)	高見徳人	Nutritional risk index for Japanese hemodialysis patients (NRI-JH) による栄養評価における血漿代謝物プロファイルの検討	第70回日本透析医学会学術集会・総会	2025/6/27（大阪）
2)	山森惇士	テトラサイクリン系抗菌薬にアレルギーを有し、治療に難渋した日本紅斑熱患者の一例	日本内科学会第258回東海地方会	2026/2/15（名古屋）
3)	山森惇士	A CACE OF REFEEDING SYNDROME TREATED THROUGH INTERDISCIPLINARY COLLABORATION BETWEEN NEPHROLOGISTS AND DIETITIANS	world congress of nephrology 2026	2026/3/28（横浜）

膠原病内科・リウマチ科

【論文】

	著者	題目	掲載誌 巻（号）：頁	発行年月
1)	Oka S, Higuchi T, Shimada K, Fujimori M, Hashimoto A, Komiya A, Saisho K, Yoshikawa N, Suzuki M, Matsui T, Fukui N, Migita K, Tohma S and Furukawa H	Anti-Porphyromonas gingivalis lipopolysaccharide antibody in rheumatoid arthritis patients with emphysema.	Front. Med. 12:1654271. doi:10.3389/fmed.2025.1654271.	22-Sep-25
2)	Takashi Higuchi1, Shomi Oka1,2, Kota Shimada3,4, Shinichiro Tsunoda5,6, Satoshi Ito7, Misuzu Fujimori8, Tadashi Nakamura9, Michita Suzuki10, Koichiro Saisho11,12, Satoshi Shinohara13, Toshihiro Matsui2,3, Kiyoshi Migita14,15,16, Shouhei Nagaoka17, Shigeto Tohma1,2 and Hiroshi Furukawa1,2	Lengthened telomere length in peripheral blood leukocytes in patients with rheumatoid arthritis complicated with airway disease.	BMC Rheumatology. 2026;10:6. DOI: 10.1186/s41927-025-00605-9.	16-Dec-25
	Makoto Ito1,2 Yasushi Murakami3 Michita Suzuki4 Takahiko Yasuda5 Norio Takagi	VEXAS Syndrome Presenting With Pleuritis	Clinical Case Reports, 2025; 13:e71590 https://doi.org/10.1002/ccr3.71590	2-Dec-25

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月 （場所）
1)	高野杏子	癌性髄膜炎を伴ったIgG4関連疾患の一例	第69回日本リウマチ学会総会・学術集会	2025/4/25 （福岡）
2)	小嶋俊太朗	不明熱と十二指腸潰瘍で発症した顕微鏡的多発血管炎の一例	第69回日本リウマチ学会総会・学術集会	2025/4/25 （福岡）
3)	水谷有輝	嚥下機能低下を呈したが免疫抑制薬治療およびのリハビリを行いの下機能が改善した抗TIF1-r抗体陽性の皮膚筋炎の2症例	第69回日本リウマチ学会総会・学術集会	2025/4/24 （福岡）

血液内科

【論文】
（診療部業績と重複を除く）

	著者	題目	掲載誌　巻（号）：頁	発行年月
1)	Ohmachi K, Kinoshita T, Maruyama D, Machida R, Sano Y, Yamauchi N, Fukuhara N, Uchida T, Yamamoto K, Miyazaki K, Tsukamoto N, Iida S, Yoshida I, Imaizumi Y, Suzuki Y, Yoshida S, Masaki Y, Murayama T, Yakushijin Y, Suehiro Y, Nosaka K, Dobashi N, Kuroda J, Takamatsu Y, Munakata W, Ando K, Ishizawa K, Ogura M, Yoshino T, Hotta T, Tsukasaki K, Tobinai K, Nagai H.	Final results of JCOG0601 randomized trial of R-CHOP versus CHOP combined with dose-dense rituximab for diffuse large B-cell lymphoma.	Jpn J Clin Oncol. 3;55(12):1357-1364.	2025 Dec
2)	Nakashima T, Suzuki T, Machida R, Shimada K, Kobayashi T, Maruyama D, Munakata W, Iida S, Ohmachi K, Kinoshita T, Ando K, Nagai H.	Prognostic impact of RDI of vincristine in patients with DLBCL receiving R-CHOP: a supplementary analysis of JCOG0601.	Blood Neoplasia. 16;2(2):100077. doi: 10.1016/j.bneo.2025.100077.	2025 Feb eCollection 2025 May.
3)	Sano Y, Miyazaki K, Yamaguchi M, Taguchi S, Machida R, Kawabata K, Fukuda H, Shimada K, Nagai H, Munakata W, Maruyama D; Japan Clinical Oncology Group Lymphoma Study Group.	Protocol digest of a randomized phase III study of pola-R-CHP/high-dose methotrexate/IT vs. pola-R-CHP/IT for newly diagnosed diffuse large B-cell lymphoma with high risk of central nervous system relapse: JCOG2201 (PREMIER).	Jpn J Clin Oncol. 13;56(3):358-363.	2026 Mar
4)	Fujimoto A, Munakata W, Ogawa G, Machida R, Suzuki T, Shimada K, Kobayashi T, Ohmachi K, Kinoshita T, Ando K, Maruyama D, Nagai H.	Impact of Achieving Progression-Free Survival 24 on Subsequent Overall Survival in Diffuse Large B-Cell Lymphoma Patients.	Cancer Sci. 117(3):769-776. doi: 10.1111/cas.70304.	2026 Mar Epub 2025 Dec 19.
5)	Izutsu K, Kumode T, Yuda J, Nagai H, Mishima Y, Suehiro Y, Yamamoto K, Fujisaki T, Ishitsuka K, Ishizawa K, Ikezoe T, Nishikori M, Akahane D, Fujita J, Jafarinasabian P, Soong D, D'Angelo Månsson B, Takahashi A, Favaro E, Fukuhara N.	Efficacy and safety of epcoritamab in Japanese patients with relapsed or refractory diffuse large B-cell lymphoma: 3-year follow-up from the EPCORE NHL-3 trial.	Int J Clin Oncol. 30(8):1631-1640.	2025 Aug
6)	Wang M, Salek D, Belada D, Song Y, Jurczak W, Kahl BS, Paludo J, Chu MP, Kryachok I, Fogliatto L, Cheah CY, Morawska M, Sancho JM, Li Y, Patti C, Forsyth C, Zhang J, Lesley R, Ramadan S, Rule S, Dreyling M; ECHO investigators; ECHO Investigators.	Acalabrutinib Plus Bendamustine-Rituximab in Untreated Mantle Cell Lymphoma.	J Clin Oncol. 10;43(20):2276-2284.	2025 Jul
7)	Hirano D, Iida H, Iwakoshi A, Sunohara A, Suzuki M, Suzuki Y, Imahashi N, Adachi T, Nagai H.	Successful treatment of smoldering multiple myeloma-associated type I cryoglobulinemia with bortezomib and autologous peripheral blood stem cell transplantation.	J Clin Exp Hematop. 28;65(2):121-128.	2025 Jun

8)	Kobayashi T, Ishizawa K, Machida R, Sadachi R, Sasaki K, Kim H, Kataoka K, Munakata W, Fukuhara N, Nagai H; Lymphoma Study Group of the Japan Clinical Oncology Group.	Obinutuzumab maintenance versus observation for patients with newly diagnosed high tumor burden follicular lymphoma who achieved complete metabolic response after obinutuzumab plus bendamustine induction therapy: a multicenter, randomized, phase III study (JCOG2008, MAIN study).	Jpn J Clin Oncol. 5;55(6):666-671.	2025 Jun
9)	Hisayuki Yokoyama, Noriko Fukuhara, Koji Ando, Hiroatsu Iida, Takahiro Yamauchi, Suguru Fukuhara, Koji Izutsu, Yasushi Tanoue, Maki Yamamoto, Hirokazu Tozaki, Eiji Takahara, Shingo Shoji, Akio Mizutani, Daisuke Morishita, Robert Oda, Hiroshi Miyake, and Noboru Yamamoto	Phase 1 study of rogocekib in patients with relapsed or refractory hematologic malignancies	Blood advances, 2026(10);262-272	2026.1
10)	Nishiwaki S,Terakura S,Morishita T,Goto T,Inagaki Y,Miyao K,Fukushima N,Hirano D,Tange N,Kurahashi S,Kuwatsuka Y,Kasai M,Iida H,Ozeki K,Sawa M,Nishida T,Kiyoi H	Post-transplant TKIs for Ph plus ALL: practices to date and clinical significance	Int J Hematol.121(4):494-503	2025 Apr.
11)	Saigusa S,Uchino K,Seki H,Sugita Y,Isaji Y,Iida Y,Shinohara S,Horio T,Murakami S,Mizuno S,Ikegame K,Hanamura I,Mokuno J,Takagi J,Hirano D,Iida H,Nakao S,Takami A	Thyroid Storm Following Alemtuzumab-based Allogeneic Stem Cell Transplantation: A Case Report and Literature Review	Intern Med. 65(3):479-484	2026
12)	Kuwano S,Terakura S,Imai K,Hirano S,Yokota H,Takeuchi Y,Sato T,Hanajiri R,Sawa M,Inagaki Y,Sakai T,Kurahashi S,Nishida T,Ozawa Y,Imahashi N,Ueki T,Murata M,Kiyoi H	Adjustment of low-dose ATG exposure improves outcomes in allogeneic hematopoietic stem cell transplantation: a prospective multicenter study	Cytotherapy. 27(8):962-972	2025 Aug.
13)	Mizuki Watanabe , Takaaki Konuma , Nobuhiko Imahashi , Seitaro Terakura , Sachiko Seo , Satoko Morishima , Naoyuki Uchida , Noriko Doki , Masatsugu Tanaka , Tetsuya Nishida , Toshiro Kawakita , Tetsuya Eto , Satoshi Takahashi , Masashi Sawa , Yasufumi Uehara , Sung Won Kim , Fumihiko Ishimaru , Tatsuo Ichinohe , Takahiro Fukuda , Yoshiko Atsuta , Junya Kanda	Corrigendum to scoring system for optimal cord blood unit selection for single cord blood transplantation cytotherapy 26 (2024) 286-298	Cytotherapy.10;10:1270.	2025 Oct.
14)	永井宏和	非ホジキンリンパ腫	今日の治療指針2026年度版 722-726	2026/1/1
15)	今橋伸彦	移植後再発症例に対する再移植はどのように判断するのか？	ケースから学ぶ血液疾患の薬物療法 352-356	2025/10/1
16)	今橋伸彦	移植経過中に特に注意すべき薬剤有害事象は何か？	ケースから学ぶ血液疾患の薬物療法 381-385	2025/10/1
17)	鈴木康裕	進行期古典的ホジキンリンパ腫に対するnivolumab＋AVD療法	血液内科 特集 生殖細胞系列異常を伴う造血器疾患の診断とマネジメント 91(3)305-309	2025/9

18)	鈴木康裕	CHAPTER Ⅱ 悪性リンパ腫 14. 再発・難治性末梢性T細胞リンパ腫に対する治療は単剤療法か多剤併用療法か？	ケースから学ぶ血液疾患の薬物療法 173-178	2025/10/1
19)	鈴木康裕	CHAPTER Ⅱ 悪性リンパ腫 15. CD30陽性T濾胞ヘルパー細胞リンパ腫に対する初回治療はCHOP療法かBV＋CHP療法か？	ケースから学ぶ血液疾患の薬物療法 179-183	2025/10/1
20)	平野大希	VEN+AZAt適応のAMLにおいて治療前白血球数高値例への対応はどうするか？	ケースから学ぶ血液疾患の薬物療法 50-54	2025/10/1
21)	平野大希	VEN+AZA療法の抗真菌薬予防投与はどうするか？	ケースから学ぶ血液疾患の薬物療法 55-59	2025/10/1

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月（場所）
1)	Dai Maruyama, Noriko Fukuhara, Kenichi Ishizawa, Yusuke Sano, Ryunosuke Machida, Shinichi Makita, Wataru Munakata, Shuichi Ota, Motoshi Ichikawa, Eiju Negoro, Tohru Murayama, Ritsuro Suzuki, Isao Yoshida, Hiroaki Morimoto, Masahito Tokunaga, Ken Ohmachi, Hiroyuki Takahashi, Youko Suehiro, Shinichiro Yoshida, Kisato Nosaka, Toshiro Kawakita, Yasunobu Sekiguchi, Keisuke Kataoka, Satsuki Murakami, Masaki Maruta, Ken Takase, Junya Makiyama, Kenji Ishitsuka, Kunihiro Tsukasaki, Hirokazu Nagai,	Impact of Rituximab Early Administration on Outcomes in Advanced Stage Low Tumor Burden Follicular Lymphoma: Subgroup Analysis of Phase Ⅲ JCOG1411/FLORA Study	the 42nd International Conference on Machine Learning	2025/6/19 (Vancouver)
2)	平野大希、倉光俊一郎、谷壮太、鈴木康裕、今橋伸彦、足立達哉、飯田浩充、永井宏和	当施設における再発難治性の中枢神経系原発びまん性大細胞型B細胞リンパ腫（PCNSL）に対するチラブルチニブ9例の後方視的検討	第65回日本リンパ腫学会学術集会・総会	2025/7/5 （名古屋）
3)	三道 康永`河北 敏郎、斉藤 明生、高瀬 謙、伊藤 謙一、黒田 芳明、藤本 勝也、大塚 眞紀、今泉 芳孝、吉田 近思、山口 桂子、高月 浩、吉田 功、柴山 浩彦、飯田 浩充、角南 一貴	Impact of Anti-CD38 Antibody Introduction on Treatment Outcomes in Transplant-ineligible Patients with Multiple Myeloma	第87回日本血液学会	2026/10/10（神戸）
4)	今橋伸彦、小沼貴晶、小林真一、渡邊瑞希、高橋聡、西田徹也、河北敏郎、中前博久、土岐典子、大西康、坂田(柳元)麻実子、神田善伸、田中正嗣、衛藤徹也、吉永則良、石丸文彦、一戸辰夫、熱田由子、諫田淳也	幹細胞ソースとしての臍帯血の可能性を探る探索的研究：HLA適合血縁ドナーは常に第一選択か？	第87回日本血液学会学術集会	2025/10/10 （神戸）
5)	蒔田真一、福原規子、丸山大、石澤賢一、佐野裕亮、町田龍之介、棟方理、市川聡、相澤桂子、宮崎香奈、亀岡吉弘、頼晋也、八木悠、高橋直樹、蒸野寿紀、加藤丈晴、宮崎悠里、齋藤統子、島田和之、黒田純也、瓜生英樹、三嶋裕子、高山信之、鈴木康裕、内田俊樹、塚崎邦弘、永井宏和	未治療低腫瘍量濾胞性リンパ腫に対するリツキシマブ療法早期介入に関する第3相試験：JCOG1411	第87回日本血液学会学術集会	2025/10/11 （神戸）

6)	須藤桜子、坂田麻実子、末原泰人、荒隆英、臼杵憲祐、伊豆津宏二、山口素子、福原規子、堺田恵美子、安藤潔、末永孝生、木村哲、永井宏和、丸山大、西本光孝、竹内賢吾、中村直哉、寺内隆司、藤澤学、安部佳亮、福島健一、錦井秀和、金田朋洋、慶野直人、五所正彦、細川博行、橋本幸一、千葉滋	ダサチニブ治療におけるT濾胞ヘルパー細胞リンパ腫のクローン性造血由来微小環境の影響	第87回日本血液学会学術集会	2025/10/11 (神戸)
7)	間瀬暁代、今橋伸彦、谷壮大、平野大希、鈴木康裕、足立達哉、永井宏和、飯田浩充	臍帯血移植におけるレテルモビルの移植成績への影響についての単施設後方視的検討	第87回日本血液学会学術集会	2025/10/11 (神戸)
8)	谷壮大、 今橋伸彦、 間瀬暁代、平野大希、鈴木康裕、足立達哉、飯田浩充、永井宏和	fitAMLに対するVEN+AZA療法の単一施設後方視的解析	第87回日本血液学会学術集会	2025/10/12 (神戸)
9)	磯部泰司、牟田毅、正本庸介、山本豪、倉橋信悟、亀岡吉弘、太田秀一、松木絵里、尾関和貴、外山孝典、高橋直樹、口分田貴裕、青墳信之、吉村卓朗、田村秀人、尾見歩惟、柴山和弘、金子薫、小島研介、瀧澤淳、永井宏和、鈴宮淳司、青木定夫	CLL-Orbit研究におけるイブルチニブを用量調節した患者のpost-hoc解析	第87回日本血液学会学術集会	2025/10/12 (神戸)
10)	Michael Wang, Jonathon Cohen, Nirav Shah, Wojciech Jurczak, Pier Luigi Zinzani, Chan Cheah, Chaitra Ujjani, Youngil Koh, Won Seog Kim, Sunita Dwivedy Nasta, Ian Flinn, Benoit Tessoulin, Shuo Ma, Alvaro Alencar, David Lewis, Jennifer Woyach, Kami Maddocks, Krish Patel, Yucai Wang, Joanna Rhodes, Constantine Tam, John Seymour, Hirokazu Nagai, Julie Vose, Bita Fakhri, Marc Hoffmann, Francisco Hernandez-Ilizaliturri, Andrew Zelenetz, Anita Kumar, Talha Munir, Donald Tsai, Paolo Abada, Minna Balbas, Jian Li, Ying (denise) Wang, Lindsey Roeker, Toby Eyre	Pirtobrutinib in Relapsed/Refractory (R/R) Mantle Cell Lymphoma (MCL): Final update from the Phase 1/2 BRUIN study	American Society of Hematology	2025/12/6 (Orlando, FL)
11)	Tomotaka Suzuki, Ryunosuke Machida, Yusuke Sano, Kazuyuki Shimada, Shinsuke Iida, Nobuhiko Yamauchi, Nobuhiko Nakamura, Hiroshi Handa, Yoshikazu Hori, Yasuhiro Suzuki, Daisuke Ogiya, Keisuke Kataoka, Eiji Negoro, Hiroyuki Takahashi, Junya Kuroda, Junya Makiyama, Ichiro Hanamura, Kaname Miyashita, Satoshi Ito, Hideki Uryu, Shigeru Kusumoto, Masahiro Takeuchi, Yasuhiro Harada, Takahiro Kumode, Ritsuro Suzuki, Isao Yoshida, Naoko Harada, Wataru Munakata, Hirokazu Nagai, Dai Maruyama	Role of bortezomib maintenance therapy in the anti-CD38 antibody era: Interim analysis results of a randomized Phase III study for transplant-ineligible newly diagnosed multiple myeloma (JCOG1911/B-DASH Study)	the 67th ASH Annual Meeting and Exposition	2025/12/6 (Orlando, FL)

12)	Chan Cheah, Manish Patel, Toby Eyre, Wojciech Jurczak, David Lewis, Thomas Gastinne, Shuo Ma, Jonathon Cohen, Krish Patel, Jennifer Brown, Lydia Scarfo, Talha Munir, Ewa Lech-Maranda, Marc Hoffmann, Chaitra Ujjani, Bita Fakhri, Michael Wang, Koji Izutsu, Hirokazu Nagai, Constantine Tam, Joanna Rhodes, Julie Vose, Matthew McKinney, James Gerson, Minal Barve, Bryone Kuss, Youngil Koh, Aisling Barrett, Steven Treon, Jorge Castillo, John Seymour, Amy Ruppert Stark, Samuel McNeely, Richard Walgren, Donald Tsai, Katherine Bao, Binoj Chandrasekharan Nair, Jennifer Woyach, Lia Palomba	Pirtobrutinib in Relapsed/Refractory (R/R) Waldenström macroglobulinemia (WM): Up to 5 years of follow-up from the Phase 1/2 BRUIN study	the 67th ASH Annual Meeting and Exposition	2025/12/7 (Orlando, FL)
13)	Hirokazu Sasaki, Tomotaka Suzuki, Dai Maruyama, Wataru Munakata, Shigeru Kusumoto, Kenichi Yoshimura, Nobuyuki Takayama, Somi Ozaki, Fuka Mima, Kayoko Murayama, Koji Izutsu, Naoki Takahashi, Hiroyuki Takahashi, Yasuhiro Suzuki, Tatsuzo Mishina, Yu Yagi, Masaki Maruta, Hiro Tatetsu, Naoto Tomita, Yuka Kawaguchi, Masatoshi Sakurai, Katsuya Furukawa, Makoto Nakamura, Junya Makiyama, Yasuhiro Harada, Chisako Iriyama, Yuma Tada, Takahiro Fujino, Nobuyoshi Sasaki, Yu Asao, Misaki Isayama, Masuho Saburi, Yasufumi Masaki, Shunsuke Hatta, Nobuhiko Nakamura, Yoshiki Arakawa, Keiichiro Hattori, Takeharu Kato, Atsushi Inagaki, Yasuyuki Nagata, Naoko Ida, Takashi Kanamori, Tsutomu Kobayashi, Shinsuke Iida	Treatment patterns and outcomes for large B-cell lymphoma patients with central nervous system relapse: A multicenter retrospective study (CoNSensus Study)	the 67th ASH Annual Meeting and Exposition	2025/12/7 (Orlando, FL)
14)	黒澤彩子、山口拓洋、岡田恵子、康勝好、三井哲夫、藤原慎一郎、豊崎誠子、関口康宣、境田恵美子、内田直之、飯田浩充、鴨井千尋、後藤辰徳、梅本由香里、森康雄、坂田尚己、田代晴子、田中正嗣、福島健太郎、森文子、福地朋子、荒隆英、寺下友佳代、大引真理恵、加藤格、平山貴敏、鈴木達也、高橋都、土屋雅子、福田隆浩	移植時小児AYA 症例の移植後就労の現状 ～診断時までに就労経験のない移植後サバイバーの就労調査より～Post-HCT employment rate and associated factors among CAYA patients at the time of transplantation	第48回日本造血・免疫細胞療法学会総会	2026/3/1（東京）
15)	谷壮大、 今橋伸彦、平野大希、鈴木康裕、足立達哉、飯田浩充、永井宏和	重症再生不良性貧血の治療中に虚血性視神経症をきたした一例	日本内科学会東海地方会	2026/2/15(名古屋)

糖尿病・内分泌内科

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月（場所）
1)	小出典司	自己怠薬と感染契機によりDKAに至り、フルニエ壊疽と診断された２型糖尿病の一例	第99回　糖尿病学会日本糖尿病学会　中部地方会	2025.9月(名古屋)
2)	加藤史也	乳癌に対する免疫チェックポイント阻害薬使用中に1型糖尿病とBasedow病を発症した一例	第257回　日本内科学会東海地方会	2025.月（名古屋）

緩和ケア内科

【論文】	なし			
【学会発表】	西堀理香	根治不能な大腸癌症例における腹水症と予後との関連	第30回日本緩和医療学会学術大会	2025.7

腫瘍内科

【論文】

	著者	題目	掲載誌 巻（号）：頁	発行年月
1)	Baba K, Suzuki N, Imamura CK, Booka E, Takeuchi M, Takahari D, Kawakami T, Kawakubo H, Kitagawa C, Kono Y, Ogura K, Kito Y, Saito K, Yamamoto S, Takeuchi H, Kudo T, Tsunoda T, Mizukami T, Yamaguchi T, Shoji H, Saito K, Tanoue K, Baba E, Nagashima K, Boku N.	A phase I/II trial evaluating the safety of increased-dose S-1 with oxaliplatin and nivolumab in HER2-negative advanced gastric cancer.	BMC Cancer. 2025;25(1)	2025.4
2)	Taira N, Kiyota N, Kikawa Y, Ichihara E, Kato K, Kubota K, Tateishi R, Nakata A, Nakamura K, Narita Y, Hotta K, Iwata H, Gemma A, Shimozuma K, Muro K, Iwamoto T, Takumoto Y, Shiroiwa T, Fukuda T, Yamaguchi T, Hagiwara Y, Minami H.	Multicenter, open-label, randomized, controlled study to test the utility of electronic patient-reported outcome monitoring in patients with unresectable advanced cancers or metastatic/recurrent solid tumors.	Jpn J Clin Oncol. 2025;55(5):547-555	2025.4
3)	Aoyama T, Ooki A, Oba K, Nishikawa K, Kawabata R, Honda M, Maeda H, Kanda M, Sugiyama K, Makiyama A, Segami K, Takahashi M, Shindo Y, Namikawa T, Oshima T, Katayama A, Shiosakai K, Sakamoto J.	A multicenter randomized open-label phase 2 study investigating optimal antiemetic therapy for patients with advanced/recurrent gastric cancer treated with trastuzumab deruxtecan: the EN-hance study.	Int J Clin Oncol. 2025;30(6):1162-1173	2025.6
4)	Kodama H, Narita Y, Nakamura M, Takahashi M, Mizukami T, Ando T, Mitani S, Komori A, Hosokawa A, Moriwaki T, Sugiyama K, Taguri M, Orihara S, Kagamu H, Yamaguchi T, Nishikawa H, Muro K.	A multicenter, prospective, observational study of nivolumab readministration for advanced gastric cancer (NIVO RETURNS).	Future Oncol. 2025;21(14):1753-1759	2025.6
5)	Takagi K, Saito G, Tanaka H, Kubo S, Shukuya T, Tsugitomi R, Sasaki T, Oba T, Mamesaya N, Yamanaka T, Tachibara M, Gyotoku H, Nagashima H, Tamiya M, Kanemura H, Tozuka T, Furuta M, Sakata S, Mouri A, Miwa H, Kawachi H, Ninomiya T, Nagai Y, Ogino H, Ito K, Tamura Y, Tokito T, Ishihara M, Ashinuma H, Tsukita Y, Kogure Y, Masuda T, Suzuki T.	Lenvatinib for patients with previously treated advanced thymic carcinoma in real-world settings.	ESMO OPEN. 2025;10(6)	2025.6
6)	Kikawa Y, Uemura Y, Taira T, Kitagawa C, Maeda H, Kato H, Hashimoto N, Hosoda M, Hamanaka Y, Tanabe Y, Yoshida T, Tane K, Takabatake D, Ishikawa T, Iwamoto T, Yamaguchi T, Takiguchi D, Mukai H, Taira N, Sangai T.	Electronic Patient-Reported Outcomes With Vital Sign Monitoring During Trastuzumab Deruxtecan Therapy The PRO-DUCE Randomized Clinical Trial.	JAMA Netw Open. 2025;8(8)	2025.8

7)	Sugiyama K, Kumar S, Chaudry A, Patel N, Patel P, Cunningham D, Starling N, Rao S, Fribbens C, Eldridge L, Chau I.	Impact of nutritional status on pathological response and recurrence-free survival in locally advanced oesophagogastric adenocarcinoma treated with perioperative FLOT therapy.	ESMO Gastrointest Oncol. 2025;9	2025.9
8)	Sugiyama K, Kumar S, Chaudry A, Patel N, Patel P, Cunningham D, Starling N, Rao S, Fribbens C, Chau I.	Impact of perioperative fluorouracil, leucovorin, oxaliplatin, and docetaxel delivery on postoperative survival in locally advanced oesophagogastric adenocarcinoma,	Gastric Cancer. 2025;28(5):968-981	2025.9
9)	Sugiyama K, Starling N, Chau I.	New Horizons with Growth Differentiation Factor 15 in Oncology: From Cancer Cachexia and Tumour Immunity to Novel Therapeutic Strategies.	Curr Oncol. 2025;32(11)	2025.10
10)	Yoshida J, Sugiyama K, Owaki S, Ito T, Yamaguchi Y, Emi R, Sako Y, Satoh M, Ino R, Kato K, Shiraishi K, Shimada M, Hattori H, Kitagawa C.	Case Report: Efficacy of Combined Dabrafenib and Trametinib Therapy in BRAF V600E Mutant Intrahepatic Cholangiocarcinoma with a Neurofibromatosis Type 2 Mutation.	Intern Med. 2025;64(21):3107-3110	2025.11
11)	Sakai H, Tsurutani J, Ozaki Y, Ishiguro H, Nozawa K, Yamanaka T, Aogi K, Matsumoto K, Iwasa T, Tokiwa M, Tsuneizumi M, Miyoshi Y, Kitagawa C, Yamamoto M, Takano Y, Imamura CK, Chiba Y, Takiguchi D, Ezumi T, Takano T.	Olanzapine for nausea and vomiting in people with breast cancer treated with trastuzumab deruxtecan: plain language summary of the ERICA study.	Future Oncol. 2025;21(27):3459-3475	2025.11.
12)	Hata A, Ninomaru T, Okada H, Kogure Y, Oki M, Katakami N, Kijima T, Yokoyama T, Matsumoto H, Sato Y, Kato T, Sugawara S, Sawada T, Yoshimura K, Seto T, Nakagawa K, Okamoto I, Yamamoto N, West Japan Oncology Grp.	Radiotherapy-free pembrolizumab combined with chemotherapy for locally advanced non-small-cell lung cancer with PD-L1 tumour proportion score of 50% or higher (Evolution trial): a multicentre, single-arm, phase 2 study.	Lancet Oncol. 2025;26(11):1432-1442	2025.11
13)	Matsubara Y, Masuishi T, Hosoda W, Hirano H, Mishima S, Takahashi H, Otsuka T, Kawasaki K, Kawakami T, Yanagihara K, Shimura T, Komoda M, Murayama K, Minashi K, Yamamoto Y, Shinohara Y, Nishina S, Musha N, Kato K, Kawakami K, Shinozaki K, Tsuchihashi K, Ando T, Kito Y, Makiyama A, Mitani S, Hino K, Izawa N, Oze I, Muro K.	Ramucirumab-containing chemotherapy for patients with gastrointestinal neuroendocrine carcinoma refractory/intolerant to platinum-based chemotherapy: A multicenter observational retrospective study (WJOG13420G).	Int J Cancer. 2025;157(12):2577-2588	2025.12
14)	Miyake K, Oki M, Suzuki H, Saka H, Sasada S, Okamoto N, Imabayashi T, Kogure Y, Shiroyama T, Hirata H, Nagatomo I, Takeda Y, Kumanogoh A.	Balloon dilatation for bronchoscope delivery: first-in-human trial of a novel technique for peripheral lung field access.	Thorax. 2025;81(1):33-41	2025.12

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月 (場所)
1)	Torii A, Oki M, Ohama T, Shinohara Y, Sano M, Kogure Y, Kitagawa C, Saka H.	Treatment outcomes of airway stents for airway-esophageal fistulas.	ATS 2025	2025.5 (San Francisco, USA.)
2)	Shinohara Y, Imaeda Y, Watanabe H, Ohama T, Torii A, Sano M, Kogure Y, Kitagawa C, Oki M.	A Linear Metallic Foreign Body Penetrating from the Esophagus into the Trachea Removed by Flexible Bronchoscopy.	APCB 2025	2025.6 (台北)
3)	Torii A, Oki M, Ohama T, Shinohara Y, Sano M, Kitagawa C, Saka H.	A case with extensive airway stenosis treated by triple Y-stenting.	APCB 2025	2025.6 (台北)
4)	Sugiyama K, Ito T, Yaguchi M, Owaki S, Sato M, Ino R, Shiraishi K, Kato K, Imaizumi Y, Hino N, Murayama M, Shimada M, Hattori M, Suenaga M, Kodera Y, Kitagawa C.	Survival Benefit of Nutritional Support in Advanced Gastric Cancer Patients Receiving Chemotherapy: A Propensity Score-Matched Study.	2026 ASCO-GI	2026.1(San Francisco, USA)
5)	Kato K,	Improvement of survival in advanced gastric cancer over 15 years: real-world analysis by 5-year periods.	2026 ASCO-GI	2026.1(San Francisco, USA)
6)	Ito T, Yoshida J, Yaguchi M, Owaki S, Sato M, Ino R, Shiraishi K, Kato K, Sugiyama K, Inaba T, Iwakoshi A, Kitagawa C.	Clinical outcomes in advanced gastric cancer among elderly patients (>=80-year-old) treated with chemotherapy.	2026 ASCO-GI	2026.1(San Francisco, USA)
7)	鳥居厚志、沖 昌英、大濱敏弘、篠原由佳、佐野将宏、小暮啓人、北川智余恵、坂英雄.	気管・気管支食道瘻患者における気道ステント留置術の有効性の検討.	第65回日本呼吸器学会学術講演会	2025.4 (東京)
8)	白石祥理、坂 英雄、北川智余恵、佐藤悠城、山口正文、菅原俊一、沖 昌英、西野和美、細井慶太、鈴木慎一郎、久保昭仁、田幡江利子、吉村健一、安藤昌彦、中川和彦、山本信之、岡本勇.	がん性胸膜炎に対する胸膜癒着療法のランダム化比較第3相試験：滅菌調整タルク vs. OK-432, WJOG8415L (J-PLEURA) .	第65回日本呼吸器学会学術講演会	2025.4 (東京)
9)	佐野将宏、大濱敏弘、鳥居厚志、篠原由佳、小暮啓人、北川智余恵、沖 昌英.	無気肺を伴い人工呼吸器管理を必要としたアレルギー性気管支肺アスペルギルス症の一例.	第127回日本呼吸器学会東海地方会	2025.5 (名古屋)
10)	鳥居厚志、大濱敏弘、篠原由佳、佐野将宏、小暮啓人、北川智余恵、坂 英雄、沖 昌英.	広範な気道狭窄にtriple Y-stentを行った一例.	第48回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2025.6 (仙台)
11)	大濱敏弘、沖 昌英、鳥居厚志、篠原由佳、佐野将宏、小暮啓人、北川智余恵.	複数回の気管支鏡検査で診断に至らず外科的肺生検を行った症例の検討.	第48回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2025.6 (仙台)
12)	三宅浩太郎、沖 昌英、鈴木秀和、坂 英雄、笹田真滋、岡本紀雄、今林達哉、小暮啓人、白山敬之、平田陽彦、長友 泉、武田吉人、熊ノ郷淳.	バルーン併用気管支鏡送達法 (BDBD法) : First-in-human trial の報告.	第48回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2025.6 (仙台)
13)	鳥居厚志、小暮啓人、今枝陽、渡辺寛仁、大濱敏弘、篠原由佳、佐野将宏、北川智余恵、沖 昌英.	セルペルカチニブでGrade4の血小板減少を呈した肺腺癌術後再発の１例.	第127回日本肺癌学会中部支部会	2025.9 (三重)
14)	鳥居厚志、今枝陽、渡辺寛仁、大濱敏弘、篠原由佳、佐野将宏、小暮啓人、沖昌英.	気管腺嚢胞がんに対する気管分岐部形成術および術後放射線治療後気道狭窄を繰り返す一例.	第29回呼吸器インターベンションセミナー	2025.10 (姫路)

15)	杉山圭司、長谷川裕子、稲本林、伊澤直樹、三谷誠一郎、川上武志、結城敏志、平野秀和、三島沙織、濱野鉄太郎、舛石俊樹.	MSI-H/dMMR進行大腸癌に対するFTD/TPI±BEVに関する後方視的多施設共同研究.	第63回日本癌治療学会学術集会	2025.10（横浜）
16)	杉山圭司、Panagiotis Ntellas、Ian Chau.	未治療進行食道扁平上皮癌に対する化学・免疫療法の生存期間における性差.	第63回日本癌治療学会学術集会	2025.10（横浜）
17)	伊藤拓未、吉田淳平、矢口正宏、大脇聖楽、佐藤真利子、猪野陸、白石和寛、加藤恭子、杉山圭司、稲葉智子、岩越朱里、北川智余恵.	ポリメラーゼε変異子宮体部脱分化癌にペムブロリズマブ併用化学療法が奏効した一例.	第63回日本癌治療学会学術集会	2025.10（横浜）
18)	福田　泰、小暮啓人、池田慧、原田敏之、齋藤　合、三浦　理、後藤康洋、藤原慶一、片上信之、久保田馨、村田直彦、森　雅秀、安部　崇、山本信之、坂英雄、近藤征史.	高齢者非扁平上皮NSCLCにおけるPD-L1発現別のペンブロリズマブ+ペメトレキセドの有効性（CJLSG1901試験）	第66回日本肺癌学会学術集会	2025.11 （東京）
19)	中川　拓、田中寿志、菅原俊一、谷野明里、細見幸生、久山彰一、渡辺　洋、渡邉香奈、木曽原　朗、濱元陽一郎、石川暢久、倉田宝保、守田　亮、小暮啓人、井上　彰.	食欲不振を呈する進行肺癌患者に対するステロイド投与法の比較試験 （NJLCG1602/NEJ031）	第66回日本肺癌学会学術集会	2025.11 （東京）
20)	中谷有貴、小暮啓人、橋本大哉、後藤康洋、山田忠明、木村智樹、三浦　理、安井裕智、山本信之、坂英雄、近藤征史.	PD-L1<50%の高齢者非扁平上皮非小細胞肺癌に対するペムブロリズマブ+ペメトレキセド療法の肺臓炎の検討.	第66回日本肺癌学会学術集会	2025.11 （東京）
21)	青野ひろみ、小暮啓人、榊原里江、仲地一郎、原田英幸、横内　浩、立原素子、西野和美.	委員アンケート　各施設の働き方改革調査.	第66回日本肺癌学会学術集会	2025.11 （東京）
22)	野村佳世、小暮啓人、今枝陽、渡辺寛仁、大濱敏弘、馬場智也、鳥居厚志、篠原由佳、佐野将宏、北川智余恵、沖　昌英.	診断時にBRAF V600E + であり、再発時にEGFR L858R 陽性であった肺腺がんの1例.	第128回日本肺癌学会中部支部学術集会	2026.2 （名古屋）
23)	杉山圭司、伊藤拓未、矢口正宏、大脇聖楽、猪野陸、佐藤真利子、白石和寛、加藤恭子、村山陸、島田昌明、冨永奈紗、宇野泰朗、多代充、服部正嗣、末永雅也、北川智余恵.	名古屋医療センターにおける進行胃癌薬物療法の変遷と担い手の変化.	第98回日本胃癌学会総会	2026.3（沖縄）
24)	杉山圭司、伊藤拓未、矢口正宏、大脇聖楽、猪野陸、佐藤真利子、白石和寛、加藤恭子、今泉良典、飛野矢、村山陸、島田昌明、服部正嗣、末永雅也、小寺泰弘、北川智余恵.	化学療法中の進行胃癌患者における栄養サポートの生存への影響.	第98回日本胃癌学会総会	2026.3（沖縄）
25)	加藤恭子、伊藤拓未、矢口正宏、大脇聖楽、佐藤真利子、猪野陸、冨永奈紗、白石和寛、杉山圭司、宇野泰朗、多代充、服部正嗣、末永雅也、村山陸、島田昌明、小寺泰弘、北川智余恵.	進行胃癌における生存成績の時代的変化：15年間の後方視的解析.	第98回日本胃癌学会総会	2026.3（沖縄）
26)	伊藤拓未、加藤恭子、矢口正宏、大脇聖楽、佐藤真利子、猪野陸、白石和寛、杉山圭司、冨永奈紗、宇野泰朗、多代充、服部正嗣、末永雅也、村山陸、島田昌明、小寺泰弘、北川智余恵.	高齢進行胃癌患者（80歳以上）に対する化学療法の治療成績.	第98回日本胃癌学会総会	2026.3（沖縄）

27)	宇野泰朗、服部正嗣、冨永奈紗、多代充、末永雅也、伊藤拓未、大脇聖楽、加藤恭子、杉山圭司、小寺泰弘.	当院における胃神経内分泌癌の治療経験.	第98回日本胃癌学会総会	2026.3（沖縄）
28)	服部正嗣、石川悠地、宇野泰朗、冨永奈紗、多代充、末永雅也、伊藤拓未、大脇聖楽、加藤恭子、杉山圭司、小寺泰弘.	胃癌の術前病期診断の正確性の検討ー治療戦略への示唆.	第98回日本胃癌学会総会	2026.3（沖縄）
29)	児玉紘幸、成田有季哉、中村路夫、髙橋雅信、棚井千春、安藤孝将、三谷誠一郎、小林幸、細川歩、森脇俊和、杉山圭司、薦田正人、澤田憲太郎、朴将源、田栗正隆、折原隼一郎、各務博、室圭.	進行胃癌に対するニボルマブ再投与の前向き研究（NIVO RETURNS）に登録された患者特性.	第98回日本胃癌学会総会	2026.3（沖縄）
30)	伊藤拓未、白石和寛、石塚保亘、石橋直弥、亀石眞、木藤陽介、菅谷明徳、髙橋直樹、児玉紘幸、上野翔平、相楽勇人、花村文康、日野佳織、河野吉泰、吉弘知恭、土井俊文、小山泰司、鈴木伸三、若林宗弘、平田賢郎.	日本におけるフルキンチニブの初期臨床経験：多施設共同FRUPITA-Retro研究.	第23回日本臨床腫瘍学会学術集会	2026.3（横浜）
31)	酒井瞳、鶴谷純司、尾崎由記範、石黒洋、能澤一樹、山中隆司、青儀健二郎、松本光史、岩朝勤、常盤麻里子、常泉道子、三好康雄、北川智余恵、山本貢、高野悠子、今村知世、千葉康敬、瀧口大輔、江角隆行、高野利実.	A health-related quality-of life analysis from ERICA study (WJOG14320B).	第23回日本臨床腫瘍学会学術集会	2026.3（横浜）
32)	山下晴弘、北川智余恵、佐川保、秋山聖子、柿崎暁、木村俊久、長谷川裕子、湊拓也、内山秀昭、石田博保、吉野茂文、江崎泰斗.	切除不能進行・再発小腸癌患者に対するベバシズマブ併用FOLFOX療法の第II相多施設共同二重盲検ランダム化比較試験.	第23回日本臨床腫瘍学会学術集会	2026.3（横浜）

脳神経内科

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月 (場所)
1)	小谷　慧	結核性髄膜炎19例の予後因子の検討：早期治療による予後改善効果	第66回日本神経学会学術大会	2025年5月23日（大阪府）
2)	二上　和也	AIDSに合併したCMV多発神経根炎5例：予後因子の検討	第66回日本神経学会学術大会	2025年5月23日（大阪府）
3)	鈴木　総一郎	髄液IL-6, IL-10測定とメチオニンPETがNPSLE脳腫瘍との鑑別に有用だった１例	第172回日本神経学会東海北陸地方会	2025年6月28日（名古屋市）
4)	小谷　慧	無疹性帯状疱疹により多彩な神経障害を呈し亜急性期に再燃した１例	第173回日本神経学会東海北陸地方会	2025年11月1日（富山市）
5)	長谷川　智哉	Cerebellar Pathological Changes in Three Autopsy Cases of Adult-onset Leukoencephalopathy with Axonal Spheroids and Pigmented Glia(ALSP)	XXⅦ World Congress of Neurology	2025年10月12日（韓国ソウル）
6)	西村　翔平	HIV感染症治療中に免疫再構築症候群として発症した帯状疱疹性髄膜炎・血管炎の1例	第174回日本神経学会東海北陸地方会	2026年3月7日（名古屋市）
7)	両角　佐織	MG治療においてFcRn阻害薬を使いこなそう（モーニングセミナー）	第174回日本神経学会東海北陸地方会	2024年3月7日（名古屋市）

呼吸器内科

【論文】

	著者	題目	掲載誌 巻（号）：頁	発行年月
1)	Tamiya A, Mizumori Y, Osuga M, Isa SI, Taniguchi Y, Nakamura K, Harada D, Shinohara T, Yanai H, Nakatomi K, Oki M, Mori M, Kuwako T, Yamazaki K, Tamura A, Ando M, Koh Y.	Circulating Tumour DNA in Patients With EGFR-Mutated Non-Small-Cell Lung Cancer and Early Disease Progression After First-Line Osimertinib Treatment: The ELUCIDATOR Multicentre Prospective Observational Study.	Cancer Med. 2025;14(7:)	2025.4
2)	Takeda M, Ota M, Iwama E, Sugawara S, Shukuya T, Umemura S, Tanaka H, Oki M, Takahama T, Masuda T, Nogami N, Shimokawa M.	A Phase II, Open Label, Single-Arm Study on the Efficacy of Cabozantinib in Patients With Advanced/Metastatic Nonsmall Cell Lung Cancer Harboring MET Exon 14 Alterations who Developed Acquired Resistance to Tepotinib or Capmatinib (CAPTURE Trial).	Clin Lung Cancer. 2025;26(3)	2025.5
3)	Takagi K, Saito G, Tanaka H, Kubo S, Shukuya T, Tsugitomi R, Sasaki T, Oba T, Mamesaya N, Yamanaka T, Tachibara M, Gyotoku H, Nagashima H, Tamiya M, Kanemura H, Tozuka T, Furuta M, Sakata S, Mouri A, Miwa H, Kawachi H, Ninomiya T, Nagai Y, Ogino H, Ito K, Tamura Y, Tokito T, Ishihara M, Ashinuma H, Tsukita Y, Kogure Y, Masuda T, Suzuki T.	Lenvatinib for patients with previously treated advanced thymic carcinoma in real-world settings.	ESMO OPEN. 2025;10(6)	2025.6
4)	Shiraishi Y, Shimose T, Tsuchiya-Kawano Y, Ishii H, Mizuno K, Toi Y, Daga H,I to K, Iyama S, Taniguchi H, Morinaga R, Harada T,I noue H, Misumi Y, Naoki K, Tobino K, Izumi M, Omori S, Tsumura S, Yamanaka Y, Sakata Y, Miura S, Mizutani H, Oki M, Iwama E, Otsubo K, Okamoto I	Platinum plus etoposide with durvalumab for extensive-stage small-cell lung cancer with untreated brain metastases: a multicenter, single-arm phase II trial (LOGiK2001, SPEED).	ESMO Open. 2025;10(7)	2025.7
5)	Chaddha U, Agrawal A, Murgu S, Ghori U, Trias-Sabria P, Ortiz-Comino R, Dutau H, Freitag L, Gasparini S, Lee P, Dooms C, Trisolini R, Madariaga MLL, Li SB, Zuccatosta L, Herth F, Saka H, Fielding D, Oki M, Rosell A.	World Association for Bronchology and Interventional Pulmonology (WABIP) Guidelines on Airway Stenting for Benign Central Airway Obstruction.	Respirology. 2025;30(7)：587-604	2025.7
6)	Tachihara M, Shoda H, Akazawa Y, Ota T, Oki M, Sato Y, Sugawara S, Ikeda S, Yokoyama T, Kaneda H, Itoh S, Bessho A, Katakami N, Morita S, Nakagawa K, Okamoto I, Yamamoto N.	Durvalumab plus irinotecan plus cisplatin for untreated extensive-stage small cell lung cancer: REBORN, phase II study (WJOG13520L).	Lung Cancer. 2025;206	2025.8

7)	Matsuura A, Shindo Y, Sugiyama D, Nakagawa T, Hayashi Y, Sano M, Goto Y, Kato S, Nishikawa H, Ogawa K,I shii M.	Association between immunity and antimicrobial treatment resistance in patients with Mycobacterium avium complex pulmonary disease: a multicenter observational study.	BMC Infect Dis. 2025;25(1)	2025.10
8)	Morikawa K, Takashima Y, Oki M, Tsuzuku A, Murakami S, Minami D, Fujii S, Shinagawa N, Asano F, Nakamura S, Sato Y, Ueda Y, Suzuki F, Yokose T, Tanabe K, Mineshita M.	Prospective multicenter validation of a next-generation sequencing panel using cytology specimens for lung cancer: cPANEL.	BMC Cancer. 2025;25(1)	2025.10
9)	Tsuruga T, Fujimoto H, Gabazza EC, Ohi M, Oki M, Kobayashi T.	A Case of Extensive Airway Necrosis Following Esophagectomy Successfully Treated with Airway Stenting.	Clin Pract. 2025;15	2025.11
10)	Kitazono S, Ono A, Kawamura T, Hataji O, Tanaka H, Matsumoto S, Watanabe N, Nagashima H, Oki M, Takahashi M, Anazawa T, Shirai T, Yamashita A, Wortman-Vayn H, Bhattacharya A, Agrawal T, Baig M, Knoblauch RE, Hayashi H.	Amivantamab Plus Chemotherapy in Japanese Patients With EGFR Exon 20 Insertions NSCLC.	Cancer Sci. 2025;116(11):3139-3148	2025.11
11)	Hata A, Ninomaru T, Okada H, Kogure Y, Oki M, Katakami N, Kijima T, Yokoyama T, Matsumoto H, Sato Y, Kato T, Sugawara S, Sawada T, Yoshimura K, Seto T, Nakagawa K, Okamoto I, Yamamoto N, West Japan Oncology Grp.	Radiotherapy-free pembrolizumab combined with chemotherapy for locally advanced non-small-cell lung cancer with PD-L1 tumour proportion score of 50% or higher (Evolution trial): a multicentre, single-arm, phase 2 study.	Lancet Oncol. 2025;26(11):1432-1442	2025.11
12)	Miyake K, Oki M, Suzuki H, Saka H, Sasada S, Okamoto N, Imabayashi T, Kogure Y, Shiroyama T, Hirata H, Nagatomo I, Takeda Y, Kumanogoh A.	Balloon dilatation for bronchoscope delivery: first-in-human trial of a novel technique for peripheral lung field access.	Thorax. 2025;81(1):33-41	2025.12
13)	Sato Y, Tani Y, Ishii H, Katakura S, Oki M, Watanabe Y, Yokoyama T, Naoki K, Pouliot JF, Kaul M, Paccaly A, Visich JE, Kim E, Mani J, Li YT, Lowy I, Seebach F, Mathias M, Ikeda S.	Cemiplimab in Japanese patients with advanced non-small cell lung cancer.	Jpn J Clin Oncol. 2025;9:55-65	2026.1
14)	Sasaki E, Hang J, Horio Y, Iwakoshi A, Masago K, Oki M.	Aerogenous Dissemination of DEK::AFF2 Carcinoma : A Prototype of a Previously Underrecognized Pattern of Endobronchial Metastasis From Extrathoracic Malignancies.	Am J Surg Pathol. 2025;50(2):189-193	2026.2
15)	Takamori S, Shimokawa M, Yamaguchi M, Mori M, Kuyama S, Oki M, Nishimura Y, Nakatomi K, Yanai H, Sukoh N, Hatakeyama N, Kita T, Fujiwara K, Chibana K, Okamoto M, Takenoyama M.	Prospective validation study of nutritional and immunological predictors in immune checkpoint inhibitor efficacy for non-small cell lung cancer.	Int J Cancer. 2026;158(3):799-810	2026.2

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月（場所）
1)	Torii A, Oki M, Ohama T, Shinohara Y, Sano M, Kogure Y, Kitagawa C, Saka H.	Treatment outcomes of airway stents for airway-esophageal fistulas.	ATS 2025	2025.5 (San Francisco, USA.)
2)	Miyake K, Oki M, Suzuki H, Saka H, Sasada S, Okamoto N, Imabayashi T, Kogure Y, Shiroyama T, Hirata T, Nagatomo I, Takeda Y, Kumanogoh A.	Balloon dilatation for bronchoscope delivery: First-in-human trial of a novel technique for ultra-peripheral lung field access.	ATS 2025	2025.5 (San Francisco, USA.)
3)	Oki M.	EBUS for PPLs diagnosis	APCB 2025	2025.6 (台北)
4)	Oki M.	Ultrathin bronchoscopy for PPLs diagnosis	APCB 2025	2025.6 (台北)
5)	Shinohara Y, Imaeda Y, Watanabe H, Ohama T, Torii A, Sano M, Kogure Y, Kitagawa C, Oki M.	A Linear Metallic Foreign Body Penetrating from the Esophagus into the Trachea Removed by Flexible Bronchoscopy.	APCB 2025	2025.6 (台北)
6)	Torii A, Oki M, Ohama T, Shinohara Y, Sano M, Kitagawa C, Saka H.	A case with extensive airway stenosis treated by triple Y-stenting.	APCB 2025	2025.6 (台北)
7)	Oki M.	Clinical utility of new scopes technique.	The 1st Southern Interventional Pulmonology Forum	2025.7 (広州、中国)
8)	Kurosaki T, Suzuki S, Watanabe Y, Kenmotsu H, Itoh S, Yamaguchi M, Shiono A, Suzuki T, Yokoyama T, Toi Y, Tanaka H, Oki M, Tsuda T, Ichihara E, Azuma K, Tanaka H, Arai R, Uchibori K, Miyauchi E, Katayama R, Hayashi H.	Immune-related gene expression profiling and ALK-TKI efficacy for patients with ALKrearranged non-small-cell lung cancer: exploratory analysis of ALCURE study.	WCLC2025	2025.9 (Barcelona, Spain.)
9)	Oki M.	Evolution of EBUS-TBNA equipment.	CTS2025	2026.9 (Changsha, China)
10)	Oki M.	EBUS-UT for diagnosis of peripheral pulmonary lesions.	CTS2025	2026.9 (Changsha, China)
11)	Oki M.	Bronchoscopic intervention for central airway obstruction due to lung cancer.	KALC2025	2025.11 (Seoul, Korea)
12)	Shimokawa M, Toyozawa R, Sakai K, Sugawara S, Oki M, Numata T, Haratake N, Nishio K, Seto T.	Genomic Resistance Profiles and Clinical Outcomes of Afatinib After First-Line Osimertinib Failure in EGFR-Mutated Non-Small Cell Lung Cancer.	ELCC 2026	2026.3 (Copenhagen, Denmark)
13)	Gordon S, Ahn M, Fang Y, Hao Z, Huang D, Kowalyszyn R, Okamoto I, Oki M, Oliveira S, Reichow S, Spira A, Yamamoto N, Chisamore M, He M, Nguyen T, Buckley S, Norwood K, Nakajima K, Zhou C.	Safety of Valemetostat and Pembrolizumab in Advanced or Metastatic 1L NSCLC Without Actionable Genomic Alterations Expressing PD-L1 With TPS ≥ 50%: Interim Results From the Phase 1b Trial.	ELCC 2026	2026.3 (Copenhagen, Denmark)

14)	鳥居厚志、沖 昌英、大濱敏弘、篠原由佳、佐野将宏、小暮啓人、北川智余恵、坂 英雄.	気管・気管支食道瘻患者における気道ステント留置術の有効性の検討.	第65回日本呼吸器学会学術講演会	2025.4 (東京)
15)	白石祥理、坂 英雄、北川智余恵、佐藤悠城、山口正文、菅原俊一、沖 昌英、西野和美、細井慶太、鈴木慎一郎、久保昭仁、田幡江利子、吉村健一、安藤昌彦、中川和彦、山本信之、岡本勇.	がん性胸膜炎に対する胸膜癒着療法のランダム化比較第3相試験：滅菌調整タルク vs. OK-432, WJOG8415L (J-PLEURA) .	第65回日本呼吸器学会学術講演会	2025.4 (東京)
16)	佐野将宏、大濱敏弘、鳥居厚志、篠原由佳、小暮啓人、北川智余恵、沖 昌英.	無気肺を伴い人工呼吸器管理を必要としたアレルギー性気管支肺アスペルギルス症の一例.	第127回日本呼吸器学会東海地方会	2025.5 (名古屋)
17)	沖 昌英.	気道狭窄に対するステント留置術.	第37回気管支鏡セミナー	2025.6 (仙台)
18)	沖 昌英.	肺癌診断における1.1mmクライオプローブを用いたクライオ生検.	第48回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2025.6 (仙台)
19)	沖 昌英.	気道ステント治療の現状と今後の展望.	第48回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2025.6 (仙台)
20)	鳥居厚志、大濱敏弘、篠原由佳、佐野将宏、小暮啓人、北川智余恵、坂 英雄、沖 昌英.	広範な気道狭窄にtriple Y-stentを行った一例.	第48回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2025.6 (仙台)
21)	大濱敏弘、沖 昌英、鳥居厚志、篠原由佳、佐野将宏、小暮啓人、北川智余恵.	複数回の気管支鏡検査で診断に至らず外科的肺生検を行った症例の検討.	第48回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2025.6 (仙台)
22)	坂 英雄.	軟性気管支鏡の現在と近未来.	第48回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2025.6 (仙台)
23)	三宅浩太郎、沖 昌英、鈴木秀和、坂 英雄、笹田真滋、岡本紀雄、今林達哉、小暮啓人、白山敬之、平田陽彦、長友 泉、武田吉人、熊ノ郷淳.	バルーン併用気管支鏡送達法 (BDBD法) : First-in-human trial の報告.	第48回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2025.6 (仙台)
24)	高濱 誠、臼井実男、沖 昌英、坂 英雄、佐藤賢、新納英樹、高島雄太、野津田泰嗣、半田 寛、姫路大輔、古川欣也.	気道ステント診療ワーキンググループの活動報告.	第48回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2025.6 (仙台)
25)	鳥居厚志、小暮啓人、今枝陽、渡辺寛仁、大濱敏弘、篠原由佳、佐野将宏、北川智余恵、沖 昌英.	セルペルカチニブでGrade4の血小板減少を呈した肺腺癌術後再発の１例.	第127回日本肺癌学会中部支部会	2025.9 (三重)
26)	鳥居厚志、今枝陽、渡辺寛仁、大濱敏弘、篠原由佳、佐野将宏、小暮啓人、沖昌英.	気管腺嚢胞がんに対する気管分岐部形成術および術後放射線治療後気道狭窄を繰り返す一例.	第29回呼吸器インターベンションセミナー	2025.10 (姫路)
27)	坂 英雄、沖 昌英.	悪性気道狭窄に対する治療開発.	第66回日本肺癌学会学術集会	2025.11 (東京)
28)	武田真幸、岩間映二、菅原俊一、宿谷威仁、梅村茂樹、田中洋史、沖 昌英、高濱隆幸、益田 武、野上尚之、下川元継、大田正秀.	MET-TKI既治療MET変異陽性NSCLCに対するカボザンチニブの医師主導治験.	第66回日本肺癌学会学術集会	2025.11 (東京)
29)	森川 慶、高島雄太、村上修司、安部貴志、都竹晃文、沖 昌英、坂口 直、藤井慎嗣、品川尚文、浅野文祐、中村誠二、佐藤慶治、横瀬智之、峯下昌道.	気管支鏡洗浄液を用いた高感度肺がんマルチ遺伝子NGSパネルの有用性の多機関検証試験 (cPANEL2) .	第66回日本肺癌学会学術集会	2025.11 (東京)

30)	高濱隆幸、武田真幸、下川元継、中村　敦、野﨑要、渡辺恭孝、加藤晃史、早川乃介、田中洋史、髙橋利明、立原素子、沖　昌英、赤松弘朗、山口覚博、山本将一朗、田中謙太郎、東　公一、長谷川一男、山本信之、中川和彦.	第1/2世代EGFR-TKI治療後、脳転移単独増悪を認めたNSCLCに対するオシメルチニブの第2相試験（医師主導治験）.	第66回日本肺癌学会学術集会	2025.11 （東京）
31)	谷口善彦、田宮朗裕、大菅光雄、伊佐俊一、中村慧一、水守康之、篠原　勉、中富克己、沖　昌英、森雅秀、桑子智人、山崎宏司、島田昌裕、安藤昌彦、洪　泰浩.	未治療EGFR遺伝子変異陽性NSCLCにおけるステージ別の治療前遺伝子異常及びオシメルチニブ治療効果の検討.	第66回日本肺癌学会学術集会	2025.11 （東京）
32)	福田　泰、小暮啓人、池田慧、原田敏之、齋藤　合、三浦　理、後藤康洋、藤原慶一、片上信之、久保田馨、村田直彦、森　雅秀、安部　崇、山本信之、坂　英雄、近藤征史.	高齢者非扁平上皮NSCLCにおけるPD-L1発現別のペンブロリズマブ+ペメトレキセドの有効性（CJLSG1901試験）	第66回日本肺癌学会学術集会	2025.11 （東京）
33)	中川　拓、田中寿志、菅原俊一、谷野明里、細見幸生、久山彰一、渡辺　洋、渡邉香奈、木曽原　朗、濱元陽一郎、石川暢久、倉田宝保、守田　亮、小暮啓人、井上　彰.	食欲不振を呈する進行肺癌患者に対するステロイド投与法の比較試験 （NJLCG1602/NEJ031）	第66回日本肺癌学会学術集会	2025.11 （東京）
34)	中谷有貴、小暮啓人、橋本大哉、後藤康洋、山田忠明、木村智樹、三浦　理、安井裕智、山本信之、坂　英雄、近藤征史.	PD-L1<50%の高齢者非扁平上皮非小細胞肺癌に対するペムブロリズマブ+ペメトレキセド療法の肺臓炎の検討.	第66回日本肺癌学会学術集会	2025.11 （東京）
35)	青野ひろみ、小暮啓人、榊原里江、仲地一郎、原田英幸、横内　浩、立原素子、西野和美.	委員アンケート　各施設の働き方改革調査.	第66回日本肺癌学会学術集会	2025.11 （東京）
36)	沖　昌英.	クライオ生検のコツと最新の話題.	第66回日本肺癌学会九州支部学術集会 第49回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会	2026.2 （久留米）
37)	野村佳世、小暮啓人、今枝陽、渡辺寛仁、大濱敏弘、馬場智也、鳥居厚志、篠原由佳、佐野将宏、北川智余恵、沖　昌英.	診断時にBRAF V600E + であり、再発時にEGFR L858R 陽性であった肺腺がんの1例.	第128回日本肺癌学会中部支部学術集会	2026.2 （名古屋）
38)	黒崎隆、渡辺恭孝、釼持広知、伊藤彰一、山口正史、塩野文子、鈴木拓児、横山俊秀、戸井之裕、田中寿志、沖　昌英、津田岳志、市原英基、東公一、田中洋史、新井良、内堀健、宮内栄作、片山量平、林秀敏.	ALK融合遺伝子陽性非小細胞肺癌における免疫関連遺伝子発現プロファイルとその臨床的意義.	第23回日本臨床腫瘍学会学術集会	2026.3 （横浜）
39)	池田慧、谷陽子、石井秀宣、片倉誠悟、沖　昌英、渡辺恭孝、横山俊秀、猶木克彦、Baramidze A, Makharadze T, Gogishvili M, Kalinka E, Li Y, Kaul M, Mani J, Gillis K, Kim E, Seebach F, Mathias M, 佐藤悠城.	Cemiplimab for advanced NSCLC (aNSCLC): Updated data from EMPOWER-Lung 3 and a ph1 (phase) Japanese study.	第23回日本臨床腫瘍学会学術集会	2026.3 （横浜）
40)	武田真幸、岩間映二、菅原俊一、宿谷威仁、梅村茂樹、田中洋史、沖　昌英、大田正秀、高濱隆幸、益田武、野上尚之、下川元継.	MET-TKI既治療MET変異陽性NSCLCに対するカボザンチニブの第二相試験（医師主導治験）.	第23回日本臨床腫瘍学会学術集会	2026.3 （横浜）

消化器科

【論文】

	著者	題目	掲載誌　巻（号）：頁	発行年月
1)	島田 昌明	下痢.	今日の治療指針2026年版, 医学書院, 東京, 2026, 539-541.	2026.1.
2)	梅村 卓磨, 末永 雅也, 細田 和貴, 多代 充, 近藤 尚, 羽田 拓史, 木部 栞奈, 山家 豊, 竹田 直也, 島田 昌明, 村上 善子, 竹田 伸	術前診断で神経内分泌腫瘍との鑑別が困難であった膵腺房細胞癌の1例	膵臓 40:85-92,2025.	2025.10.
3)	Kobayashi T, Hisamatsu T, Motoya S, Fujii T, Kunisaki R, Shibuya T, Matsuura M, Takeuchi K, Hiraoka S, Yasuda H, Yokoyama K, Takatsu N, Maemoto A, Tahara T, Tominaga K, Shimada M, Kuno N, Cavaliere M, Ishiguro K, Fernandez JL, Hibi T.	Week 2 remission with vedolizumab as a predictor of long-term remission in patients with ulcerative colitis: a multicenter, retrospective, observational study	Intest Res. 2026 Apr;24(2):293-305.	2025.7.
4)	Kobayashi T, Hisamatsu T, Motoya S, Matsuura M, Fujii T, Kunisaki R, Shibuya T, Takeuchi K, Hiraoka S, Yasuda H, Yokoyama K, Takatsu N, Maemoto A, Tahara T, Tominaga K, Shimada M, Kuno N, Cavaliere M, Ishiguro K, Fernandez JL, Hibi T.	The duration of prior anti-tumor necrosis factor agents is associated with the effectiveness of vedolizumab in patients with ulcerative colitis: a real-world multicenter retrospective study	Intest Res. 2026 Apr;24(2):281-292.	2025.6.
5)	Hisamatsu T, Kobayashi T, Motoya S, Fujii T, Kunisaki R, Shibuya T, Matsuura M, Hiraoka S, Takeuchi K, Yasuda H, Yokoyama K, Takatsu N, Maemoto A, Tahara T, Tominaga K, Shimada M, Kuno N, Fernandez JL, Hirose L, Ishiguro K, Cavaliere M, Hibi T.	Real-World Effectiveness and Safety of Vedolizumab in Patients ≥ 70 Versus < 70 Years With Ulcerative Colitis: Multicenter Retrospective Study	J Gastroenterol Hepatol. 2025 Jun;40(6):1435-1445.	2025.5.

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月（場所）
1)	梅村 卓磨, 末永 雅也, 多代 充, 近藤 尚, 鈴木 菜つみ, 荒井 花純, 宮田 遥香, 平石 江理奈, 横山 由依, 羽田 拓史, 袴田 紘史, 田中 健太, 冨永 奈沙, 田嶋 久子, 宇野 泰朗, 服部 正嗣, 島田 昌明, 村上 善子, 小寺 泰弘	術前診断で神経内分泌腫瘍との鑑別が困難であった膵腺房細胞癌の1例.	第79回 国立病院総合医学会	2025.11.
2)	村山 睦, 浦田 登, 近藤 高, 島田 昌明	肝機能障害を契機に診断された二次性全身性アミロイドーシスの一例	第66回 日本肝臓学会総会（JSH）	2025.10.

3)	野口 友佑，近藤 尚，久野 友里恵，宇仁田 慧，浦田 登，齋藤 雅之，村山 睦，島田 昌明	出血を契機に診断された胃血管腫の一例	第142回 日本消化器病学会東海支部例会	2025.6.
4)	伊東 よしの，村山 睦，久野 友里恵，宇仁田 慧，浦田 登，近藤 尚，齋藤 雅之，島田 昌明	膵形質細胞腫の1経験例	第142回 日本消化器病学会東海支部例会	2025.6.
5)	袴田 紘史，末永 雅也，多代 充，梅村 卓磨，宇野 泰朗，服部 正嗣，村山 睦，島田 昌明，竹田 伸，小寺 泰弘	宗教上の理由で輸血を拒否する患者に対し無輸血で膵頭十二指腸切除術を施行した1例	第142回 日本消化器病学会東海支部例会	2025.6.
6)	島田 昌明，村山 睦，齋藤 雅之，近藤 尚，浦田 登，宇仁田 慧，久野 友里恵	消化管診療の課題と解決法　当院におけるコロナ禍前後の腸管洗浄剤についての検討　ピコスルファートナトリウム水和物・酸化マグネシウム・無水クエン酸配合剤の果たす役割	第142回 日本消化器病学会東海支部例会	2025.6.
7)	榊原 祐子，桑井 寿雄，加賀谷 尚史，間部 克裕，高橋 康雄，久保 公利，渡邉 典子，濱田 博重，豊川 達也，万波 智彦，藤本 愛，林 亨，勝島 慎二，神田 暁博，斎藤 裕樹，荒 誠之，島田 昌明，藤井 宏行，中水流 正一，原田 直彦	消化器内視鏡洗浄の標準化を目指した洗浄工程の見直しに関する多施設共同研究	第109回 日本消化器内視鏡学会総会（JGES）	2025.4.

循環器内科

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月（場所）
1)	丹羽 良徳	外科的治療方針となった高齢、慢性腎不全合併のsevere ASの一例	日本循環器学会 第165回東海地方会	2025.6（名古屋）
2)	児玉 昌大	金属アレルギーのためePTFEシートでS-ICDを被覆して植え込んだ一例	日本循環器学会 第165回東海地方会	2025.6（名古屋）
3)	宮原圭吾	Haemophilus 属による感染性心内膜炎から弁周囲膿瘍、バルサルバ洞の仮性瘤 形成を来たし手術を2 度行った 1 例	日本循環器学会 第166回東海・第151 回北陸合同地方会	2025.10（富山）
4)	早川智子	ectaticな血管におきた急性冠症候群の一例	日本心血管インターベンション治療学会　第52回東海地方会	2025.5（金沢）

小児科

【論文】

	著者	題目	掲載誌 巻(号):頁、	発行年月
1)	Imaizumi M, Kitazawa J, Rikiishi T, Nakadate H, Matsubara K, Takahashi Y, Sasahara Y, Oka T, Maeda N, Ishiguro A	Prognostic significance of age at diagnosis and preceding infection varies across age groups in childhood immune thrombocytopenia	Int J Hematol . 122(5):778-779. doi: 10.1007/s12185-025-04081-2. Epub 2025 Oct 1.	2025 Nov
2)	Okata-Karigane U,Hirota M,Takahashi C,Miyagawa A,Ako R,Nakajima S,Futamura M,Yonekura S,Ogawa Y,Inomata T,Ishikawa T,Ito Y,Masaki K,Sato S,Katoh N,Morita H,Adachi T	AI-Based Objective Severity Assessment of Atopic Dermatitis Using Patient Photos in a Real-World Setting: A Digital Biomarker Approach	Allergy . 2025 Nov;80(11):3185-3189. doi: 10.1111/all.16586. Epub 2025 May 19.	2025 Nov
3)	Nagase Hiroyuki, Harada Norihiro, Tezuka Junichiro, Futamura Masaki, Nagao Mizuho, Takizawa Takumi, Yoshihara Shigemi, Nagata Makoto, Niimi Akio, Yamaguchi Masao	Consensus definition of clinical remission in asthma for the Japanese asthma prevention and management guidelines(JGL 2024): A modified delphi survey and comprehensive review	Allergol Int .75(1):3-14. doi: 10.1016/j.alit.2025.11.004. Epub 2025 Dec 4.	2026 Jan
4)	Kawamoto N,Murai H,Nogami K,Yamamoto T,Kikkawa T,Yasutomi-Sakai M,Yamamoto-Hanada K,Futamura M,Ohya Y	Efficacy and safety of systemic targeted therapies for atopic dermatitis in children: A systematic review and meta-analysis	Allergol Int .74(3):424-434. doi: 10.1016/j.alit.2024.11.007.	2025 Jul
5)	Saeki H,Ohya Y,Arakawa H,Ichiyama S,Katsunuma T,Katoh N,Tanaka A,Tanizaki H,Tsunemi Y,Nakahara T,Nagao M,Narita M,Hide M,Fujisawa T,Futamura M,Masuda K,Matsubara T,Murota H,Yamamoto-Hanada K,Furuta J,Comm Clin Practice Guidelinesfor Management Atop Dermatitis 2024,Japanese Soc Allergol,Japanese Dermatol Assoc	Executive summary: Japanese guidelines for atopic dermatitis (ADGL) 2024	Allergol Int .74(2):210-221. doi: 10.1016/j.alit.2025.01.003.	2025 Apr
6)	Adachi T,Watanabe S,Kuwabara Y,Abe Y,Futamura M,Inomata T,Ito K,Kimura M,Kan-o K,Koguchi-Yoshioka H,Kurashima Y,Masaki K,Matsunaga M,Miki H,Nakajima S,Nakamura Y,Ogawa Y,Oka A,Sakashita M,Sato S,Takahashi K,Tamari M,Tsuda T,Yonekura S,Tamari M,Muto K,Morita H	Exploring Patient and Public Involvement and Engagement in Allergy Research: Cross-Disease and Cross-Stakeholder Perspectives in Japan	Allergy . 2026 Mar;81(3):902-905. doi: 10.1111/all.70064. Epub 2025 Sep 18.	2026 Mar
7)	Murai H,Kawamoto N,Arima T,Okada Y,Takeuchi H,Miyamoto M,Yamamoto-Hanada K,Futamura M,Saeki H,Ohya Y	New topical molecular targeted therapies for atopic dermatitis in children: A systematic review and meta-analysis	Pediatr Allergy Immunol . 2025 Jun;36(6):e70122. doi: 10.1111/pai.70122.	2025 Jun
8)	Yoshida J, Sugiyama K, Owaki S, Ito T, Yamaguchi Y, Emi R, Sako Y, Satoh M, Ino R, Kato K, Shiraishi K, Shimada M, Hattori H, Kitagawa C	Case Report: Efficacy of Combined Dabrafenib and Trametinib Therapy in BRAF V600E Mutant Intrahepatic Cholangiocarcinoma with a Neurofibromatosis Type 2 Mutation	Intern Med . 1;64(21):3107-3110. doi: 10.2169/internalmedicine.5141-24. Epub 2025 Apr 26.	2025 Nov
9)	Yamazaki F,Nakano Y,Sanada M,Kurahashi H,Miyai S,Ueki A,Watanabe Y,Hasegawa D,Karakawa S,Ozaki T,Hirasawa A,Saito AM,Inoue E,Kato M,Hattori H	Genotype-Phenotype Correlations of Li-Fraumeni Syndrome in Japan Children's Cancer Group LFS20 Study Cohort	Cancer Sci . 117(3):836-840. doi: 10.1111/cas.70302. Epub 2025 Dec 29.	2026 Mar
10)	Shimokawahara H,Nishizaki M,Inami T,Kubota K,Taniguchi Y,Miyagi A,Kikuchi H,Goda A,Miyanaga S,Hashimoto H,Saito AM,Sekimizu M,Matsubara H	Effect of riociguat on exercise following balloon pulmonary angioplasty in patients with inoperable chronic thromboembolic pulmonary hypertension in Japan (THERAPY-HYBRID-BPA): a multicentre, double-blind, randomised, controlled, phase 4 trial	Lancet Respir Med . 2025 Sep;13(9):789-799. doi: 10.1016/S2213-2600(25)00127-4. Epub 2025 Jul 23.	2025 Sep

11)	Mori T,Kada A,Osumi T,Tomizawa D,Koga Y,Fukano R,Takeuchi K,Tateishi U,Miyazaki O,Asada R,Saito AM,Fukuhara K,Sekimizu M	Phase 1/2 Study of Crizotinib in Children With Relapsed/Refractory ALK-Positive Anaplastic Large Cell Lymphoma or Neuroblastoma in Japan	Cancer Sci . 117(3):777-786. doi: 10.1111/cas.70308. Epub 2025 Dec 28.	2026 Mar
12)	Komori T, Kawai T, Okuno Y, Tsujimoto S, Kato S, Kamitori T, Saida S, Ikeda J, Ohki K, Kato M, Tomizawa D, Taga T, Takita J, Horibe K, Adachi S, Hayashi Y, Ito S, Shiba N	Identification of cellular hierarchy in paediatric acute myeloid leukaemia: The Japan Children's Cancer Group trial (JCCG AML-12)	Br J Haematol . 2026 Apr;208(4):1252-1262. doi: 10.1111/bjh.70355.	Epub 2026 Feb 3
13)	Sekimizu M,Watanabe T,Fukushima H,Koh K,Yuza Y,Takeshima Y,Watanabe H,Anan T,Mori T,Mori T,Kobayashi R,Nakazawa A,Ohshima K,Saito AM,Takimoto T,Tsurusawa M,Horibe K,Sunami S	Localized Lymphoblastic Lymphoma in Children and Adolescents: Results of the LLB-NHL03 Trial-A Report From the Japan Children's Cancer Group	Pediatr Blood Cancer . 2025 May;72(5):e31590. doi: 10.1002/pbc.31590.	2025 May
14)	Katayama S,Moriya K,Imamura T,Tamefusa K,Sakaguchi K,Ishihara T,Nishi M,Usami I,Hama A,Hasegawa D,Sato A,Suenobu S,Moriya-Saito A,Horibe K,Hara J,Japan Assoc Childhood Leukemia Study Grp JACLS	Outcome of chemotherapy dose reduction in overweight Japanese children with acute lymphoblastic leukemia	Int J Hematol . 123(2):305-307. doi: 10.1007/s12185-025-04103-z. Epub 2025 Nov 10.	2026 Feb
15)	Ishida H, Suenobu S, Imamura T, Shiwaku T, Uemura S, Deguchi T, Miyamura T, Kato K, Hori H, Okada K, Tsujimoto H, Oda M, Endo M, Hasegawa D, Yumura-Yagi K, Takahashi Y, Usami I, Kosaka Y, Iguchi A, Kawasaki H, Sato A, Hara J, Moriya-Saito A, Horibe K, Hashii Y	Outcomes of children with T-cell acute lymphoblastic leukemia treated with the JACLS T-02 protocol	Int J Hematol . 2026 Jun;123(6):905-915. doi: 10.1007/s12185-026-04178-2.	Epub 2026 Feb 17
16)	Koh K, Kosaka Y, Okamoto Y, Maeda N, Ogawa A, Kobayashi R, Hasegawa D, Koga N, Tessier A, Shvenke Y, Zhu J, Benettaib B, Horibe K, Ogawa C	Phase 2 multicenter study of pegaspargase in Japanese patients with previously untreated acute lymphoblastic leukemia	Int J Hematol . 122(2):284-294. doi: 10.1007/s12185-025-03976-4.	2025 Aug
17)	Sakaguchi H, Sakaguchi K, Kato I, Noma H, Hiramatsu H, Ishida H, Yabe H, Goto H, Kawahara Y, Yamashita YI, Sanada M, Deguchi T, Takahashi Y, Saito AM, Takagi M, Okuno K, Taga T, Horibe K, Okamoto Y, Koh K, Manabe A, Umeda K.	Post-transplant maintenance with blinatumomab for children, adolescents, and young adults with relapsed and refractory B-cell acute lymphoblastic leukemia: results of phase I in SCT-ALL-BLIN21	Haematologica . 111(1):329-334. doi: 10.3324/haematol.2024.286719. Epub 2025 Jul 10.	2026 Jan
18)	二村 昌樹	【アトピー性皮膚炎診療ガイドラインの最新情報】小児のアトピー性皮膚炎治療(解説)	アレルギーリウマチ性疾患45巻12号919-923	2025/11/01
19)	二村 昌樹	【小児診療ガイドラインのダイジェスト解説&プログレス2025】アレルギー　アトピー性皮膚炎　アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2024　小児のためのアトピー性皮膚炎の予防と治療の手引き～小児アトピー性皮膚炎治療・管理ガイドライン(PADGL)2024～(解説)	小児科 66巻12号 pp.1232-1239 DOI https://doi.org/10.18888/sh.0000003655	2025/12/01
20)	二村 昌樹	アレルギーの科学　なぜ起こるのかどうして増えているのか 第6章　アレルギー治療・予防の考え方と免疫療法　6-1アレルギー治療との向き合い方	ブルーバックス256-264 ISBN 9784065414958	2025/10/23
21)	二村 昌樹	小児のアトピー性皮膚炎治療	アレルギーリウマチ性疾患45巻12号19-23	2025/11/01
22)	二村 昌樹	エビデンスのレベルと質　よりよい臨床研究のための理解(解説)	日本小児アレルギー学会誌39巻2号155-160	2025/06/01
23)	二村 昌樹	ライフステージ別に考える小児喘息診療	アレルギーリウマチ性疾患45巻6号4-5	2025/06/01
24)	佐藤 亮, 関谷 潔史, 濱田 祐斗, 岸川 禮子, 藤澤 隆夫, 長尾 みづほ, 二村 昌樹, 福冨 友馬	成人の食物・食物関連アレルギーの実態調査　NHOネットワーク共同研究	アレルギーリウマチ性疾患45巻12号944-945	2025/11/01

25)	田中ふみ、二村昌樹	アレルギー診療その時どうする？	内科臨床誌メディチーナ Vol.63№.2　P304-308	2026/02/10
26)	田中 ふみ、二村 昌樹	【気管支喘息とその周辺　Up to Date】気管支喘息の病態と治療　急性期治療(解説)	小児科診療88巻11号 1401-1404	2025/11/01
27)	服部 浩佳	遺伝性がん高危険疾患への対応 Li-Fraumeni症候群	産婦人科ゲノム医療233-238 ISBN: 9784787826893	2025/05/08
28)	服部 浩佳	遺伝性腫瘍	小児内科57巻11号1457-1462 ISSN: 0385-6305	2025/11/01
29)	服部 浩佳	遺伝性腫瘍への対応	病理と臨床44巻4号316-321	2026/03/31
30)	服部 浩佳	Q71. Li-Fraumeni 症候群の遺伝学的検査について教えてください Q72. 遺伝性網膜芽細胞腫の遺伝学的検査について教えてください	小児科×遺伝学 基本からわかる臨床遺伝学・遺伝子検査 Q&A　274-280	2026/03/26
31)	服部 浩佳	RB1 遺伝学的リスクに基づく網膜芽細胞腫診療の実践	日本遺伝カウンセリング学会誌46巻2号 p.329-334 ISSN 1347-9628	2025/7

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月 場所
1)	Maeda Naoko(Department of Pediatrics, NHO Nagoya Medical Center), Ozawa Miwa, Shimizu Chikako	小児がん経験者の移行期医療の現状　受け入れ経験のある成人医療側に対する調査(Current Status of Transitional Care for Childhood Cancer Survivors: a Survey of Adult Healthcare Providers with Acceptance Experience)	第67回日本小児血液・がん学会学術集会	2025/11/20 福岡
2)	Miyoshi Yoko, Tachibana Makiko, Nagai Naoko, Akao Tadashi, Shimizu Chikako, Okada Satoshi, Iehara Tomoko, Ishida Yasushi, Oue Takaharu, Ohga Shouichi, Ozono Shuichi, Kamibeppu Kiyoko, Kiyotani Chikako, Kurosawa Saiko, Shiwaku Hitoshi, Takenouchi Naoko, Cho Yuko, Hino Moeko, Hiyama Eiso, Maezawa Tadashi, Maeda Naoko, Maeda Miho, Matsumoto Kimikazu, Miyamura Takako, Yuza Yuki, Yoneda Akihiro	小児・AYA世代がん患者の栄養管理に関する小児腫瘍医対象のアンケート調査(Questionnaire survey for pediatric oncologists regarding nutritional management in children and adolescents/young adults with cancer)	第67回日本小児血液・がん学会学術集会	2025/11/19-21 福岡
3)	三善 陽子, 橘 真紀子, 長井 直子, 赤尾 正, 清水 千佳子, 岡田 賢, 家原 知子, 石田 也寸志, 大植 孝治, 大賀 正一, 大園 秀一, 上別府 圭子, 清谷 知賀子, 黒澤 彩子, 塩飽 仁, 竹之内 直子, 長 祐子, 日野 もえ子, 檜山 英三, 前沢 忠志, 前田 尚子, 前田 美穂, 松本 公一, 宮村 能子, 湯坐 有希, 米田 光宏	小児・AYA世代がん患者の栄養管理に関する小児腫瘍医対象の現状調査	第58回日本小児内分泌学会学術集会	2025/10/30-11/1 東京
4)	吉田 沙矢子, 熊澤 詔子, 稲葉 智子, 中西 豊, 菅沼 信彦, 前田 尚子	当院でのadolescent and young adult(AYA)がん患者のquality of life(QOL)向上のための妊孕性温存療法や多職種支援の現状	第16回日本がん・生殖医療学会学術集会	2026/2/21-22 奈良
5)	横井 美加, 前田 尚子	AYAサポートチームにおける診療情報管理士の役割(会議録)	第11回日本医療安全学会学術総会	2025/3/15-16 名古屋
6)	Adachi Takeya(Department of Dermatology, Keio University School of Medicine), Yonekura Satoru, Ogawa Yasushi, Okata-Karigane Utako, Tahara Umi, Takahashi Chiaki, Futamura Masaki, Hirota Masakazu, Inomata Takenori, Ishikawa Tetsuo, Ito Yoshihiro, Masaki Katsunori, Sato Sakura, Katoh Norito, Nakajima Saeko	Identifying Unmet Needs in Atopic Dermatitis through Patient Narratives, Preferences, and Digital Biomarkers: A Cluster-Transition Approach	日本研究皮膚科学会 第50回年次学術大会・総会	2025/12/5-7 甲府

7)	二村 昌樹(国立病院機構名古屋医療センター), Paller Amy, Siegfried Elaine, Weidinger Stephan, Gao Xinghua, Eichenfield Lawrence, Dubost Ariane, Chen Zhen, Bansal Ashish, Nguyen Tien, Prescilla Randy	小児重症アトピー性皮膚炎患者のdupilumabによる疾患コントロールと長期安全性	第74回日本アレルギー学会学術大会	2025/10/24-26 東京
8)	小林 茂俊, 伊藤 浩明, 大嶋 勇成, 緒方 美佳, 小山 隆之, 中村 利美, 成田 雅美, 西 耕一, 西部 明子, 原 丈介, 二村 昌樹, 堀野 智史, 松下 貴史, 松田 裕介, 三浦 克志, 丸岡 達也, 和田 泰三)	生活・社会の視点からのアレルギー診療の課題　アレルギー疾患の災害時対応の問題点　令和6年能登半島地震における調査結果	第74回日本アレルギー学会学術大会	2025/10/24-26 東京
9)	二村 昌樹	教育セミナー「アトピー性皮膚炎の早期治療の重要性」	第41回日本小児臨床アレルギー学会学術大会	2025/6/14 東京
10)	二村 昌樹	Pros＆Cons1「小児期アトピー性皮陪炎診療に全身療法は必要か？」	第41回日本小児臨床アレルギー学会学術大会	2025/6/15 東京
11)	二村 昌樹	「高く」導くエビデンスの活用で目指す理想のアレルギー診療	第62回日本小児アレルギー学会学術大会	2025/10/4 大阪
12)	二村　昌樹	小児アトピー性皮膚炎治療の意義を考える	第62回日本小児アレルギー学会学術大会	2025/10/4 大阪
13)	二村　昌樹(国立病院機構名古屋医療センター小児科)	日常診療に活かす環境中のアレルゲン対策と特異的IgE抗体検査	第63回日本小児アレルギー学会学術大会	2025/10/4 大阪
14)	松田 裕介, 小林 茂俊, 伊藤 浩明, 大嶋 勇成, 緒方 美佳, 中村 利美, 成田 雅美, 西 耕一, 西部 明子, 原 丈介, 二村 昌樹, 松下 貴史, 丸岡 達也, 三浦 克志, 和田 泰三	令和6年能登半島地震でのアレルギー疾患災害対応に関する支援者への聞き取り調査	第62回日本小児アレルギー学会学術大会	2025/10/4-5 大阪
15)	堀野 智史, 小林 茂俊, 伊藤 浩明, 大嶋 勇成, 緒方 美佳, 中村 利美, 成田 雅美, 西 耕一, 西部 明子, 原 丈介, 二村 昌樹, 松下 貴史, 松田 裕介, 丸岡 達也, 三浦 克志, 和田 泰三	令和6年能登半島地震における被災地自治体のアレルギー対応に関するアンケート調査	第62回日本小児アレルギー学会学術大会	2025/10/4-5 大阪
16)	吉原 重美, 板倉 仁枝, 多喜田 保志, 檀上 淳一, 松尾 崇史, 山本 千詠, Buchanan Andrew S., 二村 昌樹	中等症から重症の小児アトピー性皮膚炎患者におけるバリシチニブ投与時の成長に関連する臨床検査値及び骨年齢の評価	第62回日本小児アレルギー学会学術大会	2025/10/4-5 大阪
17)	二村 昌樹, 板倉 仁枝, 多喜田 保志, 檀上 淳一, 松尾 崇史, Buchanan Andrew S., Parganiha Lavanya, 吉原 重美	小児アトピー性皮膚炎患者(2歳以上18歳未満)における併存アレルギー性疾患別のバリシチニブ有効性評価　第3相無作為化二重盲検プラセボ対照並行群間試験(BREEZE-AD-PEDS)16週時データの部分集団解析	第62回日本小児アレルギー学会学術大会	2025/10/4-5 大阪
18)	房安 直子, 笹本 光紀, 高橋 亨平, 後藤 海人, 高橋 研斗, 小太刀 豪, 佐藤 さくら, 柳田 紀之, 貴達 俊徳, 高瀬 貴文, 本村 知華子, 只木 弘美, 二村 昌樹, 海老澤 元宏	1～4歳児の通年性アレルギー性鼻炎に対するダニ舌下免疫療法の有効性　ランダム化比較試験	第62回日本小児アレルギー学会学術大会	2025/10/4-5 大阪
19)	宮本 学, 田中 裕也, 板澤 寿子, 今井 孝成, 大嶋 勇成, 大矢 幸弘, 長尾 みづほ, 平口 雪子, 二村 昌樹, 松井 照明, 山出 史也, 山本 貴和子, 吉田 幸一, 吉原 重美, 楠 隆, 日本小児アレルギー学会疫学委員会	日本における喘息死/致死的喘息の全国調査結果	第62回日本小児アレルギー学会学術大会	2025/10/4-5 大阪
20)	松田 裕介, 小林 茂俊, 伊藤 浩明, 大嶋 勇成, 緒方 美佳, 中村 利美, 成田 雅美, 西 耕一, 西部 明子, 原 丈介, 二村 昌樹, 松下 貴史, 丸岡 達也, 三浦 克志, 和田 泰三	令和6年能登半島地震における小児アレルギー患者の実態把握	第62回日本小児アレルギー学会学術大会	2025/10/4-5 大阪
21)	山本 貴和子, 土屋 邦彦, 高岡 有理, 竹村 豊, 徐 アレキサンダー, 脇口 宏之, 金井 怜, 山出 史也, 夏目 統, 近藤 康人, 川口 隆弘, 二村 昌樹, 杉浦 一充, 北沢 博, 福家 辰樹, 大矢 幸弘	早期湿疹介入のアトピー・マーチ抑制効果と遺伝的素因克服の可能性　PACIONコホート研究	第62回日本小児アレルギー学会学術大会	2025/10/4-5 大阪
22)	二村昌樹	気管支喘息ガイドラインの診療での活用法 ～エビデンスの使い方～	第36回四国小児アレルギー研究会	2025/7/6 徳島
23)	二村昌樹	小児アトピー性皮膚炎の最新ガイドラインに基づく至適薬物治療の普及　小児アトピー性皮膚炎診療における課題～最新ガイドラインの活用と限界～	第128回日本小児科学会学術集会	2025/4/19 名古屋
24)	二村昌樹	アトピー性皮膚炎の長期寛解維持を目指して　移行期を見据えたアトピー性皮膚炎診療	第128回日本小児科学会学術集会	2025/4/20 名古屋

25)	二村昌樹	小児アトピー性皮膚炎診療における新規治療薬の使い分け	第128回日本小児科学会学術集会	2025/4/20 名古屋
26)	Fukano Reiji, Iijima Yuka, Saito Akiko, Takimoto Tetsuya, Sekimizu Masahiro, Hori Daiki, Suehiro Yutaka, Yamasaki Takahiro, Mori Tetsuya, Horibe Keizo	ALK陽性未分化大細胞リンパ腫の微小播種病変解析におけるデジタルPCRプラットフォームによる比較(Inter-platform concordance of digital PCR-based minimal disseminated disease quantification in pediatric ALK-positive anaplastic large cell lymphoma)	第67回日本小児血液・がん学会学術集会	2025/11/19-21 福岡
27)	Ono Rintaro, Sakamoto Kenichi, Moriya Kunihiko, Hoshino Akihiro, Ohki Kentaro, Kiyokawa Nobutaka, Iwafuchi Hideto, Yoshioka Takako, Kanegane Hirokazu, Sekimizu Masahiro, Shioda Yoko, Nakazawa Atsuko	JPLSG中央病理診断で非腫瘍性病変もしくはリンパ増殖性疾患と診断された症例の後方視的調査(Results of a retrospective study of patients not diagnosed with hematological malignancies using the JCCG Central Pathology System)	第67回日本小児血液・がん学会学術集会	2025/11/19-21 福岡
28)	Mizuki Kazuyoshi, Kada Akiko, Osumi Tomoo, Nodomi Seishiro, Saito Akiko, Kobayashi Ryoji, Sekimizu Masahiro, Fukano Reiji, Mori Makiko, Hori Daiki, Mori Tetsuya	JPLSG B-NHL14試験登録例のフルオロデオキシグルコース陽電子放出断層撮影(FDG-PET)所見(18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography scan findings for patients enrolled in the JPLSG B-NHL14 trial)	第67回日本小児血液・がん学会学術集会	2025/11/19-21 福岡
29)	Saito Yusuke, Kiyasu Junichi, Miyazaki Yukihiro, Miyamura Takako, Choi Ilseung, Rai Shinya, Mori Tetsuya, Hayashi Masaki, Sekimizu Masahiro, Nagai Hirokazu, Usami Ikuya, Shiratori Souichi, Moritake Hiroshi, Mizukami Yoichi, Fukano Reiji	ALK陽性未分化大細胞リンパ腫におけるアレクチニブ耐性に関わる遺伝子異常の探索(Investigation of Genetic Alterations Associated with Alectinib Resistance in ALK-Positive Anaplastic Large Cell Lymphoma)	第67回日本小児血液・がん学会学術集会	2025/11/19-21 福岡
30)	Nodomi Seishiro, Iijima Yuka, Kada Akiko, Osumi Tomoo, Mizuki Kazuyoshi, Saito Akiko, Kobayashi Ryoji, Sekimizu Masahiro, Hori Daiki, Mori Tetsuya	小児高リスク成熟B細胞性リンパ腫における微小播種・残存病変　JPLSG B-NHL14試験より(Minimal disseminated and residual disease in pediatric high-risk mature B-cell non-Hodgkin lymphoma: a report from the JPLSG B-NHL14 trial)	第67回日本小児血液・がん学会学術集会	2025/11/19-21 福岡
31)	堀 大紀, 小林 良二, 中澤 温子, 岩淵 英人, 藤田 直人, 三井 哲夫, 古賀 友紀, 森 健, 深野 玲司, 大木 健太郎, 亀井 美智, 森 鉄也, 田中 真己人, 森谷 邦彦, 田尾 佳代子, 嘉田 晃子, 関水 匡大, 日本小児がん研究グループリンパ腫委員会	小児高悪性度成熟B細胞性リンパ腫に関する後方視的観察研究	第87回日本血液学会学術集会	2025/10/10-12 神戸
32)	Hiroyoshi Hattori , Toshinobu Kubota , Mai Umehara , Fumi Tanaka , Daisuke Ichikawa , Masahiro Sekimizu , Masaki Futamura , Masahiko Goto , Keizo Horibe , Naoko Maeda	Three Case Reports of Retinoblastoma with Optic Nerve and CNS Invasion Treated with Multimodal Therapy including Intrathecal and High-Dose Chemotherapy	International Society for Genetic Eye Disease and Retinoblastoma2025	2025/9/11-13 Oslo
33)	鈴木 雄登, 服部 浩佳, 市川 大輔, 関水 匡大, 末永 佑佳, 田中 ふみ, 二村 昌樹, 後藤 雅彦, 堀部 敬三, 前田 尚子	ELANE遺伝子病的バリアントが同定された重症先天性好中球減少症の1例	第14回日本血液学会東海地方会	2025/5/11 静岡市
34)	Hattori Hiroyoshi, Kubota Toshinobu, Umehara Mai, Tanaka Fumi, Ichikawa Daisuke, Sekimizu Masahiro, Futamura Masaki, Goto Masahiko, Horibe Keizo, Maeda Naoko	片眼性網膜芽細胞腫の3例における視神経および中枢神経浸潤に対する集学的治療(Intensive Multimodality Therapy for Optic Nerve and CNS Invasion in Three Patients with Unilateral Retinoblastoma)	第67回日本小児血液・がん学会学術集会	2025/11/19-21 福岡
35)	服部浩佳 、久保田敏信 、田口育 、河合美紀 、梅原舞 、市川大輔 、関水匡大 、田中ふみ 、二村昌樹 、後藤雅彦 、堀部敬三 、前田尚子	RB1遺伝学的リスクに基づく網膜芽細胞腫診療	第25回中部小児がんトータルケア研究会	2025/10/4 金沢
36)	市川大輔, 田中 ふみ, 梅原 舞, 関水 匡大, 服部 浩佳, 後藤 雅彦, 二村 昌樹, 堀部 敬三, 藤本 保志, 前田 尚子	多発転移再発をきたした嗅神経芽細胞腫の1例	第67回日本小児血液・がん学会学術集会	2025/11/19-21 福岡
37)	富澤 大輔, 田中 司朗, 野島 里菜, 松林 潤, 宮地 勇人, 松下 弘道, 矢部 みはる, 平松 英文, 岩本 彰太郎, 丹羽 香央里, 田野島 玲大, 加登 翔太, 溝口 洋子, 笠原 靖史, 遠藤 明史, 齋藤 明子, 堀部 敬三, 清河 信敬, 盛武 浩, 足立 壮一	小児AMLにおける寛解の定義と生存率との相関	第87回日本血液学会学術集会	2025/10/10-12 神戸
38)	奥田 瑠璃花, 越智 陽太郎, 吉里 哲一, 南谷 泰仁, 熱田 由子, 白石 友一, 塩澤 祐介, 田中 洋子, 鬼塚 真仁, 千葉 健一, 糸永 英弘, 神田 善伸, 宮崎 泰, 堀部 敬三, 宮野 悟, 牧島 秀樹, 小川 誠司	骨髄異形成症候群における分子分類に基づく移植の予後予測モデル	第87回日本血液学会学術集会	2025/10/10-12 神戸

39)	石田 悠志, 岡本 康裕, 佐藤 篤, 八田 善弘, 今井 千速, 大嶋 宏一, 出口 隆生, 橋井 佳子, 福島 敬, 堀 壽成, 清河 信敬, 加藤 元博, 齋藤 章治, 阿南 建一, 坂本 竜弘, 小阪 嘉之, 末延 聡一, 今村 俊彦, 嘉田 晃子, 齋藤 明子, 真部 淳, 清井 仁, 松村 到, 康 勝好, 宮崎 泰司, 堀部 敬三	JPLSG/JALSG ALL-T11研究におけるアスパラギナーゼ中止例の予後解析	第87回日本血液学会学術集会	2025/10/10-12 神戸
40)	二村昌樹	アレルギーの基礎知識	小児アレルギーエデュケーターオンライン基礎講習会	2025/5/1-8/25 Web
41)	二村昌樹	移行期を見据えたアトピー性皮膚炎診療	天白区医師会臨床懇話会	2025/5/17 名古屋
42)	Amy S. Paller, Elaine C. Siegfried, Stephan Weidinger, Masaki Futamura, Xinghua Gao, Lawrence Eichenfield, Ariane Dubost-Brama, Zhen Chen, Ashish Bansal Tien V. Nguyen11, Randy Prescilla12	Achievement of disease well-controlled weeks and long-term safety of dupilumab in children with severe atopic dermatitis	24th European Society for Pediatric Dermatology (ESPD) Congress	2025/5/29-31 Brussels, Belgium
43)	Amy S. Paller, Elaine C. Siegfried, Masaki Futamura, Xing-Hua Gao, Lawrence F. Eichenfield, Ariane Dubost-Brama, Ashish Bansal, Zhen Chen, Tien V. Nguyen, Randy Prescilla	Weeks of Well-Controlled Disease and Dupilumab Safety for 3 Years in Children with Atopic Dermatitis	Society for Pediatric Dermatology (SPD) Annual Meeting	2025/7/23-26 Seattle, USA
44)	Amy S. Paller, Alain Taïeb, Stephan Weidinger, Masaki Futamura, Xing-Hua Gao, Lawrence F. Eichenfield, Zhen Chen, Randy Prescilla, Tien V. Nguyen	Safety and Efficacy of up to 3 Years of Dupilumab Treatment in Infants and Children Aged 6 Months to 11 Years With Severe Atopic Dermatitis	2025 European Academy of Dermatology and Venereology Congress	2025/9/17-20 Paris, France
45)	John C Su, Melanie FUNK, Amanda CRESSWELL-MELVILLE, Masaki FUTAMURA, Ellis HON, Kin Fon LEONG, Yong Kwang TAY	Atopic Dermatitis, Global Health Perspectives Worldwide	15th Georg RAJKA International Symposium on Atopic Dermatitis (ISAD)	2025/10/24-26 Melbourne, Australia
46)	二村昌樹	アレルギー疾患の発症予防	第19回相模原臨床アレルギーセミナー	2025/8/1-9/1 Web
47)	二村昌樹	診療ガイドラインに基づいた小児アトピー性皮膚炎の治療	第32回栃木県小児アレルギー・感染免疫研究会	2025/8/21 宇都宮
48)	二村昌樹	小児喘息　発症予防	第45回六甲カンファレンス	2025/8/23-24 大阪
49)	二村昌樹	小児アレルギーエデュケーターに役立つ医学論文の読解入門	第30回認定小児アレルギーエデュケータースキルアップセミナー	2025/8/31 Web
50)	二村昌樹	診療ガイドラインに基づいた小児アトピー性皮膚炎の全身療法	第7回Cross Allergic Seminar in Okinawa	2025/10/2 那覇
51)	二村昌樹	アトピー性皮膚炎に関する最新エビデンスの見つけ方	第2回　沖縄小児アレルギー講演会	2025/10/11 那覇
52)	二村昌樹	各年齢期で考える治療の戦略とゴール	小児アレルギー診療の未来を拓く	2026/2/1 東京
53)	二村昌樹	喘息発症予防のエビデンス　検索方法と質の評価	The 8th WRX	2026/3/4 大阪
54)	二村昌樹	アレルギー性疾患に対する病診連携、他科連携　小児科の立場から	第7回日本アレルギー学会東海地方会	2026/3/8 名古屋
55)	二村昌樹	小児におけるデュピルマブの適応と有用性	第12回総合アレルギー講習会	2026/3/14-15 横浜
56)	二村昌樹	小児喘息	第6回CAI研修セミナー	2026/3/29 Web
57)	服部浩佳	Li-Fraumeni 症候群におけるサーベイランス-日本での現状と今後の展望	第31回日本遺伝性腫瘍学会学術集会	2025/6/20 北九州
58)	服部浩佳	Li-Fraumeni 症候群におけるサーベイランス臨床研究体制の構築	第31回日本遺伝性腫瘍学会学術集会	2025/6/21 北九州
59)	服部浩佳	RB1遺伝学的リスクに基づく網膜芽細胞腫診療の実践	第49回日本遺伝カウンセリング学会学術集会	2025/8/3 札幌
60)	服部浩佳	小児・AYA世代における遺伝性腫瘍サーベイランスの現状と課題	東北小児白血病講演会	2025/9/20 仙台
61)	服部浩佳	「遺伝性腫瘍における予後向上に向けた取り組み」リー・フラウメニ症候群におけるサーベイランス	第63回日本癌治療学会学術集会	2025/10/16 横浜
62)	服部浩佳	「がん医療について知ろう」がんゲノム医療について知ろう	まちかど保健室	2025/12/26 名古屋
63)	服部浩佳	Li-Fraumeni症候群～サーベイランス臨床実装への道～	第13回遺伝性腫瘍研究会	2026/3/28 岐阜
64)	時亜矢子 、大河恵子 、中山安由美 、村上亜李紗 、服部浩佳 、山田真弓 、伊藤由佳	入院中の子どもの付き添いに関する環境実態調査報告	第25回中部小児がんトータルケア研究会	2025/10/4 金沢

外科

【論文】				
	著者	題目	掲載誌　巻（号）：頁	発行年月
1)	Shinichi Umeda 1, Goro Nakayama 2, Takayoshi Kishida 2, Norifumi Hattori 2, Koki Nakanishi 2, Haruyoshi Tanaka 2, Dai Shimizu 2, Hideki Takami 2, Masamichi Hayashi 2, Mitsuro Kanda 2, Chie Tanaka 2, Yasuhiro Kodera 2	Efficacy and safety of postoperative adjuvant chemotherapy with oxaliplatin for elderly patients: results from the CCOG-1302 study	International Journal of Clinical Oncology	2025 Jun;30(6):1174-1182. doi: 10.1007/s10147-025-02738-w. Epub 2025 Mar 17.
2)	Keiko Ogawa-Ochiai1✉, Shigetsugu Tsuji2, Atsuki Maeda3, Hisatomo Ikehara4,Kazumi Kawabata5, Takahiro Dohmen6, Eisuke Ojima7, Goro Nakayama8, Takashi Hisabe9,Masaya Suenaga10, Takashi Kagaya11, Kiyoshi Ishigure12, Osamu Okochi13, Masashi Hattori14,Hirokazu Hirai15, Toyotaka Kasai16, Toshiya Takeda17, Takanori Yamada18,19, Isao Yoshida20,Mitsuru Sakai21, Akira Takehara22, Yoshinori Munemoto23, Mitsuru Esaki24,25,Yoshinari Mochizuki26, Koji Nishijima27, Shinji Kitamura28, Seisho Sakai29, Takuo Hara30,Li Honyang1, Hisashi Doyama2, Kunihisa Uchita3, Yasuhiro Kodera8, Kenichi Yoshimura31,Keita Mori32 & Hideki Ishikawa33	A prospective, randomized, double-blind, placebo-controlled trial of the Kampo formula daiobotanpito combined with antibiotic therapy for acute diverticulitis	SCIENTIFIC PEPORTS Article number: 21069 (2025)	Published: 01 July 2025
3)	梅村卓磨、末永雅也、細田和貴、多代充、近藤尚、羽田拓史、木部栞奈、山家豊、竹田直也、島田昌明、村上善子、竹田伸	術前診断で神経内分泌腫瘍との鑑別が困難であった膵腺房細胞癌の1 例	膵臓　40巻4号　85～92, 2025	受理日：令和7年7 月31 日
4)	羽田拓史，末永雅也，金原佑樹，梅村卓磨，袴田紘史，冨永奈沙，宇野泰朗	圧排による門脈左枝の血流障害を合併した左肝動脈瘤破裂に対して肝動脈瘤切除術を選択した1 例	日本腹部救急医学会雑誌 Vol45（7）：640～643, 2025	論文受付 2025 年7 月14 日 同受理　2025 年9 月22 日
5)	印牧　弘貴，末永　雅也，多代充，羽田　拓史、袴田　紘史，梅村卓磨，田中　健太，冨永　奈沙、村上　善子，小寺　泰弘	膵嚢胞性腫瘍の術前診断で手術を施行した総肝動脈神経叢由来の神経鞘腫の１例	日本外科系連合学会 学会雑誌　51巻1号，2026年2月，pp.28-34	2026年2月

6)	Tuvshin Bayasgalan 1, Mitsuro Kanda 2, Yusuke Sato 3, Haote Zhu 1, Mohammad Hussain Hamrah 1, Flor Esther Garza Martinez 1, Takahiro Shinozuka 1, Yuki Ito 1, Masahiro Sasahara 1, Dai Shimizu 1, Shinichi Umeda 1, Yoshikuni Inokawa 1, Norifumi Hattori 1, Masamichi Hayashi 1, Chie Tanaka 1, Yasuhiro Kodera	SPOCD1 Enhances Cancer Cell Activities and Serves as a Prognosticator in Esophageal Squamous Cell Carcinoma	Cancer Genomics & Proteomics	2025 Mar-Apr;22(2):306-325. doi: 10.21873/cgp.20503.
7)	Keiko Ogawa-Ochiai1・, Shigetsugu Tsuji2, Atsuki Maeda3, Hisatomo Ikehara4,Kazumi Kawabata5, Takahiro Dohmen6, Eisuke Ojima7, Goro Nakayama8, Takashi Hisabe9,Masaya Suenaga10, Takashi Kagaya11, Kiyoshi Ishigure12, Osamu Okochi13, Masashi Hattori14,Hirokazu Hirai15, Toyotaka Kasai16, Toshiya Takeda17, Takanori Yamada18,19, Isao Yoshida20,Mitsuru Sakai21, Akira Takehara22, Yoshinori Munemoto23, Mitsuru Esaki24,25, Yoshinari Mochizuki26, Koji Nishijima27, Shinji Kitamura28, Seisho Sakai29, Takuo Hara30, Li Honyang1, Hisashi Doyama2, Kunihisa Uchita3, Yasuhiro Kodera8, Kenichi Yoshimura31, Keita Mori32 & Hideki Ishikawa33	A prospective, randomized, double-blind, placebo-controlled trial of the Kampo formula daiobotanpito combined with antibiotic therapy for acute diverticulitis	SCIENTIFIC PEPORTS	Article number: 21069 (2025) Published: 01 July 2025
8)	Yukiya Narita 1,✉, Hisato Kawakami 2, Koki Nakanishi 3, Akitaka Makiyama 4, Naotoshi Sugimoto 5, Hirotaka Konishi 6, Satoshi Morita 7, Keiko Minashi 8, Motohiro Imano 9, Rin Inamoto 10, Tomohiro Nishina 11, Takeshi Kawakami 12, Motohisa Hagiwara 13, Yasuhiro Kodera 14, Hiroki Kume 15, Keita Yamaguchi 16, Wataru Hashimoto 17, Kei Muro 18	Impact of prior immune checkpoint inhibitor on trastuzumab deruxtecan in HER2-positive advanced gastric cancer: exploratory analysis of the EN-DEAVOR study	Japanese Journal of Clinical Oncology	2026 Mar 6;56(5):538–545. doi: 10.1093/jjco/hyaf216
9)	Haote Zhu 1, Mitsuro Kanda 2, Dai Shimizu 1, Yusuke Sato 3, Tuvshin Bayasgalan 1, Mohammad Hussain Hamrah 1, Flor Esther Garza Martinez 1, Takahiro Shinozuka 1, Kotaro Aoki 1, Shinichi Umeda 1, Hideki Takami 1, Norifumi Hattori 1, Masamichi Hayashi 1, Chie Tanaka 1, Goro Nakayama 1, Yasuhiro Kodera	Overexpression of cat eye syndrome chromosome region, candidate 2 in esophageal squamous carcinoma cell promotes tumor aggressiveness by facilitating NF-κB signaling and inhibition of p53-associated apoptosis	Clinical and Translational Oncology	2026 Feb;28(2):575-588. doi: 10.1007/s12094-025-03991-1. Epub 2025 Aug 4.

10)	SHUNSUKE YAMAGISHI, MITSURO KANDA, TAKAHIRO SHINOZUKA, YUSUKE SATO, DAI SHIMIZU, CHIE TANAKA, SHINICHI UMEDA, HARUYOSHI TANAKA, HIDEKI TAKAMI, NORIFUMI HATTORI, MASAMICHI HAYASHI, GORO NAKAYAMA, YASUHIRO KODERA and YUKIYASU OKAMURA	High Expression of OR1F1 Protein as a Potential Prognostic Biomarker for Esophageal Squamous Cell Carcinoma	Anticancer Research	May 2025, 45 (5) 1997-2009; DOI: https://doi.org/10.21873/anticanres.17575
11)	Nobuhiko Nakagawa 1, Masamichi Hayashi 2, Daigo Kobayashi 1, Tomohisa Otsu 1, Fuminori Sonohara 1, Keisuke Kurimoto 1, Haruyoshi Tanaka 1, Yoshikuni Inokawa 1, Hideki Takami 1, Norifumi Hattori 1, Mitsuro Kanda 1, Chie Tanaka 1, Goro Nakayama 1, Yasuhiro Kodera 1	Exploration of Lipid Mediators for Therapeutic Monitoring of Pancreatic Cancer Patients	Anticancer Research	2025 Apr;45(4):1343-1353. doi: 10.21873/anticanres.17520.
12)	Tomohisa Otsu 1, Hideki Takami 1, Suguru Yamada 2, Masahiro Nakatochi, Keizo Fujita 1, Mitsuru Tashiro 1, Masamichi Hayashi 1, Nobuhiko Nakagawa 1, Keisuke Kurimoto 1, Haruyoshi Tanaka 1, Fumie Kinoshita 3, Yachiyo Kuwatsuka 3, Yasuhiro Kodera 1	Phase II Randomized Controlled Trial to Evaluate the Supportive Effect of Koujin (TJ-3020) Powder in Gemcitabine and Nab-Paclitaxel-Treated Unresectable or Recurrent Pancreatic Cancer	Pancreas	2025 Apr 1;54(4):e353-e359. doi: 10.1097/MPA.0000000000002446.
13)	Silei Sui 1,2, Caiming Xu 1,3, Mitsuro Kanda 4, Yoshinaga Okugawa 5, Yuji Toiyama 5, Joon Oh Park 6, Hoon Hur 7,8, Song Cheol Kim 9, Akinobu Taketomi 10, Yasuhiro Kodera 4, Xiangdong Cheng 11, Man Li 2, Ajay Goel	Exosomal Liquid Biopsy for the Early Detection of Gastric Cancer: The DESTINEX Multicenter Study	JAMA Surgery	2025 Sep 1;160(9):973-982. doi: 10.1001/jamasurg.2025.2493.
14)	Zhenggang Zhu 1,✉,#, Joji Kitayama 2,#, Hyung-Ho Kim 3,4,#, Jimmy Bok-Yan So 5,6,#, Hui Cao 7, Lin Chen 8, Xiangdong Cheng 9, Jiankun Hu 10, Motohiro Imano 11, Hironori Ishigami 12,13, Ye Seob Jee 14, Jong-Han Kim 15, Yasuhiro Kodera 16, Han Liang 17, Xiaowen Liu 18,19, Sheng Lu 1, Yiping Mou 20, Mingming Nie 21, Won Jun Seo 22, Yanong Wang 18,19, Dan Wu 23, Zekuan Xu 24, Hironori Yamaguchi 25, Chao Yan 1, Zhongyin Yang 1, Kai Yin 21, Yutaka Yonemura 26, Wei-Peng Yong 27, Jiren Yu 28, Jun Zhang	Asian consensus on normothermic intraperitoneal and systemic treatment for gastric cancer with peritoneal metastasis	Gastric Cancer	2025 Sep;28(5):731-748. doi: 10.1007/s10120-025-01631-9. Epub 2025 Jul 14.

15)	Flor Esther Garza Martinez 1, Mitsuro Kanda 2, Yusuke Sato 3, Haote Zhu 1, Tuvshin Bayasgalan 1, Mohammad Hussain Hamrah 1, Dai Shimizu 1, Haruyoshi Tanaka 1, Shinichi Umeda 1, Norifumi Hattori 1, Masamichi Hayashi 1, Chie Tanaka 1, Goro Nakayama 1, Yasuhiro Kodera 1	The role of CST2 in the pathogenesis and prognosis of esophageal squamous cell carcinoma	Clinical and Translational Oncology	2025 Oct;27(10):3981-3992. doi: 10.1007/s12094-025-03925-x. Epub 2025 Apr 21.
16)	Norifumi Hattori 1, Goro Nakayama 1, Shinichi Umeda 1, Takayoshi Kishida 1, Shigeomi Takeda 2, Kazuhiro Ezaka 3, Masayuki Tsutsuyama 4, Mitsuru Sakai 5, Masashi Hattori 6, Takeshi Ito 7, Mitsuro Kanda 1, Chie Tanaka 1, Kenta Murotani 8, Masahiko Ando 9, Yasuhiro Kodera 6	Phase II study of FOLFIRI with low-dose irinotecan plus ramucirumab as second-line treatment in Japanese patients with metastatic colorectal cancer (study rindo)	Japanese Journal of Clinical Oncology	2026 Mar 13;56(3):267-273. doi: 10.1093/jjco/hyaf198.

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月(場所)
1)	横山 由依、末永 雅也、多代 充、羽田 拓史、梅村 卓磨、袴田 紘史、田中 健太、冨永 奈沙、田嶋 久子、宇野 泰朗、服部 正嗣、岩越 朱里、小寺 泰弘	集学的治療によって長期生存を得ている成人発症の肝未分化肉腫の一例	第 125 回日本外科学会定期学術集会	2025年4月11日（仙台）
2)	宇野 泰朗、羽田 拓史、梅村 卓磨、袴田 紘史、田中 健太、田嶋 久子、多代 充、服部 正嗣、末永 雅也、小寺 泰弘	当院における胃癌穿孔症例の検討	第 125 回日本外科学会定期学術集会	2025年4月11日（仙台）
3)	伊藤 雄貴、神田 光郎、清水　大、笹原 正寛、田中 千恵、中西 香企、田中 晴祥、梅田 晋一、高見 秀樹、服部 憲史、林 真路、中山 吾郎、小寺 泰弘	食道扁平上皮癌の血行性転移におけるNECAB2の腫瘍学的機能に関する検討	第 125 回日本外科学会定期学術集会	2025年4月10日（仙台）
4)	栗本 景介、林 真路、園原 史訓、中川 暢彦、川勝 章司、山田 美保子、田中 晴祥、渡辺 伸元、砂川 真輝、髙見 秀樹、尾上 俊介、神田 光郎、山口 淳平、水野 隆史、伊神 剛、中山 吾郎、國料 俊男、横山 幸浩、江畑 智希、小寺 泰弘	肝細胞癌に対して切除を行った，Child-Pugh 分類 A の患者における予後予測マーカーとしてのCRP-albumin ratio（CAR）	第 125 回日本外科学会定期学術集会	2025年4月10日（仙台）
5)	山岸 俊介、神田 光郎、清水 大、佐藤 雄亮、田中 千恵、中山 五郎、小寺 泰弘、岡村 行泰	食道扁平上皮癌における OR1F1 タンパク質発現と予後との関連	第 125 回日本外科学会定期学術集会	2025年4月10日（仙台）

6)	田中 晴祥 、山田 裕宜 、酒井 彩乃 、山田 豪 、大津 智尚、中川 暢彦 、栗本 景介 、猪川 祥邦 、林 真路 、渡辺 伸元 、末永 雅也 、渋谷 和人 、山口 淳平 、髙見 秀樹 、藤井 努 、江畑 智希 、小寺 泰弘	Conversion surgery に向けた個別化治療戦略―GnP 導入化学放射線療法と Tumor marker gene model―	第 125 回日本外科学会定期学術集会	2025年4月10日（仙台）
7)	清水 大 、神田 光郎 、梅田 晋一 、髙見 秀樹 、服部 憲史 、林 真路 1、田中 千恵、中山 吾郎 、藤原 道隆 、小寺 泰弘	進行食道扁平上皮癌に対する術前 Docetaxel+Oxaliplatin+S1療法の第II相臨床試験の短期成績	第 125 回日本外科学会定期学術集会	2025年4月12日（仙台）
8)	飯塚 彬光 、神田 光郎 、清水 大 、梅田 晋一 、田中 晴祥 、高見 秀樹 、服部 憲史 、林 真路 、田中 千恵 、中山 吾郎 、小寺 泰弘	食道扁平上皮癌における NR0B1 遺伝子の腫瘍学的機能解析と組織中発現の臨床的意義	第 125 回日本外科学会定期学術集会	2025年4月12日（仙台）
9)	Masaya Suenaga , Mitsuru Tashiro , Shin Takeda	Evaluation of Outcomes Following the Introduc tion of Laparoscopic Hepatectomy at a Middle Volume Cente	第37回日本肝胆膵外科学会学術集会	2025年6月14日（軽井沢）
10)	Mitsuru Tashiro , Masaya Suenaga , Shin Takeda	Impact of a risk score on predicting postoperative pancreatic fistula after pancreaticoduodenectomy in patients with non-pancreatic cancer	第37回日本肝胆膵外科学会学術集会	2025年6月14日（軽井沢）
11)	末永雅也、多代充、梅村卓磨、袴田紘史、田中健太、田嶋久子、宇野泰朗、服部正嗣、竹田伸、小寺泰弘	膵癌に対する術前補助療法導入後の治療成績の検討	第80回日本消化器外科学会総会	2025年7月16日（神戸）
12)	多代充、末永雅也、袴田紘史、梅村卓磨、田中健太、田嶋久子、宇野泰朗、服部正嗣、竹田伸、小寺泰弘	Resectable 肝細胞癌における術後早期再発リスク因子の検討	第80回日本消化器外科学会総会	2025年7月18日（神戸）
13)	宇野泰朗、羽田拓史、袴田紘史、梅村卓磨、田中健太、田嶋久子、多代充、服部正嗣、末永雅也、小寺泰弘	当院における胃神経内分泌癌切除例の検討	第80回日本消化器外科学会総会	2025年7月16日（神戸）
14)	田中健太、末永雅也、多代充、梅村卓磨、袴田紘史、田嶋久子、宇野泰朗、服部正嗣、竹田伸、小寺泰弘	当院における肝嚢胞に対する腹腔鏡下肝嚢胞天蓋切除術の導入後成績の検討	第80回日本消化器外科学会総会	2025年7月17日（神戸）
15)	袴田紘史、末永雅也、多代充、梅村卓磨、田中健太、田嶋久子、宇野泰朗、服部正嗣、竹田伸、小寺泰弘	肝動脈の血行再建を回避した膵切除術の5例	第80回日本消化器外科学会総会	2025年7月16日（神戸）
16)	末永雅也、多代充	Conversion 手術を施行した大腿骨前面の軟部転移を伴う切除不能膵癌の1例	第56回日本膵臓学会大会	2025年7月26日（東京）
17)	多代充、末永雅也	亜全胃温存膵頭十二指腸切除後の吻合部潰瘍穿孔の2 例	第56回日本膵臓学会大会	2025年7月26日（東京）
18)	田中晴祥1, 酒井彩乃2, 末永雅也3, 林真路1, 山田裕宜1, 中川暢彦1, 栗本景介1, 深澤美奈2, 渋谷和人1, 川勝章司1, 渡辺伸元1, 砂川真輝1, 尾上俊介1, 山口淳平1, 水野隆史1, 國料俊男1, 高見秀樹1, 江畑智希1, 藤井努	Significance of Tumor Marker Gene Model in conversion surgery for UR-PC	第56回日本膵臓学会大会	2025年7月26日（東京）

19)	末永 雅也，多代 充，袴田 紘史，松本 格，羽田 拓史，梅村 卓磨，田中 健太，冨永 奈沙，田嶋 久子，宇野 泰朗，服部 正嗣，竹田 伸，小寺 泰弘	代償血管経路の温存により肝動脈の血行再建を回避して手術を施行した膵癌の5例	第52回日本膵切研究会	2025年8月23日（富山）
20)	多代 充，末永 雅也，松本 格，羽田 拓史，袴田 紘史，梅村 卓磨，田中 健太，冨永 奈沙，田嶋 久子，宇野 泰朗，服部 正嗣，小寺 泰弘	動脈再建を回避して腹腔動脈狭窄を伴う症例に対する膵頭十二指腸切除術を施行した3例	第52回日本膵切研究会	2025年8月23日（富山）
21)	多代　充、末永雅也	根治切除術後に早期の肝転移再発をきたした肝内胆管粘表皮癌の1例	第61回日本胆道学会学術集会	2025年10月3日（名古屋）
22)	田中健太、末永雅也、多代充、松本格、羽田拓史、袴田紘史、梅村卓磨、冨永奈沙、田嶋久子、宇野泰朗、服部正嗣、小寺泰弘	膵癌と活動性肺結核を併存した1例：腫瘍抑制と感染管理の両立における課題	第63回日本癌治療学会学術集会	2025年10月17日（横浜）
23)	田中 健太、末永 雅也、多代 充、羽田 拓史、梅村 卓磨、袴田 紘史、冨永 奈沙、田嶋 久子、宇野 泰朗、服部 正嗣、小寺 泰弘	Middle volume center における腹腔鏡下膵体尾部切除術の導入後成績の検討	第33回日本消化器関連学会週間　JDDW2025	2025年10月30日-11月1日（神戸）
24)	服部正嗣、宇野泰朗、田中健太、松本格、羽田拓史、梅村卓磨、袴田紘史、冨永奈沙、田嶋久子、多代充、末永雅也、小寺泰弘	ロボット支援下結腸手術の導入	第79回国立病院総合医学会	2025年11月7-8日（金沢）

25)	田中健太、末永雅也、多代充、荒井花純、鈴木菜つみ、曽我舞、宮田遥香、平石江理奈、横山由依、松本格、羽田拓史、袴田紘史、梅村卓磨、冨永奈沙、田嶋久子、宇野泰朗、服部正嗣、小寺泰弘	A Case of Concomitant Pancreatic Cancer and Ac-tive Tuberculosis: Challenges in Balancing Onco-logic and Infectious Management	第79回国立病院総合医学会	2025年11月7-8日（金沢）
26)	梅村卓磨、末永雅也、多代充、近藤尚、鈴木菜つみ、荒井花純、宮田遥香、平石江理奈、横山由依、羽田拓史、袴田紘史、田中健太、冨永奈沙、田嶋久子、宇野泰朗、服部正嗣、島田昌明、村上善子、小寺泰弘	術前診断で神経内分泌腫瘍との鑑別が困難であった膵腺房細胞癌の1 例	第79回国立病院総合医学会	2025年11月7-8日（金沢）
27)	羽田拓史、末永雅也、多代充、荒井花純、鈴木菜つみ、曽我舞、宮田遥香、平石江理奈、横山由依、松本格、袴田紘史、梅村卓磨、田中健太、冨永奈沙、田嶋久子、宇野泰朗、服部正嗣、小寺泰弘	圧排による門脈左枝の血流障害を合併した左肝動脈瘤破裂に対して肝動脈瘤切除術を選択した1例	第79回国立病院総合医学会	2025年11月7-8日（金沢）
28)	宮田遙香、服部正嗣、宇野泰朗、松本格、羽田拓史、梅村卓磨、袴田紘史、田中健太、冨永奈沙1、田嶋久子、多代充、末永雅也、小寺泰弘	完全内蔵逆位を伴う直腸癌に対してロボット支援下直腸切除術を施行した1例	第79回国立病院総合医学会	2025年11月7-8日（金沢）
29)	平石江理奈、宇野泰朗、袴田紘史、多代充、羽田拓史、梅村卓磨、田中健太、冨永奈沙、田嶋久子、服部正嗣、末永雅也、小寺泰弘	不明熱で発見された小腸平滑筋肉腫の1 例	第79回国立病院総合医学会	2025年11月7-8日（金沢）
30)	鈴木菜つみ、末永雅也、多代充、荒井花純、曽我舞、宮田遥香、平石江理奈、横山由依、松本格、羽田拓史、袴田紘史、梅村卓磨、田中健太、冨永奈沙、田嶋久子、宇野泰朗、服部正嗣、小寺泰弘	Conversion 手術を施行した大腿骨前面の軟部転移を伴う切除不能膵癌の1 例	第79回国立病院総合医学会	2025年11月7-8日（金沢）
31)	荒井花純、多代充、末永雅也、鈴木菜つみ、曽我舞、宮田遥香、平石江里奈、横山由依、松本格、羽田拓史、梅村卓磨、田中健太、冨永奈沙、田嶋久子、宇野泰朗、服部正嗣、小寺泰弘	根治切除術後に早期の肝転移再発をきたした肝内胆管粘表皮癌の1 例	第79回国立病院総合医学会	2025年11月7-8日（金沢）
32)	横山由依、末永雅也、多代充、羽田拓史、梅村卓磨、袴田紘史、田中健太、冨永奈沙、田嶋久子、宇野泰朗、服部正嗣、岩越朱里、小寺泰弘	集学的治療によって長期生存を得ている成人発症の肝未分化肉腫の一例	第79回国立病院総合医学会	2025年11月7-8日（金沢）
33)	曽我舞、服部正嗣、松本格、羽田拓史、梅村卓磨、袴田紘史、田中健太、冨永奈沙、宇野泰朗、田嶋久子、多代充、末永雅也、小寺泰弘	大腸穿孔に対する手術症例の検討	第79回国立病院総合医学会	2025年11月7-8日（金沢）

34)	服部 正嗣, 宇野 泰朗, 松本 格, 羽田 拓史, 袴田 紘史, 梅村 卓磨, 田中 健太, 冨永 奈沙, 田嶋 久子, 多代 充, 末永 雅也, 小寺 泰弘	完全内蔵逆位を伴う直腸癌に対してロボット支援下直腸切除術を施行した1例	第80回日本大腸肛門病学会学術集会	2025年11月14-15日（東京）
35)	宇野 泰朗, 服部 正嗣, 羽田 拓史, 袴田 紘史, 梅村 卓磨, 田中 健太, 冨永 奈沙, 田嶋 久子, 多代 充, 末永 雅也, 小寺 泰弘	当院におけるHIV感染合併肛門扁平上皮癌7例の検討	第80回日本大腸肛門病学会学術集会	2025年11月14-15日（東京）
36)	袴田紘史、多代充、羽田拓史、梅村卓磨、田中健太、田嶋久子、冨永奈沙、宇野泰朗、服部正嗣、末永雅也、小寺泰弘	不明熱を契機に発見し、術前診断に難渋した空腸平滑筋肉腫の１例	第87回日本臨床外科学会学術集会	2025年11月20-22日（東京）
37)	末永雅也、杉山圭司、多代　充、矢口正宏、伊藤拓未、白石和寛、加藤恭子、梅村卓磨、袴田紘史、田中健太、田嶋久子、小寺泰弘	市中病院における肝細胞癌に対する免疫療法の実臨床成績と安全性の検討	第58回制癌剤適応研究会	2026年2月27日（軽井沢）
38)	田中健太、末永雅也、多代　充、松本　格、羽田拓史、梅村卓磨、袴田紘史、冨永奈沙、田嶋久子、宇野泰朗、服部正嗣、小寺泰弘	心不全を合併した高齢者の切除可能境界肝細胞癌に対して複合免疫療法を用いた術前薬物療法を経て根治切除を施行した1例	第58回制癌剤適応研究会	2026年2月27日（軽井沢）
39)	袴田紘史、多代　充、末永雅也、猪野　陸、杉山圭司、梅村卓磨、田中健太、冨永奈沙、田嶋久子、宇野泰朗、服部正嗣、小寺泰弘	巨大空腸平滑筋肉腫に対し根治切除術と術後補助化学療法を施行した1例	第58回制癌剤適応研究会	2025年2月27日（軽井沢）
40)	服部 正嗣、石川 悠地、宇野 泰朗、冨永 奈沙、多代 充 、末永 雅也、伊藤 拓未、大脇 聖楽、加藤 恭子、杉山 圭司、小寺 泰弘	胃癌の術前病期診断の正確性の検討 ― 治療戦略への示唆	第98回日本胃癌学会総会	2026年3月4-6日（沖縄）
41)	宇野 泰朗、冨永 奈沙、多代 充、末永 雅也、伊藤 拓未、大脇 聖楽、加藤 恭子、杉山 圭司、小寺 泰弘	当院における胃神経内分泌癌の治療経験	第98回日本胃癌学会総会	2026年3月4-6日（沖縄）
42)	杉山 圭司、伊藤 拓未、矢口 正宏、大脇 聖楽、猪野 陸、佐藤 真利子、白石 和寛、加藤 恭子、今泉 良典、飛野 矢、村山 睦 、島田 昌明、服部 正嗣、末永 雅也 、小寺 泰弘、北川 智余恵	化学療法中の進行胃癌患者における栄養サポートの生存への影響	第98回日本胃癌学会総会	2026年3月4-6日（沖縄）
43)	杉山 圭司、伊藤 拓未、矢口 正宏、大脇 聖楽、猪野 陸、佐藤 真利子、白石 和寛、加藤 恭子、村山 睦、島田 昌明、冨永 奈紗、宇野 泰朗、多代 充、服部 正嗣、末永 雅也、北川 智余恵	名古屋医療センターにおける進行胃癌薬物療法の変遷と担い手の変化	第98回日本胃癌学会総会	2026年3月4-6日（沖縄）
44)	加藤 恭子、伊藤 拓未、矢口 正宏、大脇 聖楽、佐藤 真利子、猪野 陸、冨永 奈紗、白石 和寛、杉山 圭司、宇野 泰朗、多代 充、服部 正嗣、末永 雅也、村山 睦、島田 昌明、小寺 泰弘、北川 智余恵	進行胃癌における生存成績の時代的変化：15年間の後方視的解析	第98回日本胃癌学会総会	2026年3月4-6日（沖縄）
45)	伊藤 拓未、加藤 恭子、矢口 正宏、大脇 聖楽、佐藤 真利子 、猪野 陸、白石 和寛 、杉山 圭司、冨永 奈紗、宇野 泰朗、多代 充、服部 正嗣、末永 雅也 、村山 睦、島田 昌明、小寺 泰弘 、北川 智余恵	高齢進行胃癌患者（80歳以上）に対する化学療法の治療成績	第98回日本胃癌学会総会	2026年3月4-6日（沖縄）

46)	袴田紘史、多代　充、末永雅也、松本　格、羽田拓史、梅村卓磨、田中健太、冨永奈沙、田嶋久子、宇野泰朗、服部正嗣、小寺泰弘	下血を契機に発見され腸重積を呈した孤立性 Peutz-Jeghers 型過誤腫性ポリープの 1 例	第9回日本サルコーマ治療研究会学術集会	2026年3月5-6日（別府）
47)	田中健太　宇野泰朗　羽田拓史　梅村卓磨　袴田紘史　冨永奈沙　末永雅也	保存的治療にて軽快した胃蜂窩織炎の1例	第62回日本腹部救急医学会総会	2026年3月（横浜）
48)	梅村卓磨　末永雅也　羽田拓史　袴田紘史　田中健太　冨永奈沙　宇野泰朗	血管型Ehlers－Danlos症候群による解離性脾動脈瘤破裂に対して手術で救命し得た1例	第62回日本腹部救急医学会総会	2026年3月（横浜）
49)	羽田拓史　多代充　折原由依　松本格　梅村卓磨　袴田紘史　田中健太　冨永奈沙　田嶋久子　宇野泰朗　服部正嗣　末永雅也　小寺泰弘	急性虫垂炎を契機として診断された虫垂子宮内膜症の1例	第62回日本腹部救急医学会総会	2026年3月（横浜）
50)	柏田 知美, 山田 哲平, 園田 英人, 服部 正嗣, 川中 博文, 辻 靖, 牧山 明資, 太田 光彦, 高橋 郁雄, 篠原 雄大, 山口 敏史, 進藤 吉明, 澤田 憲太郎, 榮 達智, 下川 元継, 佐伯 浩司, 沖 英次	TROX試験：HER2陽性進行・再発胃癌に対するトラスツズマブBSとS-1+オキサリプラチン併用療法もしくはカペシタビン+オキサリプラチン併用療法に関する第Ⅱ相臨床試験	第23回日本臨床腫瘍学会学術集会	2026年3月（横浜）
51)	榊田 智喜, 朝山 雅子, 諏訪 雄亮, 志村 貴也, 三谷 誠一郎, 牧山 明資, 武田 弘幸, 松岡 宏, 横田 満, 髙野 祥直, 服部 正嗣, 小田 尚伸, 梶原 猛史, 小川 浩平, 柴田 伸弘, 澤田 憲太郎, 四方田 隆任, 工藤 敏啓, 室谷 健太, 谷口 浩也	切除不能大腸癌に対するFTD/TPI+BEVの従来法と隔週法の実用的ランダム化第III相試験における治療早期副作用の比較：PRABITAS試験初回報告	第23回日本臨床腫瘍学会学術集会	2026年3月（横浜）

整形外科

	著者	題目	掲載誌 巻（号）：頁	発行年月
1)	Imai Y, Kono M, Ishii T, Kojima T, et al	Spacing of a TNF inhibitor or dose reduction of methotrexate vs continued treatment in patients with rheumatoid arthritis in remission or low disease activity: a randomised, controlled trial (SORAIRO trial).	Ann Rheum Dis. 2026 Apr;85(4):609-619. doi: 10.1016/j.ard.2026.02.004. Epub 2026 Feb 28.PMID: 41763966	2026.2
2)	Kaneko Y, Tsujimoto N, Sato I, Kojima T, et al	Patient-Reported Outcomes in Patients with Rheumatoid Arthritis Treated with Baricitinib: A Prospective Observational Study in Japan.	2 Mod Rheumatol. 2026 Mar 21:roag032. doi: 10.1093/mr/roag032. Online ahead of print.PMID: 41863639	2026.3
3)	Hosokawa Y, Yoshida Y, Tamai H, Hirata S, Ikeda K, Miyamoto T, Taguchi H, Kuo CF, Shin K, Izumi K, Kondo Y, Yasuoka H, Kuwana M, Ishii T, Kameda H, Kojima T, et al	Circulating microRNAs associated with tumour necrosis factor or fibloblast-like synoviocyte predict cartilage damage in early rheumatoid arthritis treated with methotrexate plus adalimumab: a subanalysis of the MIRACLE study.	Clin Exp Rheumatol. 2026 Mar;44(3):491-498. doi: 10.55563/clinexprheumatol/keymab. Epub 2025 Sep 19.PMID: 41004307	2025.9
4)	Miyamae T, Okamoto N, Inoue Y, Kubota T, Ebato T, Irabu H, Kameda H, Kaneko Y, Kubo H, Mitsunaga K, Mori M, Nakajima A, Nishimura K, Ohkubo N, Sato T, Sugita Y, Takanashi S, Tanaka T, Umebayashi H, Yashiro M, Yamanishi S, Fusama M, Hirata S, Kishimoto M, Kohno M, Kojima M, Kojima T, et al.	Recommendations for the treatment of juvenile idiopathic arthritis with oligoarthritis or polyarthritis from the 2024 update of the Japan College of Rheumatology Clinical Practice Guidelines for the management of rheumatoid arthritis including juvenile idiopathic arthritis with oligoarthritis or polyarthritis - secondary publication.	Mod Rheumatol. 2025 Sep 2;35(5):894-908. doi: 10.1093/mr/roaf042.PMID: 40459241	2025.9
5)	Harigai M, Kaneko Y, Tanaka E, Hirata S, Kameda H, Kaneko K, Kishimoto M, Kohno M, Kojima M, Kojima T, et al.	2024 Update of the Japan College of Rheumatology Clinical Practice Guidelines for the Management of Rheumatoid Arthritis: Secondary publication.	Mod Rheumatol. 2025 Apr 8;35(3):387-401. doi: 10.1093/mr/roaf006.PMID: 398203506	2025.4
6)	Asai S, Kojima T, et al	Discontinuation vs. continuation of concomitant methotrexate in patients with rheumatoid arthritis on certolizumab pegol: results from a randomised, controlled trial.	Arthritis Res Ther. 2025 Apr 5;27(1):82. doi: 10.1186/s13075-025-03548-1.PMID: 40188084	2025.4
7)	Yamamoto H, Suzuki M, Kojima T,et al.	Evaluation of physical function in rheumatoid arthritis patients by locomotive syndrome stage.	Mod Rheumatol. 2026 Mar 5;36(2):205-210. doi: 10.1093/mr/roaf098.PMID: 412947132	2026.3
8)	Asai S, Terabe K, Hasegawa J, Yoshioka Y, Kato T, Kojima T,et al.	Effects of concomitant methotrexate and predictors of remission in Janus kinase inhibitor therapy for rheumatoid arthritis.	Joint Bone Spine. 2026 Jan;93(1):105961. doi: 10.1016/j.jbspin.2025.105961. Epub 2025 Sep 6.PMID: 40921393	2025.9
9)	Saito Y, Suzuki M, Kojima T,et al.	Features of sarcopenic obesity in rheumatoid arthritis patients.	Geriatr Gerontol Int.2025 Oct;25(10): 1323-1331. doi: 10.1111/ggi.70149. Epub 2025 Aug 23.PMID: 40847783	2025.8
10)	Kosugiyama H, Asai S, Terabe K, Kobayakawa T, Yoshioka Y, Watanabe T, Kojima T,et al.	Comparable Clinical Effectiveness of Baricitinib and Filgotinib in Patients With Rheumatoid Arthritis.	Int J Rheum Dis. 2025 May;28(5): e70288. doi: 10.1111/1756-185X.70288.PMID: 40375443	2025.5

脳神経外科

【論文】

	著者	題目	掲載誌 巻（号）：頁	発行年月
1）	Okumura T, Usui N, Kondo A, Ogawa H, Hashiguchi M, Kuromi Y, Yamaguchi T, Otani H, Imai K, Ishizaki T, Tanei T, **Maesawa S**, Saito R.	Favorable seizure and developmental outcomes without preoperative intracranial electroencephalography in pediatric patients following epilepsy surgery: A single epilepsy center retrospective study	Epilepsia. 66(4)	2025. 4月
2）	Suzuki T, Ishizaki T, **Maesawa S**, Hashida M, **Ito Y**, Tanei T, Saito R.	Hemorrhagic complication due to vascular side branch injury from a distant site in stereoelectroencephalography: A case report and proposed rules for safer electrode implantation.	Seizure 125	2025. 2月
3）	Ishizaki T, **Maesawa S**, Suzuki T, Hashida M, **Ito Y**, Yamamoto H, Tanei T, Natsume J, Hoshiyama M, Saito R.	Frequency-specific network changes in mesial temporal lobe epilepsy: Analysis of chronic and transient dysfunctions in the temporo-amygdala-orbitofrontal network using magnetoencephalography.	Epilepsia Open. 10(2)	2025. 4月
4）	Tanei T, **Maesawa S**, Nishimura Y, Nagashima Y, Ishizaki T, **Ito Y**, Hashida M, Suzuki T, Yamamoto S, Saito R.	Spinal Cord Stimulation for Intractable Pain Caused by Sacroiliac Joint Dysfunction: A Case Report.	NMC Case Rep J. 12	2025. 4月
5）	Muraoka S, Izumi T, Nishida K, Chrétien B, Ishii K, Takeuchi I, Nishihori M, Goto S, **Maesawa S**, Shimato S, Kinkori T, Asai T, Suzuki O, Saito R.	RECOVER study: a multicenter retrospective cohort study and comparison of the efficacy and safety of clazosentan and fasudil in patients with aneurysmal subarachnoid hemorrhage.	J Neurosurg. 143(3)	2025. 5月
6）	Tsuboi T, Uematsu T, Sawada K, Higuchi M, Hashida M, Muto M, **Ito Y**, Ishizaki T, Kato S, Nakatsubo D, Tsugawa T, **Maesawa S**, Saito Y, Fukushima T, Tamakoshi D, Hiraga K, Suzuki M, Saito R, Ramirez-Zamora A, Okun MS, Katsuno M.	Determinants of clinical and neurophysiological features in essential tremor and essential tremor plus.	J Neural Transm (Vienna). 132 (7)	2025. 7月
7）	Tanei T, Yamamoto S, **Maesawa S,** Nishimura Y, Ishizaki T, Nagashima Y, **Ito Y**, Hashida M, Suzuki T, Hamasaki H, Wakabayashi T, Saito R.	Identifying Factors Associated with the Efficacy of Lasmiditan 50 mg as an Acute Treatment for Migraine Attacks Under Various Dosing Conditions in Real-World Clinical Practice.	Neurol Int. 17(5)	2025. 4月
8）	Ishizaki T, **Maesawa S**, Yamamoto S, Suzuki T, Hashida M, **Ito Y**, Tanei T, Saito R.	Thalamic neural activity and epileptic network analysis using stereoelectroencephalography: a prospective study protocol.	BMJ Open.15(6)	2025. 6月
9）	**Ito Y**, **Maesawa S**, Kato S, Tsugawa T, Nakatsubo D, Tanei T, Ishizaki T, Mutoh M, Hashida M, Suzuki T, Tsuboi T, Suzuki M, Katsuno M, Saito R.	The relationship between lesion overlap with automatically segmented structures and treatment outcomes following MR-guided focused ultrasound thalamotomy for tremor.	J Neurosurg. 143(4)	2025. 7月
10）	Tsuboi T, Uematsu T, **Ito Y**, Ishizaki T, **Maesawa S**, Saito R, Yoshino H, Hattori N, Ramirez-Zamora A, Okun MS, Katsuno M.	Long-term efficacy of deep brain stimulation in PLA2G6-related Parkinson's disease: A case report with literature review.	Clin Park Relat Disord.13	2025. 7月
11）	Ishizaki T, **Maesawa S**, Yamamoto S, Suzuki T, Hamasaki H, Tanei T, Saito R.	Efficacy of a radiofrequency thermocoagulation strategy targeting the propagation network in MRI-negative post-encephalitic insular epilepsy: a case report.	Acta Neurochir (Wien). 167(1)	2025. 8月
12）	TOSHIAKI INOMO, MASASUKE OHNO, TORU NAGASAKA, **SHUNICHIRO KURAMITSU**, EIJI ITO, TADASHI WATANABE, MITSUGU FUJITA	Characterization of Tumor Immune Microenvironment in Meningiomas: Correlation of Tumor-infiltrating Lymphocyte Aggregates With Tumor Grade	Anticancer Research 45	2025. 8月

13）	M. Angela Aznar Charly R. Good Julie S. Barber-Rotenberg Sangya Agarwal Wesley Wilson Alex Watts Zhen Zhang Donna Gonzales Greg Donahue Wei-Ting Hwang Austin K. Rennels Andrew J. Rech **Shunichiro Kuramitsu** Hua Huang Karl M. Glastad Katherine A. Alexander Gabriela Plesa Emily Dowd Andrea Brennan Donald L. Siegel Janos Tanyi Andrew Haas Drew A. Torigian Gregory Nadolski Vanessa E. Gonzalez Elizabeth O. Hexner Joseph A. Fraietta Julie K. Jadlowsky Regina M. Young Shelley L. Berger Carl H. June Mark H. O' Hara	Clinical and molecular dissection of CAR T cell resistance in pancreatic cancer	Cell Reports Medicine 6	2025. 9月
14）	Takeuchi I, Muraoka S, Kinoshita F, Izumi T, Ishii K, Nishihori M, Goto S, Saito R .Collaborators: **Maesawa S** et al.	Efficacy of combined clazosentan and cilostazol therapy for cerebral vasospasm after subarachnoid hemorrhage: a retrospective multicenter registry study	J Neurosurg.19	2025. 9月
15）	Lintas K, **Kuramitsu S, Eguchi K, Ito M, Ando R, Matsuno H, Ito Y, Sugiyama Y, Asanuma Y, Maesawa S.**	A ruptured de novo anastomotic aneurysm shortly after superficial temporal artery-to-middle cerebral artery bypass surgery in a patient with moyamoya disease: illustrative case.	J Neurosurg Case Lessons.10(16)	2025. 10月
16）	Iwasaki M, Hayashi T, Iijima K, Kimura Y, Ikegaya N, Takayama Y, Sonoda M, Morishita T, Hagiwara K, Fukuda M, Ishizaki T, **Maesawa S.**	Volume-Based Stereotactic Radiofrequency Thermocoagulation for Drug-Resistant Focal Epilepsy: Preliminary Multicenter Report From Japan.	Oper Neurosurg.	2025. 12月
17）	Takamatsu N, Kimura H, Oba MS, Chiba H, Umemoto I, Moriyama Y, Matsunaga N, Morioka S, Mori D, Hara K, Ogura A, Yoshida K, Watanabe H, **Maesawa S**, Ikeda M, Katsuno M, Ohmagari N, Takao M, Kito S, Ozaki N, Kuga H.	Persistent Interleukin-1 β Elevation in Post-COVID-19 Patients: Findings From a Nationwide Registry Study in Japan	Neuropsychopharmacol Rep. e700082	2026. 3月
18）	**前澤聡**	MRガイド下集束超音波治療（MRgFUS）	脳神経外科速報 35(6)	2025. 11月
19）	石崎友崇 **前澤聡** 齋藤竜太	機能解剖から読み解く視床前核脳深部刺激療法の実践	脳神経外科（医学書院）53(6)	2025. 12月

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月（場所）
1）	前澤聡	コネクトーム基盤型定位機能外科手術の確立に向けて	第31回山口九州機能外科セミナー	熊本 2025. 8月
2）	前澤聡	機能的脳神経外科手術における標的構造のコネクトーム可視化戦略	第84回日本脳神経外科学会総会	横浜 2025. 10月
3）	前澤聡	脳外科臨床に役立つてんかんの最新知識	尾北エリアてんかん診療セミナー	名古屋 2025. 11月
4）	前澤聡	加齢・認知症に対する脳内ネットワーク研究とニューロモデュレーションの期待	第44回日本認知症学会学術集会	新潟 2025. 11月

5)	前澤聡	視床前核(ANT)と大域ネットワーク制御	第49回日本てんかん外科学会	大阪 2026.2月
6)	前澤聡	パーキンソン病と本態性振戦におけるコネクターハブ	第65回日本定位・機能神経外科学会	大阪 2026.2月
7)	倉光俊一郎	診断に長期間を要したエルドハイム・チェスター病中枢神経浸潤の一例	第43回日本脳腫瘍学会学術総会	天童市 2025.12月
8)	Kaoru Eguchi	A Case of Basilar Invagination associated with Rheumatoid Arthritis Treated with Occipitocervical Fusion Preserving the Semispinalis Cervicis Muscle	European Association of Neurosurgical Societies Congress	Viena 2025/9月
9)	江口馨	OVFに対するcement augmented screwの短期～長期成績	日本脳神経外傷学会	東京 2025.2月
10)	江口馨	関節リウマチを合併した頭蓋底陥入症に頚半棘筋を温存した固定術を施行した一例	日本脊髄外科学会	秋田 2025.6月
11)	江口馨	頸半棘筋を温存した固定術を施行した一例	日本脊髄外科学会	秋田 2025.6月
12)	伊藤真史	当院におけるSPASM管理	Northwest Owari SAH SPASM Expert Meeting	名古屋 2025.3月
13)	伊藤真史	名古屋医療センターにおける急性期脳卒中治療	STOP CVD －未来を守る降圧治療－	名古屋 2025.6月
14)	安藤遼	Spino-pelvic fixationで治療した不安定型仙骨骨折の1例	第40回 日本脊髄外科学会	秋田 2025.6月
15)	伊藤芳記	Elementsによる自動セグメンテーションを用いた振戦に対する集束超音波治療の効果の評価	第64回 日本定位・機能神経外科学会	大阪 2026.2月
16)	板垣由宇也	中枢神経症状で発症したErdheim-Chester病の一例	第108回日本脳神経外科中部支部学術集会	名古屋 2025.9月
17)	杉山祐	関節リウマチを合併した頭蓋陥入症に頸半棘筋を温存した固定術を施行した一例	第107回日本脳神経外科中部支部学術集会	岐阜 2025.4月

乳腺外科

【論文】				
	著者	題目	掲載誌　巻（号）：頁	発行年月
1)	Kazuki Nozawa 1 2, Masataka Sawaki 3, Yukari Uemura 4, Michiko Tsuneizumi 5, Toshimi Takano 6, Naomi Gondo 7, Fumikata Hara 8, Michiko Harao 9, Tatsuya Toyama 2, Naruto Taira 10, Ana Vivancos 11, Charles M Perou 12, Esther Sanfeliu 11, Fara Brasó-Maristany 11, Joel S Parker 11, Wesley Buckingham 11, Laia Paré 11, Guillermo Villacampa 13, Mercedes Marín-Aguilera 11, Patricia Villagrasa 11, Aleix Prat 14 15 16 17 18, Hiroji Iwata	HER2DX in older patients with HER2-positive early breast cancer: extended follow-up from the RESPECT trial of trastuzumab ± chemotherapy	Nature communications	2025 Nov 4;16(1):9585. doi: 10.1038/s41467-025-65599-x.
2)	澤木正孝	乳がん診療における心毒性の特徴とOnco–Cardiology の重要性	癌と化学療法	Volume 52, Issue 5, 389 - 393 (2025)
3)	Mizutani T, Sato F, Uemura K, Shimizu Y, Iwatani T, Kobayashi S, Sawaki M, Tashiro S, Tsuji T, Yamamoto H, Ogawa A, Hamaguchi T	Primary endpoints in randomized controlled trials for older adults with cancer: A scoping review	Journal of Geriatric Oncology	Volume 17, Issue 2102895March 2026
4)	Kei Ito 1 2, Naoko Honma 3, Hideaki Ogata 4, Akimitsu Yamada 5, Mika Miyashita 6, Tomio Arai 7, Eiichi Sasaki 8, Kazutoshi Shibuya 3, Tetuo Mikami 1, Masataka Sawaki 9	Role of ERβ in Triple-Negative Breast Cancer Associated with p53 and Androgen Receptor	international Journal of molecular sciences	2025 Nov 26;26(23):11459. doi: 10.3390/ijms262311459
5)	Akinobu Nakata 1, Naoya Hashimoto 2, Yukiya Narita 1, Munehiro Wakabayashi 1, Hiroyuki Kodama 1, Takatsugu Ogata 3, Kazunori Honda 1, Toshiki Masuishi 1, Hiroya Taniguchi 1, Shigenori Kadowaki 1, Masashi Ando 1, Yuka Endo 4, Haruru Kotani 4, Ayumi Kataoka 4, Masaya Hattori 4, Akiyo Yoshimura 4, Masataka Sawaki 4, Kazuki Nozawa 4 5, Isao Oze 6, Hiroji Iwata 4, Kei Muro 1	Safety of a short-term infusion of fosnetupitant in patients with gastrointestinal and breast cancer: a prospective study	The oncologist	2025 Feb 6;30(2):oyae223. doi: 10.1093/oncolo/oyae223.
6)	Toshitaka Okuno 1,✉, Takanori Watanabe 2, Takuhiro Yamaguchi 3, Sachiyo Konno 4, Rie Takaki 5, Ryoji Watanabe 6, Kanako Ban 7, Koichi Hirokaga 8, Masahiko Tsuruoka 9, Takako Morita 10	Usefulness of color Doppler and strain elastography adjunctive to B-mode ultrasonography in the diagnosis of non-mass abnormalities of the breast: results of the BC-07 multicenter study of 385 cases	Journal of Medical Ultrasonics	(2025) 52:157–168

7)	山口 美樹, 笠原 善郎, 安藝 史典, 宇佐美 伸, 大村 東生, 印牧 義英, 隈 浩司, 清水 忠博, 白岩 美咲, 高橋 宏和, 武井 寛幸, 中嶋 啓雄, 森田 孝子, 山口 由美, 古川 拓実	乳がん検診の全国集計2025(対象2022年度)(解説)	日本乳癌検診学会誌	(0918-0729)35巻1号 Page86-98(2026)
8)	森田孝子	【脂肪移植】乳房再建脂肪注入の画像所見について(解説)	Oncoplastic Breast Surgery	(2432-4647)10巻4号 Page122-129(2025.12)
9)	Tomonori Mizutani 1, Funato Sato 2, Kohei Uemura 3, Yukari Shimizu 4, Tsuguo Iwatani 5, Satoshi Kobayashi 6, Masataka Sawaki 7, Shimon Tashiro 8, Tetsuya Tsuji 9, Hiroshi Yamamoto 10, Asao Ogawa 11, Tetsuya Hamaguchi 12;	Primary endpoints in randomized controlled trials for older adults with cancer: A scoping review	Journal of Geriatric Oncology	2026 Mar;17(2):102895. doi: 10.1016/j.jgo.2026.102895. Epub 2026 Jan 29.
10)	Ayumu Matsuoka 1, Fumio Nagashima 2, Asao Ogawa 3, Hiroshi Yamamoto 4, Akira Katsumi 5, Naoko Hosono 6, Akitaka Makiyama 7, Tetsuya Hamaguchi 8, Junichi Nakazawa 9, Nagio Takigawa 10, Hajime Asahina 11, Masataka Sawaki 12, Akihiko Shimomura 13, Hiroyuki Nishiyama 14, Taigo Kato 15, Yuichi Ando 16	Japanese clinical practice guidelines for pharmacotherapy in older adults with cancer (second edition): an overview	International Journal of clinical oncology	2026 Jun 20. doi: 10.1007/s10147-026-03100-4. Online ahead of print.

耳鼻咽喉科

【原著論文】

	著者	題目	掲載誌 （巻（号）頁）	発行年月
1)	降簇敏熙、寺西正明、加藤健、神本高宏、曾根三千彦	原発性上咽頭結核例	耳鼻咽喉科臨床　119（1）31－36	2026年1月
2)	中山明峰、寺西正明	耳鼻咽喉科医が知っておきたい睡眠薬処方の知識　めまいと睡眠薬	ENTONI　316　44－46	2025年11月
3)	中山明峰、寺西正明	透析患者の睡眠障害、睡眠関連呼吸障害群睡眠関連呼吸障害群に対するCPAP治療の適応と効果	臨床透析　41（11）1343－1348	2025年11月

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月 （場所）
1)	竹市愛花里、寺西正明、加藤健、神本高宏、松永達雄	難聴遺伝子解析にて判明したヌーナン症候群例	第87回耳鼻咽喉科臨床学会	6月26日 奈良
2)	加藤健、中田隆文。竹市愛花里、森永麻美、寺西正明	当院で加療を行ったGrade４突発難聴症例の検討	第126回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会	5月27日 横浜
3)	○酒井　成輝，中山　明峰，中田隆文，寺西　正明，林　由理子，中山　裕子	PPPDに対する前庭リハビリテーション―認知行動療法を組み合わせた集学的アプローチの再検討―	第84回めまい平衡医学会	11月27日 横浜
4)	○中山　明峰，酒井　成輝，中田隆文，寺西　正明，林　由理子，中山　裕子	PPPDに対する認知行動療法の問題点について	第84回めまい平衡医学会	11月27日 横浜
5)	竹市愛花里、大西里帆、神本高宏、中田隆文、竹内佑介、森永麻美、加藤健、寺西正明	内耳障害を伴った髄膜炎・尿閉症候群	第188回東海地方部会連合講演会	12月14日 長久手
6)	大西里帆、竹市愛花里、神本高宏、中田隆文、竹内佑介、森永麻美、加藤健、寺西正明	上咽頭原発の髄外性形質細胞腫例	第188回東海地方部会連合講演会	12月14日 長久手
7)	寺西正明	朝起きられない中高生の睡眠の実態と対応について	日本睡眠学会第49回定期学術集会	6月28日 広島
8)	寺西正明、中田隆文、林由由里子、浅野美穂、中山裕子、中山明峰、坂本なほ子、角南貴志子	児童の睡眠問題を考えるー起立性調整障害と睡眠障害の関係	日本睡眠学会第49回定期学術集会	6月29日 広島

皮膚科

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月 （場所）
1)	成田　有理	隆起性皮膚線維肉腫との鑑別を要した細胞性皮膚線維腫の１例	第313回日本皮膚科学会東海地方会	2025.9 （愛知）

泌尿器科

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月（場所）
1）	川西秀治	当院における尿路結石手術の計画的遂行に影響を与える因子の検討	第39回日本泌尿器内視鏡ロボティクス学会	2025年11月（東京）
2）	平林毅樹	ロボット支援下骨盤内蔵全摘術の経験からの手術手技、解剖の検討	第39回日本泌尿器内視鏡ロボティクス学会	2025年10月（東京）
3）	岩本開仁	Ⅱ型肝腎損傷が疑われた自傷による腹部刺創の一例	第299回日本泌尿器科学会東海地方会	2025年6月（名古屋）
4）	印牧弘貴	腹圧性尿失禁Stamey手術長期経過後に皮下膿瘍を形成した1例	第75回日本泌尿器科学会中部総会	2025年11月（奈良）
5）	川西秀治	心室転移を伴った左腎盂癌の一例	第75回日本泌尿器科学会中部総会	2025年11月（奈良）

眼科

【論文】

	著者	題目	掲載誌 巻（号）：頁	発行年月
1)	岡戸聡志	TOPICS： 涙嚢鼻腔吻合術における 術後鼻内パッキング素材	眼科手術 37(7):346-350	2024
2)	廣瀬浩士	第6章　眼附属器･その他の疾患 涙小管閉塞、涙小管炎	眼科診療秘伝の書 217-220	2024.11.15
3)	Aoki S, Wakatsuki M, Tsuji H, Makishima H, Ikawa H, Yamada S, Inoue Y, Goto H, Suzuki S, Kubota T, Ishikawa H, Mizota A; Working group for ophthalmologic tumors	Long-Term outcomes of ocular and visual preservation after carbon ion radiation therapy for choroidal malignant melanoma.	Int J Radiat Oncol Biol Phys.	2024
4)	近澤公彦, 廣瀬浩士, 岡戸聡志	急性リンパ性白血病の眼内浸潤により前房蓄膿とともに高眼圧を呈した1例	臨床眼科78(5):629-633	2024
5)	廣瀬浩士	Ⅳ.治療　12.涙嚢摘出術	新篇眼科プラクティス 涙道診療オールインワン 205-206 文光堂	2025.4.3
6)	廣瀬浩士	先天涙嚢瘤 【特集】みんな人好き！涙道クリニック	臨床眼科79(13) : 1552-1556	2025.12

放射線科

【論文】

	著者	題目	掲載誌　巻（号）：頁	発行年月
1)	Muramatsu C, Oiwa M, Nishimura R, Kawasaki T	Classification of invasive and non-invasive breast carcinomas with multiscale cross-modal attention modules.	Proc SPIE Medical Imaging	2026/3 in press
2)	Torii A, Tomita N, Takaoka T, Kondo T, Yamamoto S, Sugie C, Nagai A, Miyakawa A, Kuno M, Uchiyama K, Otsuka S, Ogawa Y, Takano S, Kita N, Tanaka T, Ogawa R, Kubota E, Takiguchi S, Kataoka H, Hiwatashi A.	Salvage radiotherapy for locoregional recurrence of esophageal cancer after surgery.	Jpn J Clin Oncol. 2025 Jan 8;55(1):59-66..	2025.01
3)	Niwa M, Tomita N, Ishiyama H, Kaneko H, Oshima Y, Takano H, Matsuo M, Kuno M, Miyakawa A, Otsuka S, Takaoka T, Okazaki D, Torii A, Kita N, Takano S, Nakamura M, Kato H, Morita A, Hiwatashi A.	Clinical Outcomes and Prognostic Factors for Extramammary Paget's Disease Treated with Radiation Therapy: A Multi-Institutional Observational Study.	Cancers (Basel). 2025 Apr 29;17(9):1507.	2025.04
4)	Niwa M, Niwa M, Tomita N, Ishiyama H, Uchida A, Oshima Y, Takano H, Matsuo M, Kuno M, Miyakawa A, Otsuka S, Matsui T, Yamamoto S, Takaoka T, Okazaki D, Torii A, Kita N, Takano S, Nakamura M, Kato H, Morita A, Hiwatashi A.	Optimizing radiation therapy for merkel cell carcinoma: evaluating prognostic factors and treatment outcomes.	Int J Clin Oncol. 2025 Oct;30(10):2148-2156.	2025.10

歯科口腔外科

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月（場所）
1)	後藤　藍，小田知生	筋強直性ジストロフィー患者に外科的矯正治療を行った一例	第35回 日本顎変形症学会総会・学術大会	2025.6（北九州）
2)	宇佐美雄司，上嶋伸知，小田知生	歯科医療従事者の経皮的曝露後の対応における病診連携に関する考察	第25回 日本歯科医学会学術大会	2025.9（横浜）
3)	上嶋伸知，白井大士，成田健悟，後藤　藍，宇佐美雄司，小田知生	歯科口腔外科領域に関わるインシデントレポートの分析	第79 回　国立病院総合医学会	2025.11（金沢）
4)	後藤　藍，宇佐美雄司，上嶋伸知，成田健悟，白井大士，小田知生	腎盂癌の口腔内転移の1例	第70回 日本口腔外科学会総会・学術大会	2025.11（福岡）
5)	白井大士，上嶋伸知，成田健悟，後藤　藍，宇佐美雄司，小田知生	下顎水平埋伏智歯抜歯を行った発作性夜間ヘモグロビン尿症患者の1例	第70回 日本口腔外科学会総会・学術大会	2025.11（福岡）
6)	宇佐美雄司，佐藤　淳，後藤　哲，斎藤夕子，丸岡豊，高木純一郎，鹿野学，柴　秀樹，吉川博政，小田知生	卒後臨床研修歯科医師におけるHIV/AIDSに関する認識についての検討	第39回 日本エイズ学会学術集会・総会	2025.12（熊本）
7)	中川裕美子，宇佐美雄司，小田知生	歯科衛生士教育機関におけるHIV感染症の教育ツール作成に関する調査研究	第39回 日本エイズ学会学術集会・総会	2025.12（熊本）

病理診断科

【論文】

	著者	題目	掲載誌 巻（号）：頁	発行年月
1)	Daiki Hirano, Hiroatsu Iida, Akari Iwakoshi, Akiyo Sunohara, Michita Suzuki, Yasuhiro Suzuki, Nobuhiko Imahashi, Tatsuya Adachi, Hirokazu Nagai	Successful treatment of smoldering multiple myeloma-associated type I cryoglobulinemia with bortezomib and autologous peripheral blood stem cell transplantation	Journal of clinical and experimental hematopathology : JCEH. 65(2):121-128	2025年6月
2)	中島 崚亮, 岩越 朱里, 足立 達哉, 酒井 美紗樹, 後藤 勇也, 飯田 浩充, 加留部 謙之輔, 永井 宏和	原発性骨髄線維症との鑑別を要した骨髄線維化を伴う脾辺縁帯リンパ腫の1例	日本検査血液学会雑誌 26(3):371-381	2025年11月
3)	鬼塚 すみれ, 岩越 朱里, 佐藤 啓, 村上 善子, 久保田 敏信, 西村 理恵子	IgG4陽性細胞増加とアミロイド沈着を伴った眼窩好酸球性血管中心性線維症の1例	病院病理 43(1):30-38	2026年1月
4)	Eiichi Sasaki, Jen-Fan Hang, Yoshitsugu Horio, Akari Iwakoshi, Katsuhiro Masago, Masahide Oki	Aerogenous Dissemination of DEK::AFF2 Carcinoma : A Prototype of a Previously Underrecognized Pattern of Endobronchial Metastasis From Extrathoracic Malignancies	The American journal of surgical pathology 50(2):189-193	2026年2月
5)	村上 善子, 久野 欽子, 星川 じゆん, 澤野 智哉, 西村 理恵子	名古屋医療センターでの乳腺穿刺吸引細胞診報告様式 IAC Yokohama system の運用経験	日本臨床細胞学会雑誌 65(2):77-82	2026年3月

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月 （場所）
1)	村上 善子	IAC Yokohama Systemによって階層化した当院乳癌検体の臨床病理学的検討	第114回日本病理学会総会	2025年4月 （宮城県仙台市）
2)	都築 恵美	モノクローナルなB細胞増殖を伴ったため診断に苦慮した皮膚濾胞ヘルパー T細胞リンパ腫の1例	第65回日本リンパ腫学会学術集会・総会（旧・日本リンパ網内系学会学術集会・総会）／第28回日本血液病理研究会	2025年7月 （愛知県名古屋市）
3)	鬼塚 すみれ	症例番号：1648	第95回日本病理学会中部支部交見会	2025年12月 （愛知県名古屋市）

薬剤部

【論文】

	著者	題目	掲載誌 巻（号）：頁	発行年月
1)	Katsu H,Asai Y,Iwamoto T,Hirano R	Assessment of the risk of developing cefepime-induced abnormal liver enzyme levels using the albumin-bilirubin score and fibrosis-4 index: a single-centre retrospective case-control study	J Antimicrob Chemother. 2025 Oct 3;80(10):2742-2751	2025.10.3
2)	上田 真也・小川 千晶・赤岩愛記・軍司 剛宏、成田 和希・吉岡若那・奥隅 拓郎、薄　雅人	潜在性結核感染症治療による肝機能障害発症リスク因子の検討	日本病院薬剤師会雑誌,61（7）,739-744,2025	2025.7.1

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月 （場所）
1)	薄雅人・後藤拓也・早川未紗・山田紗由美・勝弘毅・ 市川和哉・早川裕二・田淵克則・平野隆司（名古屋医療）	院外処方箋における問い合わせ簡素化プロトコルのアンケートに基づいた有用性の検討	第35回日本医療薬学会年会	2025/11/23
2)	小崎華 、松木克仁、羽柴知恵子、今橋真弓、平野隆司、横幕能行（名古屋医療）	HIV Symptom Indexを用いた 問診票導入と薬剤による自覚症状の差の検討	第39回エイズ学会学術集会・総会	2025/12/6
3)	早川未紗、薄雅人 、齋場紋、永井歩奈、山田紗由美 、佐藤菜月、後藤拓也、田淵克則 、平野隆司（名古屋医療）	院外処方箋における問い合わせ簡素化プロトコルの運用状況 およびアンケート調査	第79回国立病院総合医学会	2025/11/7
4)	早川 未紗、松木克仁、薄雅人、勝弘毅、後藤拓也、田淵克則、平野隆司（名古屋医療）	院内処方箋における問い合わせ簡素化プロトコル導入による有用性の検討	第19回医療マネジメント学会　愛知県支部学術集会	2025/11/29
5)	勝　弘毅	医療DXの現状と今後	第16回金鯱薬連携研究会	2026/2/8
6)	勝　弘毅	セフェピム誘発性肝障害の発現予測に対する肝線維化指標Fibrosis-4 indexの関連および予測精度に関する単施設症例対照研究	令和7年度東海北陸国立病院薬剤師会 研究・取り組み発表会	2026/2/1
7)	松木　克仁	薬剤師ワークショップ　これからのHIV診療を支える薬剤師の視点と実践 HIV診療のperson-centered careにおける薬剤師の役割- 病院薬剤師の視点から-	第39回エイズ学会学術集会・総会	2025/12/5
8)	松木　克仁	シンポジウム「チーム医療からみる”こころ”とはなにか」 薬剤師からみる“こころ”とは	第39回エイズ学会学術集会・総会	2025/12/7
9)	松木克仁、薄雅人、後藤拓也、田淵克則、平野隆司（名古屋医療）	院内処方箋における問い合わせ簡素化プロトコルのアンケートに基づいた有用性の検討	第35回日本医療薬学会年会	2025/11/24

【勉強会（企業協賛）】

1)	松木克仁（名古屋医療）	薬剤師が押さえておきたい今のHIV治療の知識	薬剤師のための！HIV感染症y長期療養マネジメントセミナー	2025.7.31
2)	早川　裕二(名古屋医療)	ディスカッサント	Supportive Care & Task Shift Meeting	2025.8.1

看護部

【論文】

	著者	題目	掲載誌 巻（号）：頁	発行年月
1)	坂田　瞳	能登半島地震被災地から被災者受け入れに対するインタビュー調査	日本救急医学会中部地方会誌Vol２１ 10～12. 2025	2025.12

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月 （場所）
1)	尾崎　匠哉	A病院における診療看護師(NP)の認知度と期待に関する調査-職種間比較と診療看護師(NP)数増加への活動戦略-	第11回 日本NP学会学術集会	2025.10 （島根）
2)	大村　梢	心電図モニターに関するインシデント削減に向けた取り組み～研修体制の見直しを通して～	第79回 国立病院総合医学会	2025.11 （石川）
3)	尾崎　匠哉	国立病院機構に勤務する看護師の診療看護師(NP)の認知度と期待に関する調査	第79回 国立病院総合医学会	2025.11 （石川）
4)	立松　美穂	当院の副看護師長としての課題の明確化に対する取り組み -看護管理者能力開発プログラム（CREATE）の評価指標を作成して-	第79回 国立病院総合医学会	2025.11 （石川）
5)	伊藤　規広	混合病棟における二年目看護師の振り返りから見えた成長へのプロセス	第79回 国立病院総合医学会	2025.11 （石川）
6)	荻須　多美子	入院早期からのACP聴取の必要性～死の危機から回復を遂げた患者との関わりを元に～	第79回 国立病院総合医学会	2025.11 （石川）
7)	釜谷真由	A病院救命救急センターにおける代理意思決定支援を支える看護師の倫理的ジレンマ意思決定支援・ACP５	第79回 国立病院総合医学会	2025.11 （石川）
8)	木下萌恵	意思決定が困難な患者の最善の治療方針を考える	第79回 国立病院総合医学会	2025.11 （石川）
9)	浅田　瞳	手指衛生遵守率向上に向けた取り組み～感染管理認定看護師による直接観察指導の効果～	第79回 国立病院総合医学会	2025.11 （石川）
10)	松元 美穂	名古屋医療センターにおける禁煙外来の過去5年間の禁煙成功の要因に関する分析	第79回 国立病院総合医学会	2025.11 （石川）
11)	森 香奈恵	急性期の脳神経内科疾患患者における転倒転落の要因分析	第79回 国立病院総合医学会	2025.11 （石川）
12)	木下　紀道	身体拘束は誰が外すのか？―超高齢誤嚥性肺炎患者の１事例を通じたミドルマネージャーによる実践知と課題―	第79回 国立病院総合医学会	2025.11 （石川）
13)	木下　紀道	CAUTIサーベイランス結果の早期フィードバックによる指標改善：神経内科病棟におけるICT介在型多職種協働効果の検証	第19回 日本医療マネジメント学会 愛知県支部学術集会	2025.11 （愛知）
14)	加藤　彩子	COVID-19病棟における退院支援フローチャートを活用したOJT教育	第２３回国立病院看護研究学会学術集会	2025.12 （熊本）
15)	城後　美和	小児病棟 - 移植病棟間の連携促進を目的とした移植前ミーティング導入による移植病棟看護師の困難感の変化	第48回 日本造血・免疫細胞療法学会総会	2026.2 （東京）
16)	木下　紀道	タクロリムス投与中のシリンジポンプ関連インシデントに対する多職種連携教育介入の効果	第48回 日本造血・免疫細胞療法学会総会	2026.3 （東京）
17)	木下　紀道	COVID-19発生初期に看護師長のコミュニケーションが看護師の精神的エンパワメントに与えた影響	第45回 日本看護科学学会	2025.12 （新潟）
18)	小栗あゆ子	人生の最終段階に向かう中「今は考えたくない」と話すがん患者のACP支援に関する一考察	第40回日本がん看護学会学術集会	2026.2 （大阪）
19)	能澤　紅音	身寄りのないAYA世代がん患者に対するACP支援の実際と課題	第40回日本がん看護学会学術集会	2026.2 （大阪）

放射線科

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月 （場所）
1)	浦野　航平	Radial 収集法使用時の均一性測定と検討	第81回日本放射線技術学会総会学術大会	2025.4.10 （横浜）
2)	中山　純平	CT画像における画像回転が画質特性に与える影響についての検討	第79回国立病院総合医学会	2025.11.8 （金沢）
3)	岩間　晶子	自施設におけるデジタルブレストトモシンセシス品質管理の実態と課題	第79回国立病院総合医学会	2025.11.8 （金沢）
4)	横山　諒吾	dS SmallExtremity 16chコイル使用時の磁場中心と中心外のSNRと均一性の評価	第79回国立病院総合医学会	2025.11.8 （金沢）
5)	阪井　和奈	マンモグラフィ再撮影の現状と基準化の検討	第35回日本乳癌検診学会学術総会	2025.11.28 （高知県）

リハビリテーション科

【学会発表　理学療法】

	発表者	題目	発表機関	発表年月
1)	横地雅和	足底感覚機能向上によって歩行能力が改善した脳性麻痺の一症例	第79回国立病院総合医学会	2025/11/8
2)	横地雅和	足底挿板療法によって歩行能力が向上した脳性麻痺の一症例	第33回整形外科リハビリテーション学会学術集会	2025/9/14
3)	吉岡 稔泰	リハビリテーション科における障がい者雇用の取り組み（第二報）	第79回国立病院総合医学会	2025/11/7

【学会発表　作業療法】

	発表者	題目	発表機関	発表年月
1)	那須野輔	ICUにおける作業療法士の役割	第80回国立病院総合医学会	2025/11/8

【学会発表　言語聴覚療法】

	発表者	題目	発表機関	発表年月
1)	岩﨑拓海	HCUにおける早期リハビリテーション介入のための取り組み	第26回日本言語聴覚学会	2025/6/27
2)	岩﨑拓海	ICUにおける言語聴覚士の役割	第79回国立病院総合医学会	2025/11/8
3)	岩﨑拓海	当院ICUにおける言語聴覚士の役割・活動	第53回日本集中治療医学会学術集会	2026/3/7
4)	岩﨑拓海	令和6年　能登半島地震における災害派遣活動報告 ～日本災害リハビリテーション支援協会（日本JRAT）としてロジスティック業務の派遣活動を行って～	愛知県三士会合同 災害対策啓発研究会	2025/11/23
5)	櫻井隆晃	隔離中のCOVID-19患者に対する言語聴覚士介入による誤嚥性肺炎予防効果：経口スコアマッチングを用いた解析	第26回日本言語聴覚学会	2025/6/27
6)	櫻井隆晃	カフ上発声の多職種アプローチの試み：臨床導入に向けた初期検討	第79回国立病院総合医学会	2025/11/8
7)	櫻井隆晃	当院におけるカフ上発声（Above Cuff Vocalization：ACV）の取り組み	第53回日本集中治療医学会学術集会	2026/3/7
8)	櫻井隆晃	COVID-19患者への言語聴覚療法の提供時間に対するフレイルの影響	第11回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会東海北陸支部学術集会	2025/4/26
9)	櫻井隆晃	交流集会　ICUでの医療情報の理解・統合・活用	第31回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会	2025/9/20

【論文　言語聴覚療法】

	著者名	タイトル	雑誌名	当科著者
1)	Shun Yamamoto, Takafumi Tanei, Shintaro Oyama, Tomotaka Ishizaki, Miki Hashida, Takahiro Suzuki, Hajime Hamasaki, Takaaki Sakurai, Satomi Mizuno, Toshihiko Wakabayashi, Ryuta Saito	Correlation between novel checkmark-only headache diary and productivity loss and medication effectiveness in migraine patients	Neurological Sciences	櫻井　隆晃
2)	Shinichi Watanabe 1,2, Takaaki Sakurai 2, Takahiro Kanaya 2,3, Takumi Iwasaki 2, Hyosuke Oshima 2, Tetsuya Furukawa 2, Tomohiro Yoshikawa 4, Seichi Nakahashi 2	Impact of Frailty on the Duration and Type of Speech-Language-Hearing Therapy for Patients With COVID-19	Cureus	櫻井　隆晃

臨床工学室

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月（場所）
1)	服部　季実子	輸液ポンプの流量誤差インシデントを経験して	第35回日本臨床工学会	2025年5月17日（大阪）

臨床研究企画管理部

【論文】

	著者	題目	掲載誌　巻（号）：頁	発行年月
1)	Sakaguchi H, Sakaguchi K, Kato I, Noma H, Hiramatsu H, Ishida H, Yabe H, Goto H, Kawahara Y, Yamashita YI, Sanada M, Deguchi T, Takahashi Y, Saito AM, Takagi M, Okuno K, Taga T, Horibe K, Okamoto Y, Koh K, Manabe A, Umeda K.	Post-transplant maintenance with blinatumomab for children, adolescents, and young adults with relapsed and refractory B-cell acute lymphoblastic leukemia: results of phase I in SCT-ALL-BLIN21	Haematologica. 111(1):329-334	2026 JAN
2)	Katayama S, Moriya K, Imamura T, Tamefusa K, Sakaguchi K, Ishihara T, Nishi M, Usami I, Hama A, Hasegawa D, Sato A, Suenobu S, Moriya-Saito A, Horibe K, Hara J	Japan Association of Childhood Leukemia Study Group (JACLS). Outcome of chemotherapy dose reduction in overweight Japanese children with acute lymphoblastic leukemia	Int J Hematol. 123(2):305-307	2026 FEB
3)	Komori T, Kawai T, Okuno Y, Tsujimoto S, Kato S, Kamitori T, Saida S, Ikeda J, Ohki K, Kato M, Tomizawa D, Taga T, Takita J, Horibe K, Adachi S, Hayashi Y, Ito S, Shiba N.	Identification of cellular hierarchy in paediatric acute myeloid leukaemia: The Japan Children's Cancer Group trial (JCCG AML-12)	Br J Haematol. Online ahead of print.	2026 FEB
4)	Ishida H, Suenobu S, Imamura T, Shiwaku T, Uemura S, Deguchi T, Miyamura T, Kato K, Hori H, Okada K, Tsujimoto H, Oda M, Endo M, Hasegawa D, Yumura-Yagi K, Takahashi Y, Usami I, Kosaka Y, Iguchi A, Kawasaki H, Sato A, Hara J, Moriya-Saito A, Horibe K, Hashii Y	Outcomes of children with T-cell acute lymphoblastic leukemia treated with the JACLS T-02 protocol	Int J Hematol Online ahead of print.	2026 FEB
5)	Mori T, Kada A, Osumi T, Tomizawa D, Koga Y, Fukano R, Takeuchi K, Tateishi U, Miyazaki O, Asada R, Saito AM, Fukuhara K, Sekimizu M.	Phase 1/2 Study of Crizotinib in Children With Relapsed/Refractory ALK-Positive Anaplastic Large Cell Lymphoma or Neuroblastoma in Japan.	Cancer Sci. 117(3):777-786	2026.3
6)	Sakamoto K, Yanagisawa R, Ono R, Doi T, Negishi T, Kada A, Saito AM, Kanegane H, Morimoto A, Shioda Y, Nakazawa Y.	Risk-Stratified Phase II Clinical Trial for Epstein-Barr Virus-Associated Hemophagocytic Lymphohistiocytosis in Pediatric, Adolescent, and Young Adult Patients in Japan.	Pediatr Blood Cancer. 73(2):e32166	2026.2
7)	Suzukawa M, Ohta K, Tashimo H, Narumoto O, Hashimoto H, Kita T, Takato H, Nagase H, Kobayashi K, Yamaguchi M, Abe M, Ito R, Endo T, Yanai H, Chibana K, Hizawa N, Tanimoto Y, Takagi K, Oguma T, Harada N, Sagara H, Kato A, Takata S, Komase Y, Hyodo K, Matsunaga K, Tsujino K, Niimi A, Wakamatsu K, Sugiura H, Sakakibara Y, Kamimura M, Shibata Y, Tanaka G, Nakamoto K, Tamaki S, Minakata Y, Numata T, Saito AM, Kobayashi N, Taniguchi M; TNH - Azma Research Group (TARG).	High Serum Thymic Stromal Lymphopoietin (TSLP) Is Characteristic of Late-Onset, Long-Duration, Eosinophilic Asthma	Allergy. 81(2):402-412	2026.2

8)	Kogure Y, Hashimoto H, Ikeda S, Harada T, Hino A, Miura S, Goto Y, Fujiwara K, Katakami N, Kubota K, Murata N, Mori M, Abe T, Saito AM, Yamamoto N, Saka H, Kondo M.	Efficacy of pembrolizumab plus pemetrexed in older patients with non-squamous NSCLC according to PD-L1 expression status: Results from the CJLSG1901 study	Cancer Treat Res Commun. 46:101094	2026.1
9)	Sakakibara Y, Mannami T, Kuwai T, Kagaya T, Toyokawa T, Katsushima S, Kanda T, Shimada M, Kuramochi M, Hamada S, Fujii H, Watanabe N, Wakatsuki T, Tamaru Y, Esaka N, Sasaki Y, Kubo K, Mabe K, Yamada T, Ishihara A, Uraoka T, Kato M, Kada A, Saito AM, Harada N.	Continuous versus Intermittent Midazolam Sedation in Balloon-Assisted Enteroscopy: A Multicenter Randomized Trial.	Digestion. 2026 Jan 6:1-13. Epub ahead of print	2026.1
10)	Shimokawahara H, Nishizaki M, Inami T, Kubota K, Taniguchi Y, Miyagi A, Kikuchi H, Goda A, Miyanaga S, Hashimoto H, Saito AM, Sekimizu M, Matsubara H.	Effect of riociguat on exercise following balloon pulmonary angioplasty in patients with inoperable chronic thromboembolic pulmonary hypertension in Japan (THERAPY-HYBRID-BPA): a multicentre, double-blind, randomised, controlled, phase 4 trial	Lancet Respir Med. 13(9):789-799	2025.9
11)	Takeda K, Aotani D, Hashimoto H, Hamada K, Hasegawa C, Shimizu Y, Kuga Y, Ando T, Yagi T, Koyama H, Takagi H, Shiraki S, Yokochi T, Kamiya T, Kataoka H, Tanaka T.	Association of Heavy Smoking With High Body Mass Index and Cardiovascular Risk Score in Japan	Obes Sci Pract. 11(4):e70089	2025.8
12)	Nakagawa T, Fujita K, Miki M, Ito A, Namkoong H, Asakura T, Morimoto K, Hasegawa N, Kita T, Watanabe A, Tsuyuguchi K, Kawashima M, Shiozawa A, Watanabe S, Sato A, Kato T, Kimizuka Y, Harada H, Fujita K, Saito AM, Hashimoto H, Inoue Y, Ogawa K.	Intermittent versus Daily Therapy for Noncavitary *Mycobacterium avium* Complex Pulmonary Disease: An Open-Label Randomized Trial	Ann Am Thorac Soc. 22(8):1183-1192	2025.8
13)	Hashimoto Y, Ito T, Gotoh A, Nakamae M, Kimura F, Koike M, Kirito K, Wada H, Usuki K, Tanaka T, Mori T, Wakita S, Saito TI, Kada A, Saito AM, Shimoda K, Sugimoto Y, Kurokawa T, Tomita A, Edahiro Y, Kiyoi H, Akashi K, Matsumura I, Takenaka K, Komatsu N.	Post-Diagnosis Hemorrhagic Events Are Strongly Associated With Poor Survival in Patients With Essential Thrombocythemia.	EJHaem. 6(4):e70103	2025.7
14)	Maeda S, Hashimoto H, Maeda T, Tamechika SY, Naniwa T, Niimi A.	Comprehensive and advanced T cell cluster analysis for discriminating seropositive and seronegative rheumatoid arthritis	Front Immunol. 16:1491041	2025.7
15)	Matsumura T, Hashimoto H, Takizawa H, Yoshioka W, Mori-Yoshimura M, Saito Y, Nishino I, Nakamura H.	Clinical and genetic characteristics based on the Japanese patient registry for facioscapulohumeral muscular dystrophy: a nationwide analysis	Neuromuscul Disord. 50:105346	2025.5

16)	Fukui T, Mamesaya N, Takahashi T, Kishi K, Yoshizawa T, Tokito T, Azuma K, Morikawa K, Igawa S, Okuma Y, Yamanaka Y, Hosokawa S, Kasai T, Masubuchi K, Nakamichi S, Aga M, Sasaki J, Kada A, Saito AM, Naoki K, Okamoto H; Thoracic Oncology Research Group (TORG).	A Prospective Phase II Trial of First-Line Osimertinib for Patients With EGFR Mutation-Positive NSCLC and Poor Performance Status (OPEN/TORG2040).	J Thorac Oncol. 20(5):665-675	2025.5
17)	Fukui T, Igawa S, Naoki K, Mamesaya N, Takahashi T, Yoshizawa T, Tokito T, Azuma K, Morikawa K, Okuma Y, Yamanaka Y, Hosokawa S, Kasai T, Masubuchi K, Nakamichi S, Aga M, Okamoto H, Sasaki J, Saito AM	A Prospective Phase II Trial of First-Line Osimertinib for Patients With EGFR Mutation-Positive NSCLC and Poor Performance Status (OPEN/TORG2040)	J Thorac Oncol 20(5): 665-675	2025年5月
18)	Kodama Y, Nishi M, Sato A, Imamura CK, Deguchi T, Hirakawa A, Kiyokawa N, Ohki K, Shima H, Shimada H, Kato K, Kato M, Kawasaki H, Sakaguchi H, Hiramatsu H, Goto H, Yamamoto S, Ito M, Tanizawa A, Yuza Y, Saito AM, Ogawa C, Taga T, Adachi S	A prospective study evaluating the safety and pharmacokinetics of ponatinib at a fixed dose in six paediatric patients with philadelphia chromosome-positive leukaemia: JCCG PedPona19 study	Br J Haematol 207(1)	2025年7月
19)	Hashimoto Y, Tanaka T, Ito T, Gotoh A, Nakamae M, Kimura F, Koike M, Kirito K, Wada H, Usuki K, Mori T, Wakita S, Saito TI, Kada A, Saito AM, Shimoda K, Sugimoto Y, Kurokawa T, Tomita A, Edahiro Y, Komatsu N, Kiyoi H, Akashi K, Matsumura I, Takenaka K	Post-Diagnosis Hemorrhagic Events Are Strongly Associated With Poor Survival in Patients With Essential Thrombocythemia	eJHaem 6(4)	2025年8月
20)	Nakagawa T, Ogawa K, Fujita K, Miki M, Ito A, Namkoong H, Hasegawa N, Asakura T, Morimoto K, Kita T, Watanabe A, Tsuyuguchi K, Kawashima M, Shiozawa A, Watanabe S, Sato A, Kato T, Kimizuka Y, Harada H, Saito AM, Hashimoto H, Inoue Y	Intermittent versus Daily Therapy for Noncavitary Mycobacterium avium Complex Pulmonary Disease An Open-Label Randomized Trial	Ann Am Thoracic Soc 22(8)	2025年8月
21)	Suzukawa M, Ohta K, Tashimo H, Narumoto O, Kobayashi N, Hashimoto H, Saito AM, Kita T, Takato H, Nagase H, Kobayashi K, Yamaguchi M, Abe M, Ito R, Endo T, Yanai H, Chibana K, Hizawa N, Tanimoto Y, Takagi K, Oguma T, Harada N, Sagara H, Kato A, Takata S, Komase Y, Hyodo K, Matsunaga K, Tsujino K, Niimi A, Wakamatsu K	High Serum TSLP Is Characteristic of Late-Onset, Long-Duration, Eosinophilic Asthma	Allergy	2025年10月
22)	Sakamoto K, Yanagisawa R, Nakazawa Y, Ono R, Doi T, Kanegane H, Morimoto A, Shioda Y, Negishi T, Kada A, Saito AM	Risk-Stratified Phase II Clinical Trial for Epstein-Barr Virus-Associated Hemophagocytic Lymphohistiocytosis in Pediatric, Adolescent, and Young Adult Patients in Japan	Pediatr Blood Cancer 73(2)	2026年2月

23)	Sakaguchi H, Sakaguchi K, Kato I, Noma H, Hiramatsu H, Ishida H, Yabe H, Goto H, Kawahara Y, Yamashita YI, Sanada M, Deguchi T, Takahashi Y, Saito AM, Takagi M, Okuno K, Taga T, Horibe K, Okamoto Y, Koh K, Manabe A, Umeda K	Post-transplant maintenance with blinatumomab for children, adolescents, and young adults with relapsed and refractory B-cell acute lymphoblastic leukemia: results of phase I in SCT-ALL-BLIN21	Haematologica 111(1): 329-334	2026年1月

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月（場所）
1)	堀部敬三	AYAがん患者・サバイバーを対象とした研究の進め方:質の高い研究とは？	第6回AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会	2024/5/12（東京）
2)	Ozeki M, Hayashi D, Nozawa A, Yasue S, Endo S, Asada R, Hashimoto H, Kato M, Maekawa T, Fumino S, Kawakubo N, Fujino A, Tajiri T, Ohnishi H.	Sirolimus treatment for complex vascular anomalies: an open-label, single-arm, multicenter, prospective study (SRL-CVA01)	第67回日本小児血液・がん学会学術集会	2025.11（福岡）
3)	Kato I, Kobushi H, Kawahara Y, Hashimoto H, Saito AM, Yamamoto S, Toyoda H, Goto H.	小児AYA再発難治性ALLに対する低強度前治療によるブリナツモマブと包括的バイオマーカー探索解析（ALL R19-Blin初回報告） / Novel low-intensity reinduction with blinatumomab for Ped/AYA R/R ALL integrated with omics analysis to discover predictive biomarkers	第67回日本小児血液・がん学会学術集会	2025.11（福岡）
4)	中谷 有貴、橋本 大哉、後藤 康洋、山田 忠明、木村 智樹、三浦 理、安井 裕智、山本 信之、坂 英雄、近藤 征史、小暮 啓人	PD-L1< 50%の高齢者非扁平上皮非小細胞肺癌に対するペムブロリズマブ＋ペメトレキセド療法の肺臓炎の検討	第66回日本肺癌学会学術集会	2025.11（東京）
5)	堀 大紀, 小林 良二, 中澤 温子, 岩淵 英人, 藤田 直人, 三井 哲夫, 古賀 友紀, 森 健, 深野 玲司, 大木 健太郎, 亀井 美智, 森 鉄也, 田中 真己人, 森谷 邦彦, 田尾 佳代子, 嘉田 晃子, 関水 匡大, 日本小児がん研究グループリンパ腫委員会	小児高悪性度成熟B細胞性リンパ腫に関する後方視的観察研究	第87回 日本血液学会学術集会	2025.10(神戸)
6)	Kogure Y, Hashimoto H, Daga H, Goto Y, Yamada T, Kimura T, Miura S, Yasui H, Yamamoto N, Saka H, Kondo M.	Survival Impact of Pneumonitis in Older Patients with Non-squamous NSCLC Treated with Pembrolizumab and Pemetrexed: Insights fromCJLSG1901	2025 World Conference on Lung Cancer	2025.9 (Barcelona)

7)	Hashimoto H, Kada A.	Corrections of confidence interval for differences in restricted mean survival times in clinical trials with small sample sizes	The 46th Annual Conference of the International Society for Clinical Biostatistics	2025.8 (Basel)
8)	西原 諒，利重 裕子，水島 広子，近藤 真前，伊藤 嘉規，橋本 大哉，岡崎 純弥，岡見 拓哉，明智 龍男	国内における死別関連うつ病に対する対人関係療法のパイロット研究	第22回日本うつ病学会総会	2025.7 （東京）
9)	松村 剛、滝澤 歩武、吉岡 和香子、森 まどか、斎藤 良彦、橋本 大哉、西野 一三、中村 治雅	邦顔面肩甲上腕型筋ジストロフィーの特徴－患者登録データの国際比較－	第66回日本神経学会学術大会	2025.5 （大阪）
10)	長谷川　真奈美	治験･臨床研究の院内啓発活動　～院長表彰による意識醸成の取り組み～	第25回 CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2025 in 大宮	2025/9 （大宮）
11)	鶴田　優子	逸脱報告書の分析とプロセス管理シート雛型改訂の評価	第25回 CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2025 in 大宮	2025/9 （大宮）
12)	平島 学	集中講座参加メンバーによる多施設共同研究～おくすり問診票の有用性評価に関する研究～	第46回日本臨床薬理学会学術総会	2025/12 （東京）
13)	平島 学	使用成績調査を取り巻く現状と課題～企業・医療機関および一般市民を対象とした実態調査と今後の方向性～	日本臨床試験学会第17回学術集会総会	2026/2 （神戸）

臨床研究事業部

【論文】

	著者	題目	掲載誌 巻（号）：頁	発行年月
1)	永井 かおり，山本 松雄，齋藤 明子，齋藤 俊樹	小児白血病診断に関連するCDISC統制用語の変更に関する分析	日本臨床試験学会誌	2025年7月
2)	Matsumura T, Fukudome T, Motoyoshi Y, Nakamura A, Kuru S, Segawa K, Kitao R, Watanabe C, Tamura T, Takahashi T, Hashimoto H, Sekimizu M, Saito AM, Asakura M, Kimura K, Iwata Y	Efficacy of tranilast in preventing exacerbating cardiac function and death from heart failure in muscular dystrophy patients with advanced-stage heart failure: a single-arm, open-label, multicenter study	Orphanet J Rare Dis 20(1)	2025年1月
3)	Shimokawahara H, Miyagi A, Matsubara H, Nishizaki M, Inami T, Kikuchi H, Goda A, Kubota K, Miyanaga S, Taniguchi Y, Hashimoto H, Saito AM, Sekimizu M	Effect of riociguat on exercise following balloon pulmonary angioplasty in patients with inoperable chronic thromboembolic pulmonary hypertension in Japan (THERAPY-HYBRID-BPA): a multicentre, double-blind, randomised, controlled, phase 4 trial	Lancet Respir Med 13(9)	2025年9月
4)	Mori T, Kada A, Saito AM, Osumi T, Tomizawa D, Koga Y, Fukano R, Takeuchi K, Tateishi U, Miyazaki O, Asada R, Fukuhara K, Sekimizu M	Phase 1/2 Study of Crizotinib in Children With Relapsed/Refractory ALK-Positive Anaplastic Large Cell Lymphoma or Neuroblastoma in Japan	Cancer Sci 117(3)	2026年3月
5)	Kaori Nagai, Noriko Ito, Yuya Ikeda, Toshiki I Saito	Current Status, Challenges, and Opportunities Associated With Implementing Clinical Data Interchange Standards Consortium Standards in Japanese Academic Medical Centers: Cross-Sectional Survey	JMIR Medical Informatics	2026年3月
6)	Sekimizu M, Watanabe T, Fukushima H, Koh K, Yuza Y, Takeshima Y, Watanabe H, Anan T, Mori T, Mori T, Kobayashi R, Nakazawa A, Ohshima K, Saito AM, Takimoto T, Tsurusawa M, Horibe K, Sunami S	Localized Lymphoblastic Lymphoma in Children and Adolescents: Results of the LLB-NHL03 Trial-A Report From the Japan Children's Cancer Group	Pediatr Blood Cancer 72(5)	2025年5月

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月（場所）
1)	齋藤　俊樹	JASPEHRにおけるCDISC標準実装の検討	第45回医療情報学連合大会（第26回日本医療情報学会学術集会）	2025年11月（アクリエひめじ）
2)	米島 麻三子	臨床試験進行中におけるSDTM形式での部分的データ固定の運用プロセスの検討	日本臨床試験学会第 17 回学術集会総会	2026年2月（神戸国際会議場）
3)	生越　由枝	プロトコル改訂要因の比較分析とデータマネジメントによる削減方策の検討	日本臨床試験学会第 17 回学術集会総会	2026年2月（神戸国際会議場）

先端医療研究部

【論文】

（診療部業績と重複を除く）

	著者	題目	掲載誌　巻（号）：頁	発行年月
1)	Ohmachi K, Kinoshita T, Maruyama D, Machida R, Sano Y, Yamauchi N, Fukuhara N, Uchida T, Yamamoto K, Miyazaki K, Tsukamoto N, Iida S, Yoshida I, Imaizumi Y, Suzuki Y, Yoshida S, Masaki Y, Murayama T, Yakushijin Y, Suehiro Y, Nosaka K, Dobashi N, Kuroda J, Takamatsu Y, Munakata W, Ando K, Ishizawa K, Ogura M, Yoshino T, Hotta T, Tsukasaki K, Tobinai K, Nagai H.	Final results of JCOG0601 randomized trial of R-CHOP versus CHOP combined with dose-dense rituximab for diffuse large B-cell lymphoma.	Jpn J Clin Oncol. 3;55(12):1357-1364.	2025 Dec
2)	Nakashima T, Suzuki T, Machida R, Shimada K, Kobayashi T, Maruyama D, Munakata W, Iida S, Ohmachi K, Kinoshita T, Ando K, Nagai H.	Prognostic impact of RDI of vincristine in patients with DLBCL receiving R-CHOP: a supplementary analysis of JCOG0601.	Blood Neoplasia. 16;2(2):100077. doi: 10.1016/j.bneo.2025.100077.	2025 Feb eCollection 2025 May.
3)	Sano Y, Miyazaki K, Yamaguchi M, Taguchi S, Machida R, Kawabata K, Fukuda H, Shimada K, Nagai H, Munakata W, Maruyama D; Japan Clinical Oncology Group Lymphoma Study Group.	Protocol digest of a randomized phase III study of pola-R-CHP/high-dose methotrexate/IT vs. pola-R-CHP/IT for newly diagnosed diffuse large B-cell lymphoma with high risk of central nervous system relapse: JCOG2201 (PREMIER).	Jpn J Clin Oncol. 13;56(3):358-363.	2026 Mar
4)	Fujimoto A, Munakata W, Ogawa G, Machida R, Suzuki T, Shimada K, Kobayashi T, Ohmachi K, Kinoshita T, Ando K, Maruyama D, Nagai H.	Impact of Achieving Progression-Free Survival 24 on Subsequent Overall Survival in Diffuse Large B-Cell Lymphoma Patients.	Cancer Sci. 117(3):769-776. doi: 10.1111/cas.70304.	2026 Mar Epub 2025 Dec 19.
5)	Izutsu K, Kumode T, Yuda J, Nagai H, Mishima Y, Suehiro Y, Yamamoto K, Fujisaki T, Ishitsuka K, Ishizawa K, Ikezoe T, Nishikori M, Akahane D, Fujita J, Jafarinasabian P, Soong D, D'Angelo Månsson B, Takahashi A, Favaro E, Fukuhara N.	Efficacy and safety of epcoritamab in Japanese patients with relapsed or refractory diffuse large B-cell lymphoma: 3-year follow-up from the EPCORE NHL-3 trial.	Int J Clin Oncol. 30(8):1631-1640.	2025 Aug
6)	Wang M, Salek D, Belada D, Song Y, Jurczak W, Kahl BS, Paludo J, Chu MP, Kryachok I, Fogliatto L, Cheah CY, Morawska M, Sancho JM, Li Y, Patti C, Forsyth C, Zhang J, Lesley R, Ramadan S, Rule S, Dreyling M; ECHO investigators; ECHO Investigators.	Acalabrutinib Plus Bendamustine-Rituximab in Untreated Mantle Cell Lymphoma.	J Clin Oncol. 10;43(20):2276-2284.	2025 Jul

7)	Hirano D, Iida H, Iwakoshi A, Sunohara A, Suzuki M, Suzuki Y, Imahashi N, Adachi T, Nagai H.	Successful treatment of smoldering multiple myeloma-associated type I cryoglobulinemia with bortezomib and autologous peripheral blood stem cell transplantation.	J Clin Exp Hematop. 28;65(2):121-128.	2025 Jun
8)	Kobayashi T, Ishizawa K, Machida R, Sadachi R, Sasaki K, Kim H, Kataoka K, Munakata W, Fukuhara N, Nagai H; Lymphoma Study Group of the Japan Clinical Oncology Group.	Obinutuzumab maintenance versus observation for patients with newly diagnosed high tumor burden follicular lymphoma who achieved complete metabolic response after obinutuzumab plus bendamustine induction therapy: a multicenter, randomized, phase III study (JCOG2008, MAIN study).	Jpn J Clin Oncol. 5;55(6):666-671.	2025 Jun
9)	Kawamoto N, Murai H, Nogami K, Yamamoto T, Kikkawa T, Yasutomi-Sakai M, Yamamoto-Hanada K, Futamura M, Ohya Y.	Efficacy and safety of systemic targeted therapies for atopic dermatitis in children: A systematic review and meta-analysis.	Allergol Int. 74(3):424-434.	2025 Jul
10)	Saeki H, Ohya Y, Arakawa H, Ichiyama S, Katsunuma T, Katoh N, Tanaka A, Tanizaki H, Tsunemi Y, Nakahara T, Nagao M, Narita M, Hide M, Fujisawa T, Futamura M, Masuda K, Matsubara T, Murota H, Yamamoto-Hanada K, Furuta J	Committee for Clinical Practice Guidelines for the Management of Atopic Dermatitis 2024; Japanese Society of Allergology; Japanese Dermatology Association. Executive summary: Japanese guidelines for atopic dermatitis (ADGL) 2024.	Allergol Int. 74(2):210-221.	2025 Apr
11)	Okata-Karigane U, Hirota M, Takahashi C, Miyagawa A, Ako R, Nakajima S, Futamura M, Yonekura S, Ogawa Y, Inomata T, Ishikawa T, Ito Y, Masaki K, Sato S, Katoh N, Morita H, Adachi T	AI-Based Objective Severity Assessment of Atopic Dermatitis Using Patient Photos in a Real-World Setting: A Digital Biomarker Approach.	Allergy. 80(11):3185-3189.	2025 Nov
12)	Murai H, Kawamoto N, Arima T, Okada Y, Takeuchi H, Miyamoto M, Yamamoto-Hanada K, Futamura M, Saeki H, Ohya Y	New topical molecular targeted therapies for atopic dermatitis in children: A systematic review and meta-analysis.	Pediatr Allergy Immunol. 36(6):e70122.	2025 Jun
13)	Adachi T, Watanabe S, Kuwabara Y, Abe Y, Futamura M, Inomata T, Ito K, Kimura M, Kan-O K, Koguchi-Yoshioka H, Kurashima Y, Masaki K, Matsunaga M, Miki H, Nakajima S, Nakamura Y, Ogawa Y, Oka A, Sakashita M, Sato S, Takahashi K, Tamari M, Tsuda T, Yonekura S, Tamari M, Muto K, Morita H	Exploring Patient and Public Involvement and Engagement in Allergy Research: Cross-Disease and Cross-Stakeholder Perspectives in Japan.	Allergy. 81(3):902-905.	2026 Mar
14)	Nagase H, Harada N, Tezuka J, Futamura M, Nagao M, Takizawa T, Yoshihara S, Nagata M, Niimi A, Yamaguchi M	Consensus definition of clinical remission in asthma for the Japanese asthma prevention and management guidelines (JGL 2024) A modified delphi survey and comprehensive review.	Allergol Int. 75(1):3-14.	2026 Jan

15)	Futamura M, Kang Y, Singh A, Danjo J, Matsuo T, Torisu-Itakura H, Nagao M	Treatment Patterns and Healthcare Utilization on Pediatric Atopic Dermatitis With Allergic Comorbidities: A Japanese Claims-Based Study.	J Dermatol. 53(3):437-446.	2026 Mar
16)	Mori H, Shimomura K, Miyazaki K, Honda K, Shibata A, Sakata M, Futamura M, Tsugawa Y, Murotani K, Mukohara K	Nationwide Implementation of Non-Mandatory Preventive Medicine Programmes in Japanese Municipalities: A Descriptive Cross-Sectional Survey and Evidence-Practice Gap Analysis.	Res Sq [Preprint]. rs.3.rs-9674474.	2026 May 12
17)	服部浩佳	委員会等活動報告～LFS部会～	遺伝子腫瘍学会 ニューレター No.11: 5	2026/3/31
18)	服部浩佳	遺伝性腫瘍への対応	病理と臨床 44巻4号: 0316-0321	2026/3/31
19)	Yamazaki F, Nakano Y, Sanada M, Kurahashi H, Miyai S, Ueki A, Watanabe Y, Hasegawa D, Karakawa S, Ozaki T, Hirasawa A, Saito A, Inoue E, Kato M, Hattori H.	Genotype-Phenotype Correlations of Li-Fraumeni Syndrome in Japan Children's Cancer Group LFS20 Study Cohort.	Cancer Sci. 117(3):836-840. doi: 10.1111/cas.70302. Epub 2025 Dec 29.	2026/3
20)	服部浩佳	Q71. Li-Fraumeni 症候群の遺伝学的検査について教えてください Q72. 遺伝性網膜芽細胞腫の遺伝学的検査について教えてください	小児科×遺伝学 基本からわかる臨床遺伝学・遺伝子検査Q&A 274-280	2026/3/26
21)	Yoshida J, Sugiyama K, Owaki S, Ito T, Yamaguchi Y, Emi R, Sako Y, Satoh M, Ino R, Kato K, Shiraishi K, Shimada M, Hattori H, Kitagawa C.	Case Report: Efficacy of Combined Dabrafenib and Trametinib Therapy in BRAF V600E Mutant Intrahepatic Cholangiocarcinoma with a Neurofibromatosis Type 2 Mutation.	Intern Med. 1;64(21):3107-3110. doi: 10.2169/internalmedicine.5141-24. Epub 2025 Apr 26.	2025/11
22)	服部浩佳	遺伝性腫瘍	小児内科57巻11号1457-1462 ISSN: 0385-6305	2025/11/1
23)	服部浩佳	RB1遺伝学的リスクに基づく網膜芽細胞腫診療の実践	日本遺伝カウンセリング学会誌46巻2号 p.329-334 ISSN 1347-9628	2025/7
24)	服部浩佳	遺伝性がん高危険疾患への対応 Li-Fraumeni症候群	婦人科ゲノム医療233-238 ISBN: 9784787826893	2025/5/8
25)	Imai Y, Kono M, Ishii T, Kojima T, et al	Spacing of a TNF inhibitor or dose reduction of methotrexate vs continued treatment in patients with rheumatoid arthritis in remission or low disease activity: a randomised, controlled trial (SORAIRO trial).	Ann Rheum Dis. 2026 Apr;85(4):609-619. doi: 10.1016/j.ard.2026.02.004. Epub 2026 Feb 28.PMID: 41763966	2026.2
26)	Kaneko Y, Tsujimoto N, Sato I, Kojima T, et al	Patient-Reported Outcomes in Patients with Rheumatoid Arthritis Treated with Baricitinib: A Prospective Observational Study in Japan.	2 Mod Rheumatol. 2026 Mar 21:roag032. doi: 10.1093/mr/roag032. Online ahead of print.PMID: 41863639	2026.3

27)	Hosokawa Y, Yoshida Y, Tamai H, Hirata S, Ikeda K, Miyamoto T, Taguchi H, Kuo CF, Shin K, Izumi K, Kondo Y, Yasuoka H, Kuwana M, Ishii T, Kameda H, Kojima T, et al	Circulating microRNAs associated with tumour necrosis factor or fibloblast-like synoviocyte predict cartilage damage in early rheumatoid arthritis treated with methotrexate plus adalimumab: a subanalysis of the MIRACLE study.	Clin Exp Rheumatol. 2026 Mar;44(3):491-498. doi: 10.55563/clinexprheumatol/keymab. Epub 2025 Sep 19.PMID: 41004307	2025.9
28)	Miyamae T, Okamoto N, Inoue Y, Kubota T, Ebato T, Irabu H, Kameda H, Kaneko Y, Kubo H, Mitsunaga K, Mori M, Nakajima A, Nishimura K, Ohkubo N, Sato T, Sugita Y, Takanashi S, Tanaka T, Umebayashi H, Yashiro M, Yamanishi S, Fusama M, Hirata S, Kishimoto M, Kohno M, Kojima M, Kojima T, et al.	Recommendations for the treatment of juvenile idiopathic arthritis with oligoarthritis or polyarthritis from the 2024 update of the Japan College of Rheumatology Clinical Practice Guidelines for the management of rheumatoid arthritis including juvenile idiopathic arthritis with oligoarthritis or polyarthritis - secondary publication.	Mod Rheumatol. 2025 Sep 2;35(5):894-908. doi: 10.1093/mr/roaf042.PMID: 40459241	2025.9
29)	Harigai M, Kaneko Y, Tanaka E, Hirata S, Kameda H, Kaneko K, Kishimoto M, Kohno M, Kojima M, Kojima T, et al.	2024 Update of the Japan College of Rheumatology Clinical Practice Guidelines for the Management of Rheumatoid Arthritis: Secondary publication.	Mod Rheumatol. 2025 Apr 8;35(3):387-401. doi: 10.1093/mr/roaf006.PMID: 398203506	2025.4
30)	Asai S, Kojima T, et al	Discontinuation vs. continuation of concomitant methotrexate in patients with rheumatoid arthritis on certolizumab pegol: results from a randomised, controlled trial.	Arthritis Res Ther. 2025 Apr 5;27(1):82. doi: 10.1186/s13075-025-03548-1.PMID: 40188084	2025.4
31)	Yamamoto H, Suzuki M, Kojima T, et al.	Evaluation of physical function in rheumatoid arthritis patients by locomotive syndrome stage.	Mod Rheumatol. 2026 Mar 5;36(2):205-210. doi: 10.1093/mr/roaf098.PMID: 412947132	2026.3
32)	Asai S, Terabe K, Hasegawa J, Yoshioka Y, Kato T, Kojima T, et al.	Effects of concomitant methotrexate and predictors of remission in Janus kinase inhibitor therapy for rheumatoid arthritis.	Joint Bone Spine. 2026 Jan;93(1):105961. doi: 10.1016/j.jbspin.2025.105961. Epub 2025 Sep 6.PMID: 40921393	2025.9
33)	Saito Y, Suzuki M, Kojima T, et al.	Features of sarcopenic obesity in rheumatoid arthritis patients.	Geriatr Gerontol Int.2025 Oct;25(10):1323-1331. doi: 10.1111/ggi.70149. Epub 2025 Aug 23.PMID: 40847783	2025.8
34)	Kosugiyama H, Asai S, Terabe K, Kobayakawa T, Yoshioka Y, Watanabe T, Kojima T, et al.	Comparable Clinical Effectiveness of Baricitinib and Filgotinib in Patients With Rheumatoid Arthritis.	Int J Rheum Dis. 2025 May;28(5): e70288. doi: 10.1111/1756-185X.70288.PMID: 40375443	2025.5
35)	Oka S, Higuchi T, Shimada K, Fujimori M, Hashimoto A, Komiya A, Saisho K, Yoshikawa N, Suzuki M, Matsui T, Fukui N, Migita K, Tohma S and Furukawa H	Anti-Porphyromonas gingivalis lipopolysaccharide antibody in rheumatoid arthritis patients with emphysema.	Front. Med. 12:1654271. doi:10.3389/fmed.2025.1654271.	2025.9

36)	Takashi Higuchi1, Shomi Oka1,2, Kota Shimada3,4, Shinichiro Tsunoda5,6, Satoshi Ito7, Misuzu Fujimori8,Tadashi Nakamura9, Michita Suzuki10, Koichiro Saisho11,12, Satoshi Shinohara13, Toshihiro Matsui2,3,Kiyoshi Migita14,15,16, Shouhei Nagaoka17, Shigeto Tohma1,2 and Hiroshi Furukawa1,2	Lengthened telomere length in peripheral blood leukocytes in patients with rheumatoid arthritis complicated with airway disease.	BMC Rheumatology. 2026;10:6. DOI: 10.1186/s41927-025-00605-9.	2025.12

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月 (場所)
2)	Michael Wang, Jonathon Cohen, Nirav Shah, Wojciech Jurczak, Pier Luigi Zinzani, Chan Cheah, Chaitra Ujjani, Youngil Koh, Won Seog Kim, Sunita Dwivedy Nasta, Ian Flinn, Benoit Tessoulin, Shuo Ma, Alvaro Alencar, David Lewis, Jennifer Woyach, Kami Maddocks, Krish Patel, Yucai Wang, Joanna Rhodes, Constantine Tam, John Seymour, Hirokazu Nagai, Julie Vose, Bita Fakhri, Marc Hoffmann, Francisco Hernandez-Ilizaliturri, Andrew Zelenetz, Anita Kumar, Talha Munir, Donald Tsai, Paolo Abada, Minna Balbas, Jian Li, Ying (denise) Wang, Lindsey Roeker, Toby Eyre	Pirtobrutinib in Relapsed/Refractory (R/R) Mantle Cell Lymphoma (MCL): Final update from the Phase 1/2 BRUIN study	American Society of Hematology	2025/12/6 (Orlando, FL)
3)	Tomotaka Suzuki, Ryunosuke Machida, Yusuke Sano, Kazuyuki Shimada, Shinsuke Iida, Nobuhiko Yamauchi, Nobuhiko Nakamura, Hiroshi Handa, Yoshikazu Hori, Yasuhiro Suzuki, Daisuke Ogiya, Keisuke Kataoka, Eiji Negoro, Hiroyuki Takahashi, Junya Kuroda, Junya Makiyama, Ichiro Hanamura, Kaname Miyashita, Satoshi Ito, Hideki Uryu, Shigeru Kusumoto, Masahiro Takeuchi, Yasuhiro Harada, Takahiro Kumode, Ritsuro Suzuki, Isao Yoshida, Naoko Harada, Wataru Munakata, Hirokazu Nagai, Dai Maruyama	Role of bortezomib maintenance therapy in the anti-CD38 antibody era: Interim analysis results of a randomized Phase III study for transplant-ineligible newly diagnosed multiple myeloma (JCOG1911/B-DASH Study)	the 67th ASH Annual Meeting and Exposition	2025/12/6 (Orlando, FL)

4)	Chan Cheah, Manish Patel, Toby Eyre, Wojciech Jurczak, David Lewis, Thomas Gastinne, Shuo Ma, Jonathon Cohen, Krish Patel, Jennifer Brown, Lydia Scarfo, Talha Munir, Ewa Lech-Maranda, Marc Hoffmann, Chaitra Ujjani, Bita Fakhri, Michael Wang, Koji Izutsu, Hirokazu Nagai, Constantine Tam, Joanna Rhodes, Julie Vose, Matthew McKinney, James Gerson, Minal Barve, Bryone Kuss, Youngil Koh, Aisling Barrett, Steven Treon, Jorge Castillo, John Seymour, Amy Ruppert Stark, Samuel McNeely, Richard Walgren, Donald Tsai, Katherine Bao, Binoj Chandrasekharan Nair, Jennifer Woyach, Lia Palomba	Pirtobrutinib in Relapsed/Refractory (R/R) Waldenström macroglobulinemia (WM): Up to 5 years of follow-up from the Phase 1/2 BRUIN study	the 67th ASH Annual Meeting and Exposition	2025/12/7 (Orlando, FL)
5)	蒔田真一、福原規子、丸山大、石澤賢一、佐野裕亮、町田龍之介、棟方理、市川聡、相澤桂子、宮崎香奈、亀岡吉弘、頼晋也、八木悠、高橋直樹、蒸野寿紀、加藤丈晴、宮崎悠里、齋藤統子、島田和之、黒田純也、瓜生英樹、三嶋裕子、高山信之、鈴木康裕、内田俊樹、塚崎邦弘、永井宏和	未治療低腫瘍量濾胞性リンパ腫に対するリツキシマブ療法早期介入に関する第3相試験：JCOG1411	第87回日本血液学会学術集会	2025/10/11 (神戸)
6)	須藤桜子、坂田麻実子、末原泰人、荒隆英、臼杵憲祐、伊豆津宏二、山口素子、福原規子、堺田恵美子、安藤潔、末永孝生、木村哲、永井宏和、丸山大、西本光孝、竹内賢吾、中村直哉、寺内隆司、藤澤学、安部佳亮、福島健一、錦井秀和、金田朋洋、慶野直人、五所正彦、細川博行、橋本幸一、千葉滋	ダサチニブ治療におけるT濾胞ヘルパー細胞リンパ腫のクローン性造血由来微小環境の影響	第87回日本血液学会学術集会	2025/10/11 (神戸)
7)	間瀬暁代、今橋伸彦、谷壮大、平野大希、鈴木康裕、足立達哉、永井宏和、飯田浩充	臍帯血移植におけるレテルモビルの移植成績への影響についての単施設後方視的検討	第87回日本血液学会学術集会	2025/10/11 (神戸)
8)	谷壮大、 今橋伸彦、 間瀬暁代、平野大希、鈴木康裕、足立達哉、飯田浩充、永井宏和	fitAMLに対するVEN+AZA療法の単一施設後方視的解析	第87回日本血液学会学術集会	2025/10/12 (神戸)
9)	磯部泰司、牟田毅、正本庸介、山本豪、倉橋信悟、亀岡吉弘、太田秀一、松木絵里、尾関和貴、外山孝典、高橋直樹、口分田貴裕、青墳信之、吉村卓朗、田村秀人、尾見歩惟、柴山和弘、金子薫、小島研介、瀧澤淳、永井宏和、鈴宮淳司、青木定夫	CLL-Orbit研究におけるイブルチニブを用量調節した患者のpost-hoc解析	第87回日本血液学会学術集会	2025/10/12 (神戸)

10)	平野大希、倉光俊一郎、谷壮太、鈴木康裕、今橋伸彦、足立達哉、飯田浩充、永井宏和	当施設における再発難治性の中枢神経系原発びまん性大細胞型B細胞リンパ腫（PCNSL）に対するチラブルチニブ9例の後方視的検討	第65回日本リンパ腫学会学術集会・総会	2025/7/5 （名古屋）
11)	Dai Maruyama, Noriko Fukuhara, Kenichi Ishizawa, Yusuke Sano, Ryunosuke Machida, Shinichi Makita, Wataru Munakata, Shuichi Ota, Motoshi Ichikawa, Eiju Negoro, Tohru Murayama, Ritsuro Suzuki, Isao Yoshida, Hiroaki Morimoto, Masahito Tokunaga, Ken Ohmachi, Hiroyuki Takahashi, Youko Suehiro, Shinichiro Yoshida, Kisato Nosaka, Toshiro Kawakita, Yasunobu Sekiguchi, Keisuke Kataoka, Satsuki Murakami, Masaki Maruta, Ken Takase, Junya Makiyama, Kenji Ishitsuka, Kunihiro Tsukasaki, Hirokazu Nagai,	Impact of Rituximab Early Administration on Outcomes in Advanced Stage Low Tumor Burden Follicular Lymphoma: Subgroup Analysis of Phase III JCOG1411/FLORA Study	the 42nd International Conference on Machine Learning	2025/6/19 (Vancouver)
12)	服部浩佳	Li-Fraumeni症候群～サーベイランス臨床実装への道～	第13回遺伝性腫瘍研究会	2026/3/28 （岐阜）
13)	服部浩佳	「がん医療について知ろう」がんゲノム医療について知ろう	まちかど保健室	2025/12/26 （名古屋）
14)	市川大輔, 田中 ふみ, 梅原 舞, 関水 匡大, 服部 浩佳, 後藤 雅彦, 二村 昌樹, 堀部 敬三, 藤本 保志, 前田 尚子	多発転移再発をきたした嗅神経芽細胞腫の1例	第67回日本小児血液・がん学会学術集会	2025/11/19-21 （福岡）
15)	Hattori Hiroyoshi, Kubota Toshinobu, Umehara Mai, Tanaka Fumi, Ichikawa Daisuke, Sekimizu Masahiro, Futamura Masaki, Goto Masahiko, Horibe Keizo, Maeda Naoko	片眼性網膜芽細胞腫の3例における視神経および中枢神経浸潤に対する集学的治療(Intensive Multimodality Therapy for Optic Nerve and CNS Invasion in Three Patients with Unilateral Retinoblastoma)	第67回日本小児血液・がん学会学術集会	2025/11/19-21 （福岡）
16)	服部浩佳	「遺伝性腫瘍における予後向上に向けた取り組み」リー・フラウメニ症候群におけるサーベイランス	第63回日本癌治療学会学術集会	2025/10/16 （横浜）
17)	時亜矢子, 大河恵子, 中山安由美, 村上亜李紗, 服部浩佳, 山田真弓, 伊藤由佳	入院中の子どもの付き添いに関する環境実態調査報告	第25回中部小児がんトータルケア研究会	2025/10/4 （金沢）
18)	服部浩佳,久保田敏信,田口育,河合美紀,梅原舞,市川大輔,関水匡大,田中ふみ,二村昌樹,後藤雅彦,堀部敬三,前田尚子	RBI遺伝学的リスクに基づく網膜芽細胞腫診療	第25回中部小児がんトータルケア研究会	2025/10/4 （金沢）
19)	服部浩佳	小児・AYA世代における遺伝性腫瘍サーベイランスの現状と課題	東北小児白血病講演会	2025/9/20 （仙台）
20)	Hiroyoshi Hattori, Toshinobu Kubota, Mai Umehara, Fumi Tanaka, Daisuke Ichikawa, Masahiro Sekimizu, Masaki Futamura, Masahiko Goto, Keizo Horibe, Naoko Maeda	Three Case Reports of Retinoblastoma with Optic Nerve and CNS Invasion Treated with Multimodal Therapy Including Intrathecal and High-Dose Chemotherapy	International Society for Genetic Eye Disease and Retinoblastoma2025 (ISGEDR 2025)	2025/9/11-13 (Oslo)

21)	服部浩佳	RB1遺伝学的リスクに基づく網膜芽細胞腫診療の実践	第49回日本遺伝カウンセリング学会学術集会	2025/8/3 （札幌）
22)	服部浩佳	Li-Fraumeni 症候群におけるサーベイランス臨床研究体制の構築	第31回日本遺伝性腫瘍学会学術集会	2025/6/21 （北九州）
23)	服部浩佳	Li-Fraumeni 症候群におけるサーベイランス-日本での現状と今後の展望	第31回日本遺伝性腫瘍学会学術集会	2025/6/20 （北九州）
24)	鈴木 雄登, 服部 浩佳, 市川 大輔, 関水 匡大, 末永 佑佳, 田中 ふみ, 二村 昌樹, 後藤 雅彦, 堀部 敬三, 前田 尚子	ELANE 遺伝子病的バリアントが同定された重症先天性好中球減少症の 1 例	第14回日本血液学会東海地方会	2025/5/11 （静岡）

感染・免疫研究部

【論文】

	著者	題目	掲載誌　巻（号）：頁	発行年月
1)	Yasumasa Iwatani, Kazuhiro Matsuoka, Hirotaka Ode, Mai Kubota, Yoshihiro Nakata, Yuka Setoyama, Kanako Kojima, Mayumi Imahashi, Yoshiyuki Yokomaku	The unique structure of the highly conserved PPLP region in HIV-1 Vif is critical for the formation of APOBEC3 recognition interfaces.	mBio 12;16(3):e0333224	2025.5
2)	Eisuke Adachi, Yoshiyuki Yokomaku, Dai Watanabe, Hiroyuki Gatanaga, Shinichi Oka, Takuma Shirasaka, Rumi Wakatabe, Nadine Chamay, Kenneth Sutton, Denise Sutherland-Phillips, Rimgaile Urbaityte, Ronald D'Amico, Jean van Wyk	Efficacy and safety of switching to long-acting cabotegravir + rilpivirine versus continuing bictegravir/emtricitabine/tenofovir alafenamide in Japanese participants: 12-month results from the phase 3b randomized SOLAR trial.	Journal of Infection and Chemotherapy 31(7):102734	2025.7
3)	Poonam Grover, Megumi Murata, Maureen Kidiga, Sakura Hayashi, Hirotaka Ode, Yasumasa Iwatani, Mayumi Morimoto, Takayoshi Natsume, Akihisa Kaneko, Jun-Ichirou Yasunaga, Masao Matsuoka, Madoka Kuramitsu, Yohei Seki, Takuo Mizukami, Hirofumi Akari	Identification of Natural Remission of Mother-to-Child Retroviral Transmission.	J Infect Dis 30;232(1):203-211	2025.7
4)	Katarzyna A Skorupka, Kazuhiro Matsuoka, Bakar Hassan, Rodolfo Ghirlando, Vanivilasini Balachandran, Ting-Hua Chen, Kylie J Walters, Celia A Schiffer, Matthias Wolf, Yasumasa Iwatani, Hiroshi Matsuo	HIV-1 vif mediates ubiquitination of the proximal protomer in the APOBEC3H dimer to induce degradation.	Nat Commun 1;16(1):5879	2025.7
5)	重見麗, 松田昌和, 大出裕高, 山村喜美, 今橋真弓, 横幕能行, 岩谷靖雅	ナノポアシーケンサーによる HIV-1 近全長遺伝子配列の決定と薬剤耐性検査	日本エイズ学会誌 27(3):166-174	2025.8
6)	Maureen Kidiga, Megumi Murata, Poonam Grover, Hirotaka Ode, Yasumasa Iwatani, Yohei Seki, Madoka Kuramitsu, Mayumi Morimoto, Takayoshi Natsume, Akihisa Kaneko, Sakura Hayashi, Jun-Ichirou Yasunaga, Masao Matsuoka, Takuo Mizukami, Hirofumi Akari	Identification of Occult Simian T-Cell Leukemia Virus Type 1 Infection in Japanese Macaques	J Infect Dis 14;232(2):510-518	2025.8
7)	Adam O. Hill, Noriyo Kaneko, Natalie Amos, Adam Bourne, Mayumi Imahashi, Gregory Armstrong, Stuart Gilmour	High suicidality rates among LGB+ youth in Japan: Demographic and psychosocial correlates.	Journal of Affective Disorders 387:11946	2025.10
8)	Eisuke Adachi, Rumi Minami, Michinori Shirano, Hideta Nakamura, Kazuaki Fukushima, Mayumi Imahashi, Ryoko Sekiya, Yusuke Yoshino, Toshibumi Taniguchi, J-HIV RWD Collaborative Database Team	Evaluation of cabotegravir plus rilpivirine in routine clinical settings in Japan: A multicentre study of efficacy, safety and biomarker dynamics.	HIV Medicine 26(11):1673-1683	2025.11
9)	Eisuke Adachi, Yoshiyuki Yokomaku, Dai Watanabe, Hiroyuki Gatanaga, Shinichi Oka, Takuma Shirasaka, Ronald D'Amico, Kenneth Sutton, Denise Sutherland-Phillips, Jeremy Roberts, John Thornhill, Andrew Murungi, Kimberley Brown	Month 12 outcomes of switching to long-acting cabotegravir + rilpivirine with an oral lead-in versus continuing bictegravir/emtricitabine/tenofovir alafenamide in the Phase 3b randomized SOLAR study.	J Infect Chemother 31(12):102834	2025.12

10)	Andrea Antinori, Yoshiyuki Yokomaku, Hila Elinav, Hüsnü Pullukçu, Joss de Wet, Antonio Antela, Po-Liang Lu, Michael Sabranski, Yeon-Sook Kim, Fabrice Bonnet, Jan den Hollander, Arthur Jackson, Chiaw Yee Choy, Weiping Cai, Fujie Zhang, David Thorpe, Andrea Marongiu, Rebecca Harrison, James Jarrett, Marta Boffito	Quality of Life and Treatment Satisfaction in People with HIV Switching to Bictegravir/Emtricitabine/Tenofovir Alafenamide: Pooled Analysis from Observational Cohort Studies.	Infect Dis Ther 15(1):217-244	2026.1
11)	Chloe Orkin, Rosie Mngqibisa, Juan Diego Velez, Princy Kumar, Dominique L Braun, Andrew Carr, Mark Bloch, Sharon Walmsley, Pablo Tebas, Yoshiyuki Yokomaku, Tracy L Diamond, Beth Jackson, Karen Eves, Anjana Grandhi, Monica Fuszard, Stephanie O Klopfer, Luisa M Stamm, Michelle C Fox, Jason Kim	Switch to fixed-dose doravirine (100 mg) and islatravir (0·25 mg) once daily in virologically suppressed adults with HIV-1 on oral antiretroviral therapy: 48-week results of a phase 3, multicentre, randomised, open-label, non-inferiority trial.	Lancet 7;407(10528):599-610	2026.2

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月（場所）
1)	大出裕高	HIV-1 Capsid 阻害剤 Lenacapavir に対する耐性関連変異に関する研究	第33回日本抗ウイルス療法学会 学術集会・総会	2025.8（東京）
2)	今橋真弓	抗 HIV 治療の Up-to-date ～これまで成し遂げられたこと・今まだ残る課題～	第33回日本抗ウイルス療法学会 学術集会・総会	2025.8（東京）
3)	松田昌和	HIV-1 カプシド変異・遺伝多型の分子疫学的解析	第33回日本抗ウイルス療法学会 学術集会・総会	2025.8（東京）
4)	岩谷靖雅	HIV-1 Vif による APOBEC3H の不活化における構造学的分子基盤	第33回日本抗ウイルス療法学会 学術集会・総会	2025.8（東京）
5)	大出裕高	Nanopore Sequencingを用いたHIV-1ゲノム Intactnessの評価 Assessment of HIV-1 Genome Intactness based on Nanopore Sequencing	第72回日本ウイルス学会学術集会	2025.10（静岡）
6)	松岡和弘	HIV-1 VifによるAPOBEC3H二量体のユビキチン化における決定要因 Major Determinants for HIV-1 Vif-mediated Ubiquitination of the APOBEC3H Homodimer	第72回日本ウイルス学会学術集会	2025.10（静岡）
7)	松田昌和	HIV-1近全長ゲノム配列を活用した分子疫学 Molecular epidemiology surveillance based on near-full-length HIV-1 genome sequences	第72回日本ウイルス学会学術集会	2025.10（静岡）
8)	松岡和弘	HIV-1 Vif による APOBEC3H 二量体の部位特異的ユビキチン化機構の構造学的基盤	第39回日本エイズ学会学術集会・総会 ポスター	2025.12（熊本）
9)	松岡和弘	HIV-1 Vif による APOBEC3H 二量体の部位特異的ユビキチン化機構の構造学的基盤	第39回日本エイズ学会学術集会・総会 ワークショップ	2025.12（熊本）
10)	松田昌和	東海地方において検出された組換え型 HIV-1 遺伝系統の分子疫学的解析	第39回日本エイズ学会学術集会・総会 口演	2025.12（熊本）
11)	大出裕高	Nanopore Sequencing を用いた HIV-1ゲノム翻訳領域でのIntactness 評価	第39回日本エイズ学会学術集会・総会 口演	2025.12（熊本）

12)	今橋真弓	治療失敗から学ぶ長期作用型製剤の適正使用	第39回日本エイズ学会 学術集会・総会 シンポジウム 「治療の手引き」	2025.12 （熊本）
13)	今橋真弓	検査をもっとラクに、もっと身近に： iTesting の取り組みから見えたもの	第39回日本エイズ学会 学術集会・総会 日本エイズ学会 認定講習会	2025.12 （熊本）
14)	松木克仁	薬剤師からみる“こころ”とは	第39回日本エイズ学会 学術集会・総会 シンポジウム 「治療の手引き」	2025.12 （熊本）
15)	松木克仁	HIV 診療の person-centered care における薬剤師の役割 - 病院薬剤師の視点から -	第39回日本エイズ学会 学術集会・総会 共催シンポジウム 3 認定講習会	2025.12 （熊本）
16)	宇佐美雄司	卒後臨床研修歯科医師における HIV/ AIDS に関する認識についての検討	第39回日本エイズ学会 学術集会・総会 口演	2025.12 （熊本）
17)	岩谷靖雅	HIV-1 カプシド領域における non viable変異および補償変異に関する研究	第39回日本エイズ学会 学術集会・総会 ポスター	2025.12 （熊本）
18)	重見麗	東海地方におけるHIV-1新規診断症例の 薬剤耐性関連変異に関する経年的解析	第39回日本エイズ学会 学術集会・総会 ポスター	2025.12 （熊本）

高度診断研究部

【論文】

	著者	題目	掲載誌　巻（号）：頁	発行年月
1)	Noura M, Yasuda T, Kiyoi H, Hayakawa F	Induction of T-Cell Differentiation by KLF4 in T-Cell Acute Lymphoblastic Leukemia Cells Harboring Activating Mutation in NOTCH3	FASEB J. 31;39(10):e70613	2025.5
2)	Kogure Y, Oshikawa-Kumade Y, Fukuhara S, Chiba K, Okada A, Kato M, Nannya Y, Sakata-Yanagimoto M, Ri M, Maeda T, Muramatsu H, Ishikawa T, Sanada M, Ueda Y, Ennishi D, Higashiyama R, Koga D, Shiraishi Y, Izutsu K, Kataoka K.	Development and performance evaluation of a comprehensive genomic profiling assay for hematological malignancies.	臨床血液 66(7):693-704	2025.7
3)	Ueno R,Terasaki A, Imai Y,Kimura Y, Kojima Y, Irie M, Odaira K, Noura M, Okamoto S, Yasuda T, Tsuzuki S, Kiyoi H, Hayakawa F	Two-way inhibition of PAX5 transcriptional activity by PAX5::CBFA2T3	FEBS Open Bio. 15(11):1789-1799	2025.11
4)	Ito M, Murakami Y, Suzuki M, Yasuda T, Takagi N.	VEXAS Syndrome Presenting With Pleuritis	Clin Case Rep.13(12):e71590. doi: 10.1002/ccr3.71590.	2025.12
5)	Takahashi H, Tanaka S, Yuza Y, Iijima-Yamashita Y, Hasegawa D, Moritake H, Terui K, Iwamoto S, Shimada A, Matsubayashi J, Deguchi T, Hashii Y, Kiyokawa N, Miyachi H, Saito AM, Taga T, Adachi S, Tomizawa D	Safety and efficacy of arsenic trioxide in intensification therapy for newly diagnosed childhood acute promyelocytic leukemia: results from the JPLSG AML-P13 study	Int J Hematol. 123(1):113-121	2026.1
6)	Sakaguchi H, Sakaguchi K, Kato I, Noma H, Hiramatsu H, Ishida H, Yabe H, Goto H, Kawahara Y, Yamashita YI, Sanada M, Deguchi T, Takahashi Y, Saito AM, Takagi M, Okuno K, Taga T, Horibe K, Okamoto Y, Koh K, Manabe A, Umeda K.	Post-transplant maintenance with blinatumomab for children, adolescents, and young adults with relapsed and refractory B-cell acute lymphoblastic leukemia: results of phase I in SCT-ALL-BLIN21.	Haematologica. 111(1):329-334.	2026.1

7)	Yamazaki F, Nakano Y, Sanada M, Kurahashi H, Miyai S, Ueki A, Watanabe Y, Hasegawa D, Karakawa S,Ozaki T, Hirasawa A, Saito AM, Inoue E, Kato M, Hattori H	Genotype-Phenotype Correlations of Li-Fraumeni Syndrome in Japan Children's Cancer Group LFS20 Study Cohort	Cancer Sci. 117(3):836-840	2026.3
8)	Naito Y, Yasuda T, Sakihama S, Aiba M, Morichika K, Miyazaki K, Imai H, Masaki A, Tsuyuki T, Shimada S, Yoshimitsu M, Aoyama H, Nakada N, Miyagi T, Tamaki T, Chen BJ, Yuan CT, Fukushima T, Chuang SS, Karube K.	Integrated genetic analyses identified T-cell neoplasms other than adult T-cell leukemia/lymphoma in HTLV-1 carriers	Blood Adv.10(5):1670-1674.	2026.3
9)	広藤 喜章, 高橋 規之, 山尾 天翔, 田代 雅実, 久保 均	診療放射線科学教育における統合型医療情報システム演習環境の構築と教育効果の検証	診療放射線学教育学誌, Vol.13: 19-26	Dec-25
10)	Muramatsu C, Oiwa M, Nishimura R, Kawasaki T	Classification of invasive and non-invasive breast carcinomas with multiscale cross-modal attention modules.	Proc SPIE Medical Imaging	2026/3 in press

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月(場所)
1)	真田　昌	ゲノムからみた造血器腫瘍	第59回日本痛風・尿酸核酸学会総会	2026.2(福井)
2)	真田　昌	がん遺伝子パネルを含めたがんゲノム医療の将来展望～血液と固形～	第84回日本癌学会総会	2025.9(石川)
3)	真田　昌	遺伝子パネル検査を活用した造血器腫瘍診療	第122回近畿血液学地方会	2025.6(大阪)
4)	真田　昌	Standardized MRD assessment in Japan -the JPLSG/JCCG experience-	34th EuroMRD meeting	2025.11(チェコ・ブルノ)
5)	飯島友加	ALL-Ph13のMRD乖離例におけるBCR::ABL1ゲノム切断点MRDの検討	第67回日本小児血液がん学会学術集会	2025.11(福岡)
6)	飯島友加	急性リンパ性白血病におけるNGS-MRDの測定系の確立と臨床導入に向けた検討	AMED革新的がん医療実用化研究事業 令和7年度研究者交流会	2026.6(東京)

7)	広藤 喜章	放射線防護学と医療情報学のシナジー―DRLs2025最適化の新たなアプローチ―	第81回日本放射線技術学会総会学術大会	2025.04（横浜）
8)	広藤 喜章	患者と検者のための放射線遮蔽具使用に必要な知識と注意点	第81回日本放射線技術学会総会学術大会	2025.04（横浜）
9)	広藤 喜章,, 皆川梓, 本元強, 成瀬正理, 稲葉洋平, 山本めぐみ, 松原孝祐	幼児・小児一般撮影における撮影条件の現状と課題―股関節および全脊椎撮影のアンケート結果から―	第81回日本放射線技術学会総会学術大会	2025.04（横浜）
10)	小穴菜緒美, 桜井正児, 河本敦夫, 遠藤登喜子, 中島一毅	当院におけるファントムを用いた体表超音波装置の精度管理	日本乳腺甲状腺超音波医学会　第2回春季大会	2025.05（京都）
11)	森田孝子	Ultrasound, the next level ～ Logical に診る乳腺超音波診断～日常診療での使用経験	第98回日本超音波医学会	2025.05（京都）
12)	森田孝子、須田波子、大岩幹直、林孝子、加藤彩、澤木正孝、遠藤登喜子	当院におけるLuminalタイプの治療と予後	第33回日本乳癌学会学術総会	2025.07（東京）
13)	大岩幹直、西村理恵子、須田　波子、森田孝子、高橋　優子、林孝子、加藤彩、遠藤登喜子	穿刺吸引細胞診にセルブロック法を併用することで乳腺良性病変の診断を確定する	第33回日本乳癌学会学術総会	2025.08（東京）
14)	林孝子、加藤彩、市原周、森田孝子、須田波子、高橋優子、大岩幹直、西村理恵子、岩越朱里、村上善子、佐藤康幸、遠藤登喜子、澤木正孝	乳房温存術を施行し断端全周性検索ポリゴン法により放射線非照射とした浸潤がん164例の臨床病理学的検討	第33回日本乳癌学会学術総会	2025.09（東京）
15)	西川美紀子、佐々実穂、大畑麗子、高野悠子、菊森豊根、森田孝子、増田慎三	当院のマンモグラフィ検診の現状	第33回日本乳癌学会学術総会	2025.10（東京）
16)	広藤 喜章	生殖腺防護の常識を問う － 科学的エビデンスが導く新たな標準ー	第15回東北放射線医療技術学術大会	2025.10（青森）
17)	広藤 喜章	地域医療機関における小児胸部 X 線撮影の線量実態と最適化の課題	第53回日本放射線技術学会秋季学術大会	2025.10（札幌）
18)	広藤喜章, 竹井泰孝, 舛田 隆則, 庄司 友和, 永澤直樹, 福永正明, 松原孝祐, 宮嵜治	Japan DRLs 2020 以降における乳児・小児胸～腹部 CT の線量実態調査	第53回日本放射線技術学会秋季学術大会	2025.10（札幌）

19)	広藤 喜章、馬目葉月、原田崇臣、阿部萌々、須貝虹楊	福島県内における小児胸部X線撮影の被ばく線量実態と最適化に向けた課題	福島県診療放射線技師会学術大会	2025.10（郡山）
20)	山田和幸，伊藤真矢，平井和子，齋政博，新井敏子，西出裕子，小山智美，大岩幹直，丹羽多恵，森田孝子，鈴木昭彦，大貫幸二，遠藤登喜子	マンモグラフィポジショニング評価の検討	第35回日本乳癌検診学会学術総会	2025.11（高知）
21)	大岩幹直	これで納得！総合判定の基本とコツ	第35回日本乳癌検診学会学術総会	2025.11（高知）
22)	遠藤登喜子	マンモグラフィ トモシンセシスの読影及びポジショニングと画質の関係について	第35回日本乳癌検診学会学術総会	2025.11（高知）
23)	森田孝子，須田波子，高橋優子，高田優子，遠藤登喜子	乳腺超音波AI は、役立つツールなのか	第35回日本乳癌検診学会学術総会	2025.11（高知）
24)	篠原範充，森田孝子，尾羽根範員，小穴菜緒美，高橋智里	超音波併用検診に向けた超音波装置の品質管理の必要性とその方法の提案	第35回日本乳癌検診学会学術総会	2025.11（高知）
25)	山口美樹、笠原善郎、安藝史典、宇佐美伸、大村東生、隈浩司、白岩美咲、高橋宏和、辻一郎、角田博子、中嶋啓雄、増田裕行、森田孝子、山口由美	第１５回日本乳癌検診学会　全国集計全国集計報告　2022 年度版	第35回日本乳癌検診学会学術総会	2025.11（高知）
26)	西川美紀子、佐々実穂、大畑麗子、菊森豊根、森田孝子	検診で発見された異時性両側乳がんの４例	第35回日本乳癌検診学会学術総会	2025.11（高知）
27)	遠藤登喜子	匠の講義を聴いてみようIII　石灰化を伴わない病変の読影診断	第35回日本乳癌画像研究会	2026.02（姫路）
28)	森田孝子，遠藤登喜子	症例カンファレンス	第35回日本乳癌画像研究会	2026.02（姫路）
29)	Muramatsu C, Oiwa M, Kawasaki T, Nishimura R, Fujita H	Intrinsic subtype classification of breast cancers on mammograms using local slelctive patches	SPIE Medical Imaging	2026.02（San Diego）
30)	広藤 喜章	生殖腺防護を再考　−撤廃に至る科学的根拠と現場への影響ー	秋田県診療放射線技師会令和7年度 学術セミナー	2026.02（秋田）
31)	広藤 喜章	DRLs 2020→2025 改定のポイントと現場での線量最適化の進め方	宮城県放射線技師会 令和7年度管理士研修会	2026.02（仙台）
32)	村上 善子	IAC Yokohama Systemによって階層化した当院乳癌検体の臨床病理学的検討	第114回日本病理学会総会	2025年4月（宮城県仙台市）

33)	都築 恵美	モノクローナルなB細胞増殖を伴ったため診断に苦慮した皮膚濾胞ヘルパー T細胞リンパ腫の1例	第65回日本リンパ腫学会学術集会・総会（旧・日本リンパ網内系学会学術集会・総会）／第28回日本血液病理研究会	2025年7月（愛知県名古屋市）